

島原市統計ハンドブック

「長崎県及び島原半島における本市の姿」



平成23年1月



島原半島ジオパークキャラクター
「ジーオくん」

島原市



は じ め に

本ハンドブックは、島原市の自然、人口、経済、福祉、教育等各分野にわたる基本的な統計資料を収録し、本市の現状と推移を明らかにするとともに、島原半島3市の比較や、本市が長崎県及び島原半島の中でどのような位置付けにあるのかを把握し、現代的課題を客観的に見つめ直し、今後の市政の推進に役立てようとするものであります。

また、島原市の特色あるデータを収集し、島原の魅力を再確認するとともに、島原を訪れるあらゆる人たちへの情報提供など、幅広く利用できることを目的としております。

使 用 上 の 注 意

計数については、単位未満を四捨五入で表示しているため、総数と内訳の合計が一致しない場合があります。このため、表間においても、数値が一致しない場合がありますのでご注意ください。

目 次

1. 土地、自然	
(1) 島原市の位置	1
(2) 島原市の主な山	1
(3) 島原市の主な河川	1
(4) 島原市の面積	2
(5) 島原市の海岸線	2
2. 人口、世帯	
(1) 島原市の人口、世帯の現状	3
(2) 島原半島及び長崎県の人口及び世帯の現状	5
(3) 産業別就業人口の現状	8
(4) その他の人口に関する資料	12
3. 産業・経済	
(1) 経済活動別総生産	13
(2) 商業統計調査「小売業、卸売業」	15
(3) 工業「製造業」	22
(4) 事業所・企業統計	26
(5) 農業	29
(6) 林業	32
(7) 漁業	33
(8) 産出額等が全国又は県で上位にある農水産物	35
4. 観光	
(1) 観光客数	36
(2) 公共交通機関利用状況	37
(3) 各観光施設の入場者等の状況	38
(4) 文化財の観光客の状況	40
(5) イベント参加者の状況	41
(6) 温泉施設の利用状況	44
(7) 島原の郷土料理、特産品、名品ブランド	46
5. 社会福祉、保健、環境	
(1) 生活保護の状況	49
(2) 保育園・幼稚園の状況	49
(3) 医療の状況	50
(4) ゴミの状況	51

6. 教育、文化	
(1) 小学校の状況	52
(2) 中学校の状況	52
(3) 高等学校の状況	53
(4) 特別支援学校の状況	53
(5) 図書館の状況	53
(6) 文化財の状況	54
7. 市民生活	
(1) 居住、安全	55
(2) 水道	55
(3) 町内会・自治会	56
(4) 島原市の平均寿命等	56
8. 財政	
(1) 歳入、歳出	57
(2) 地方債、積立金	58
(3) 各種指数	60
(4) 平成21年度決算内訳の比較	61
9. 市政の状況	
(1) 国、県の指定状況	63
(2) 今後予定されている大型事業	63
10. 我が町自慢	
(1) 島原市の日本一、日本初など全国ランクで上位に該当するもの	65
(2) 島原市の長崎県一、長崎県初など県ランクで上位に該当するもの	66
(3) その他	66

1. 土地、自然

(1) 島原市の位置

① 島原市の東西南北端点

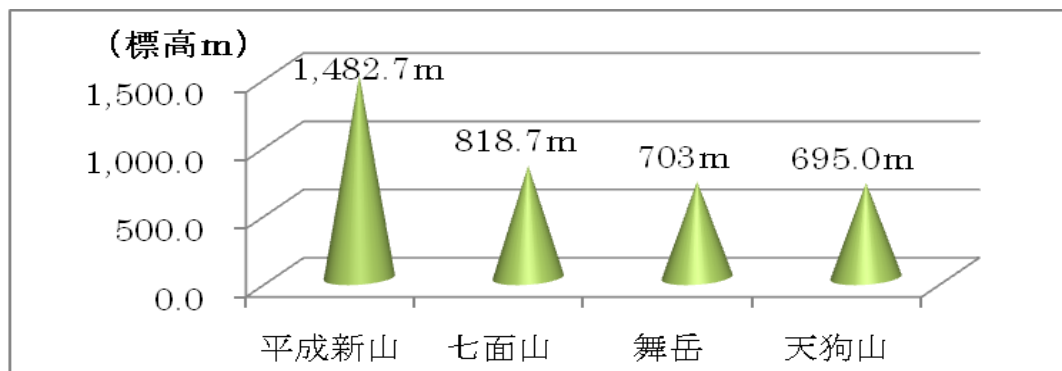
東端	北緯 3 2 度 4 6 分 1 8 秒	東経 1 3 0 度 2 3 分 1 3 秒
西端	北緯 3 2 度 4 6 分 2 1 秒	東経 1 3 0 度 1 6 分 2 3 秒
南端	北緯 3 2 度 4 4 分 1 4 秒	東経 1 3 0 度 2 2 分 2 5 秒
北端	北緯 3 2 度 5 2 分 0 1 秒	東経 1 3 0 度 1 9 分 1 3 秒

② 市役所の位置

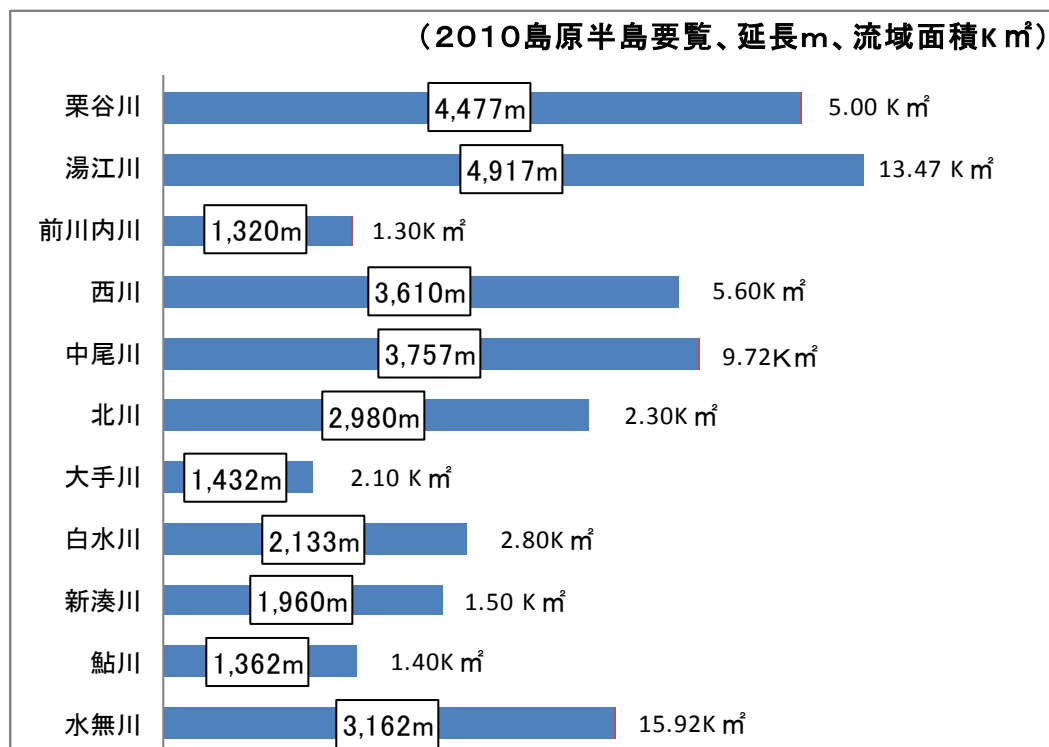
北緯 3 2 度 4 7 分 1 7 秒

東経 1 3 0 度 2 2 分 1 4 秒

(2) 島原市の主な山



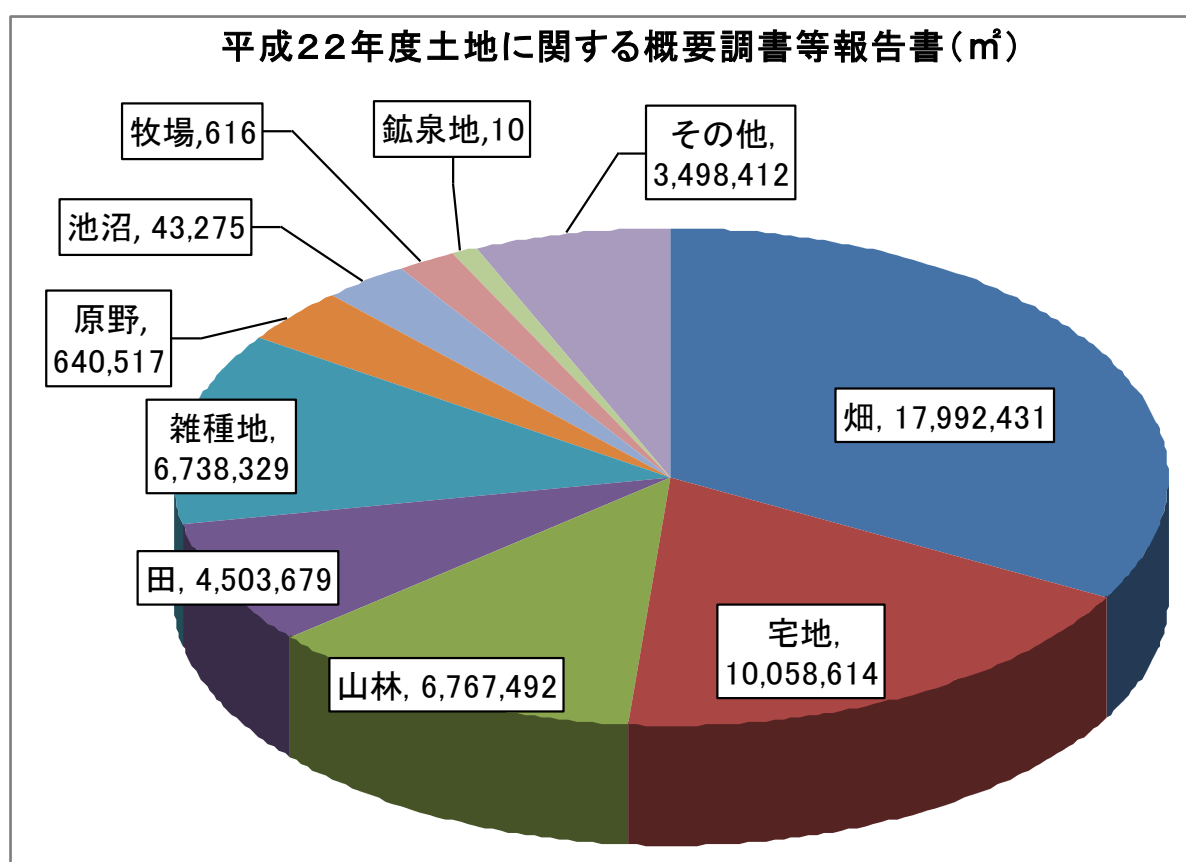
(3) 島原市の主な河川



(4) 島原市の面積「全国都道府県市区町村別面積調（国土地理院公表 H21.10.1現在）」

	面積 (km ²)	島原半島における割合 (%)	長崎県における割合 (%)
島原市	82.78	18.0	2.0
雲仙市	206.92	45.0	5.1
南島原市	169.91	37.0	4.1
島原半島	459.61	100.0	11.2
長崎県	4105.05		

「※参考 島原市の地目別土地面積」



地目別土地面積には、国有林、里道、水路の地積は含まれていない。

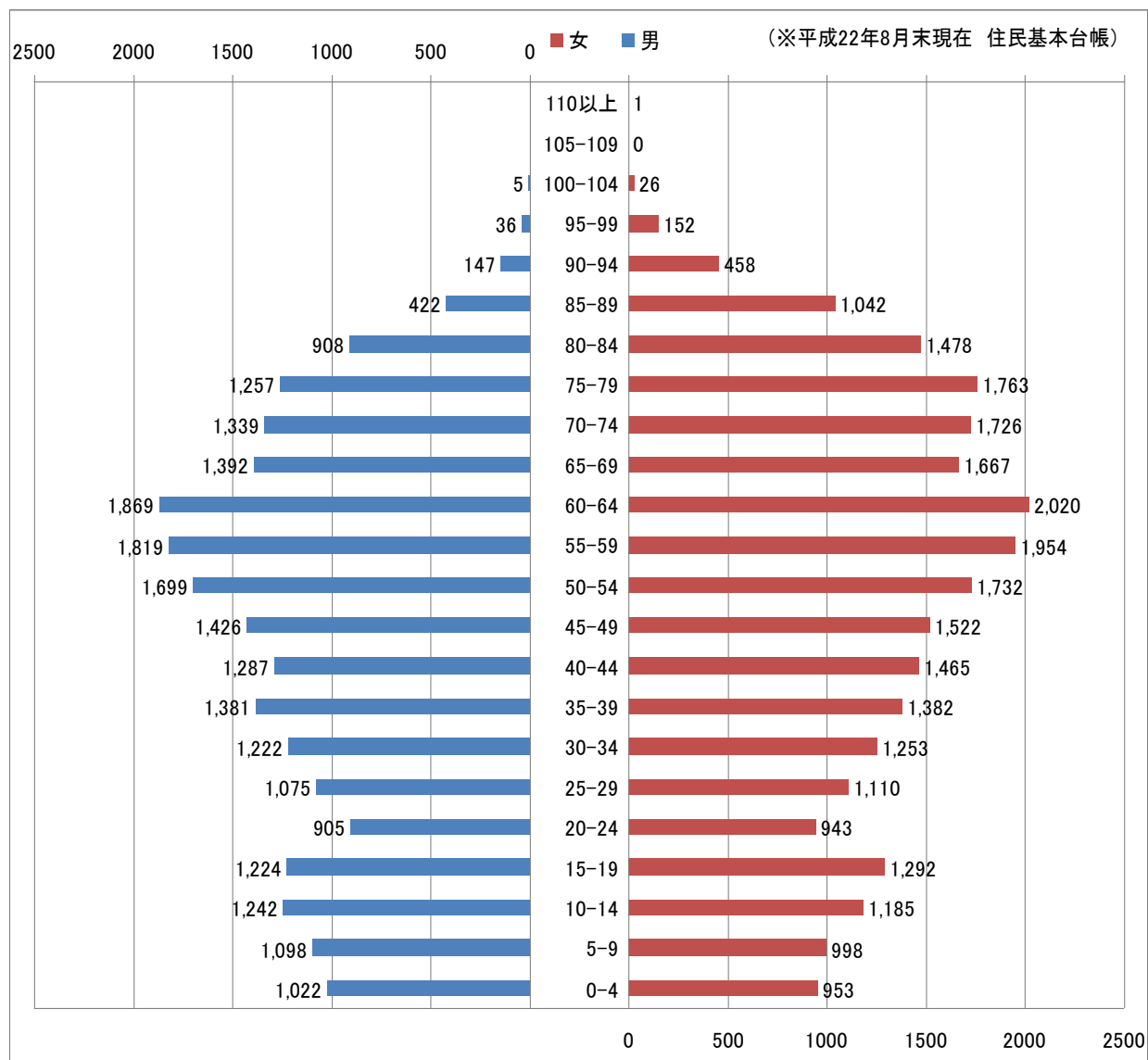
(5) 島原市の海岸線

のべ延長 28,230m

2. 人口、世帯

(1) 島原市の人口、世帯の現状

① 年齢区分ごと男女別人口



年齢区分	人 口
0～19歳	9,014
20～39歳	9,271
40～59歳	12,904
60～79歳	13,033
80～99歳	4,643
100歳以上	32
合 計	48,897

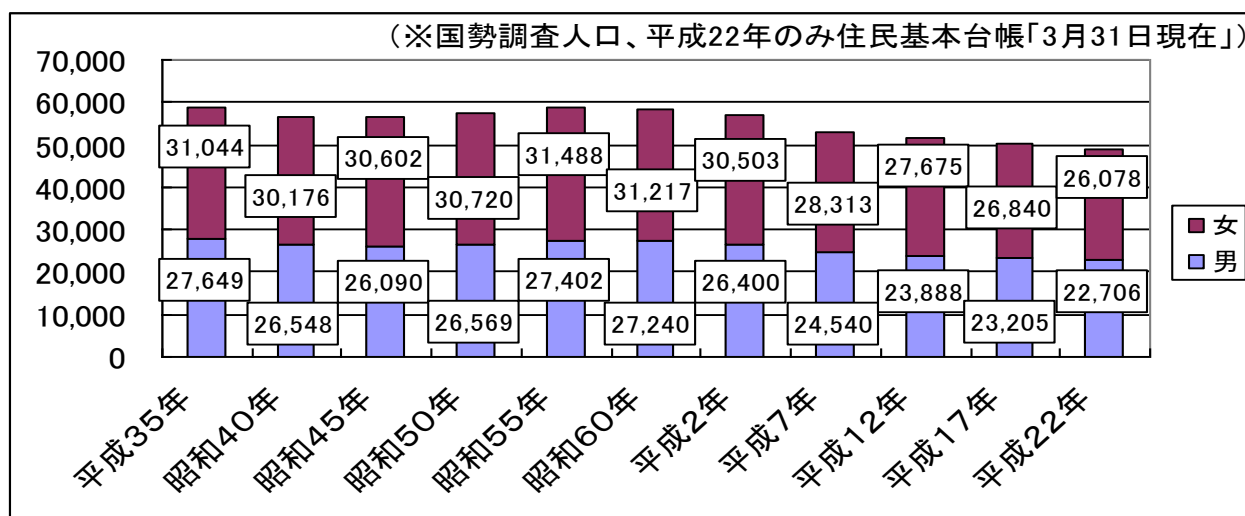
本市の年齢区分ごとの人口は、20年代ごとに区分した場合、60～79歳の人口が一番多く、若くなるに従って少なくなっている。

20～24歳の人口が15～19歳の人口と比較して急に少なくなっているが、高校卒業後の若者の流出が考えられる。

男女で比較した場合、14歳までの年齢区分までは男が多いが、それ以上の年齢区分では女が多くなっている。

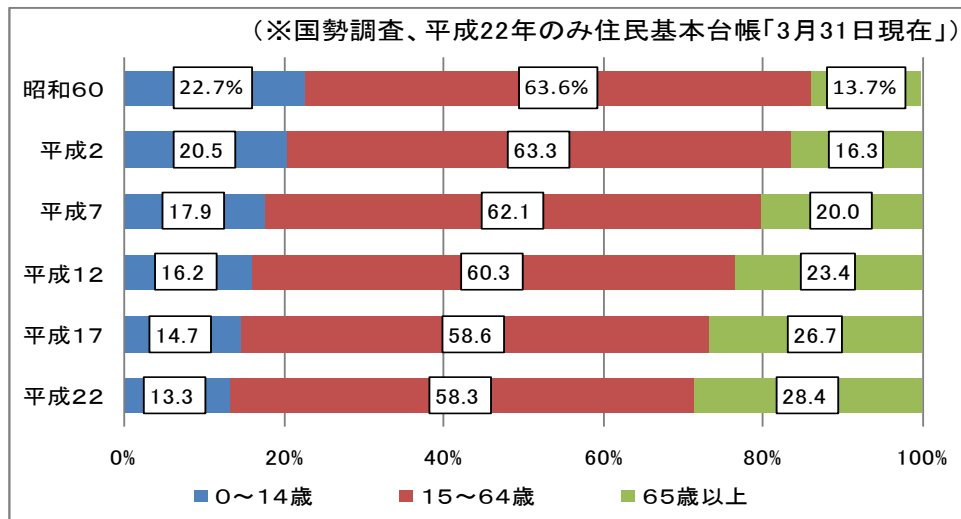
② 男女別人口の推移

(※国勢調査・・・10月1日現在における「人口及び世帯」に関する各種の調査)



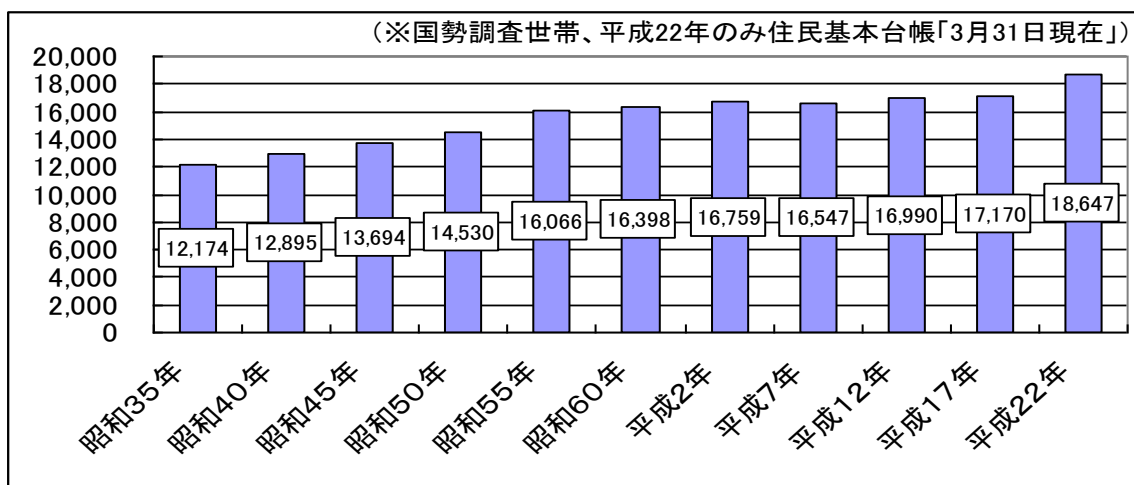
本市の国調人口は、昭和55年（1980年）をピークとして、減少の傾向にある。

③ 年齢区分別人口割合の推移



年齢区分別人口の割合は、0～14歳の人口は急激に減少し、65歳以上の人口は急激に増加している。

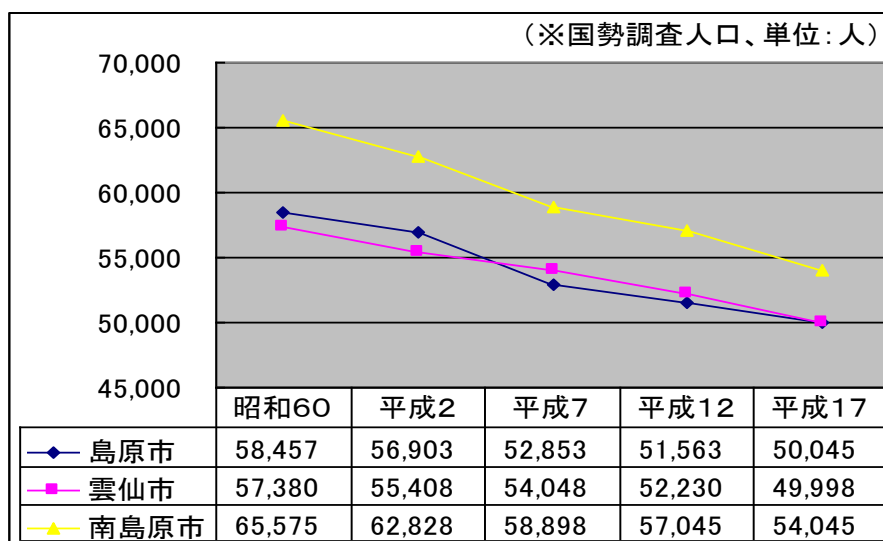
④ 世帯数の推移



世帯数については、人口の減少傾向に関わらず増加の傾向にあり、核家族化が進んでいることがうかがえる。

(2) 島原半島及び長崎県の人口及び世帯の現状

① 島原半島 3 市の総人口の推移



島原半島の人口は、3市とも減少の傾向にある。
※参考 H22.3.31 現在の本市住基人口は 48,784 人

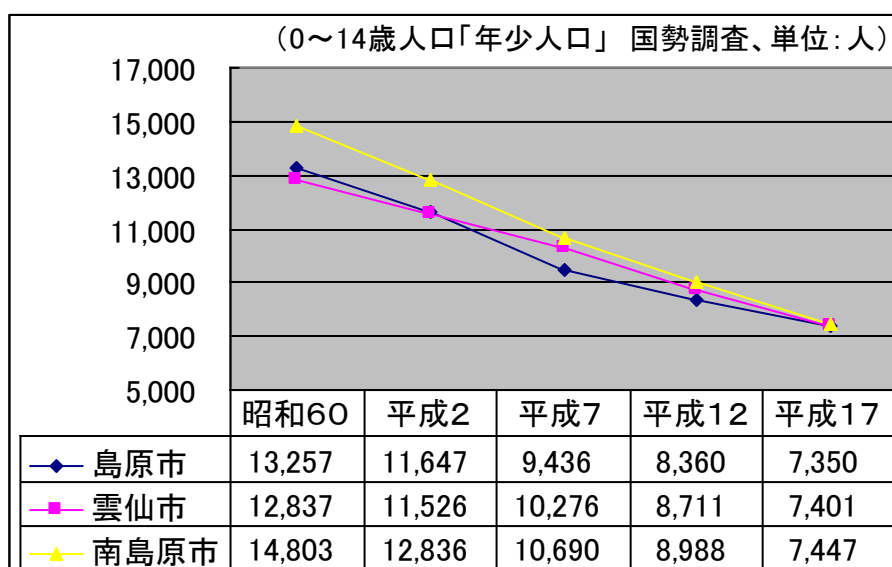
【長崎県及び島原半島における本市総人口の割合】

	昭和60	平成2	平成7	平成12	平成17
長崎県	1,593,968	1,562,959	1,544,934	1,516,523	1,478,632
本市の割合	3.7%	3.6%	3.4%	3.4%	3.4%
島原半島	181,412	175,139	165,799	160,838	154,088
本市の割合	32.2%	32.5%	31.9%	32.1%	32.5%

本市の人口の長崎県における割合は減少の傾向にあるが、島原半島における割合は横ばいの状態である。

② 島原半島 3 市の年齢区分別人口の推移

【0～14歳人口「年少人口」の推移】



0～14歳以下の人口は、3市とも急激に減少しており、昭和60年と平成17年を比較すると、約半数になっている。

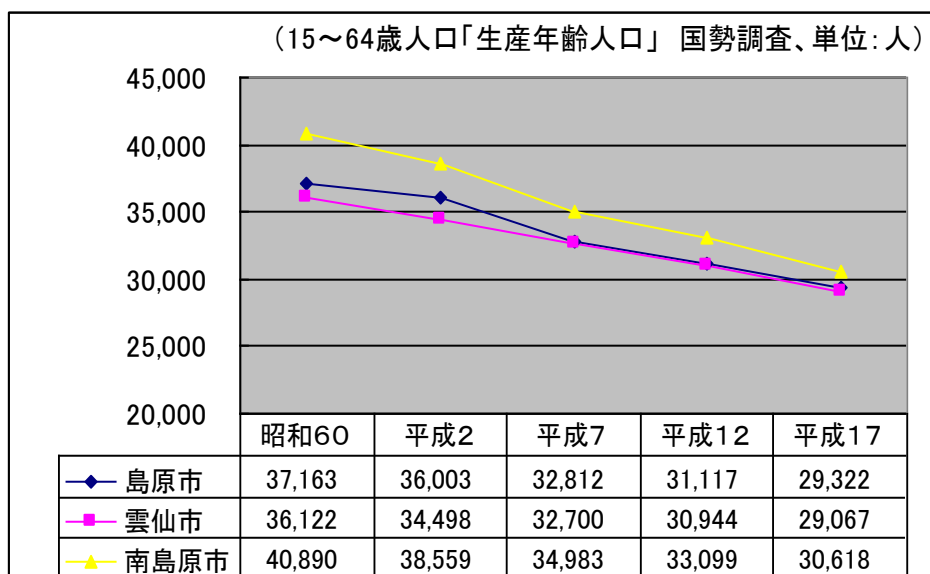
※参考 H22.3.31 現在の0～14歳の本市住基人口は 6,493 人

【長崎県及び島原半島における本市0～14歳人口の割合】

	昭和60	平成2	平成7	平成12	平成17
長崎県	361,823	316,761	277,263	243,046	215,987
本市の割合	3.7%	3.7%	3.4%	3.4%	3.4%
島原半島	40,897	36,009	30,402	26,059	22,198
本市の割合	32.4%	32.3%	31.0%	32.1%	33.1%

本市の0～14歳の人口の長崎県における割合は減少の傾向にあるが、島原半島における割合では、平成7年を境に若干ではあるが増加の傾向にある。

【15～64歳人口「生産年齢人口」の推移】



15歳から64歳の人口は、3市とも減少の傾向にある。

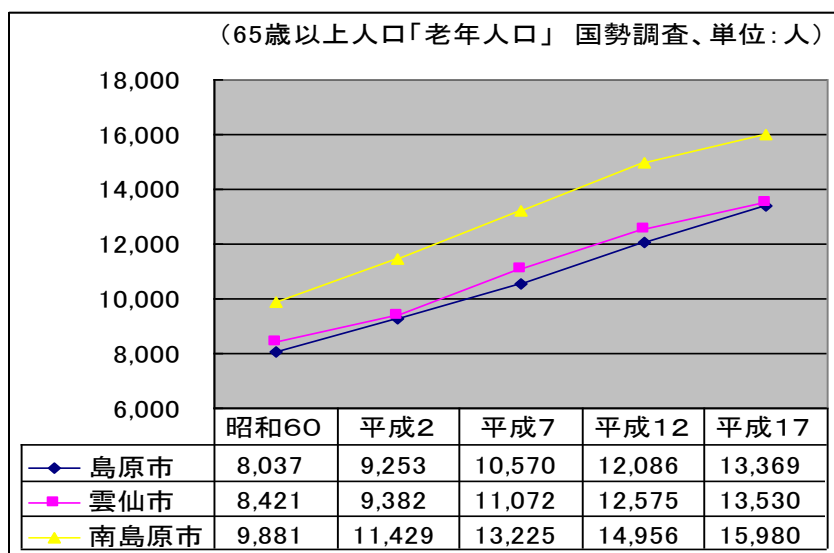
※参考 H22.3.31現在の15～64歳の本市住基人口は28,459人

【長崎県及び島原半島における本市15～64歳人口の割合】

	昭和60	平成2	平成7	平成12	平成17
長崎県	1,038,396	1,016,338	993,783	956,692	913,224
本市の割合	3.6%	3.5%	3.3%	3.3%	3.2%
島原半島	114,175	109,060	100,495	95,160	89,007
本市の割合	32.5%	33.0%	32.7%	32.7%	32.9%

本市の15～64歳の人口の長崎県における割合は減少の傾向にあるが、島原半島における割合は横ばいの状態である。

【65歳以上人口「老年人口」の推移】



65歳以上の人口は、3市とも急激に増加しており、15歳未満の人口が急減しているのに対して、急増の状態となっている。

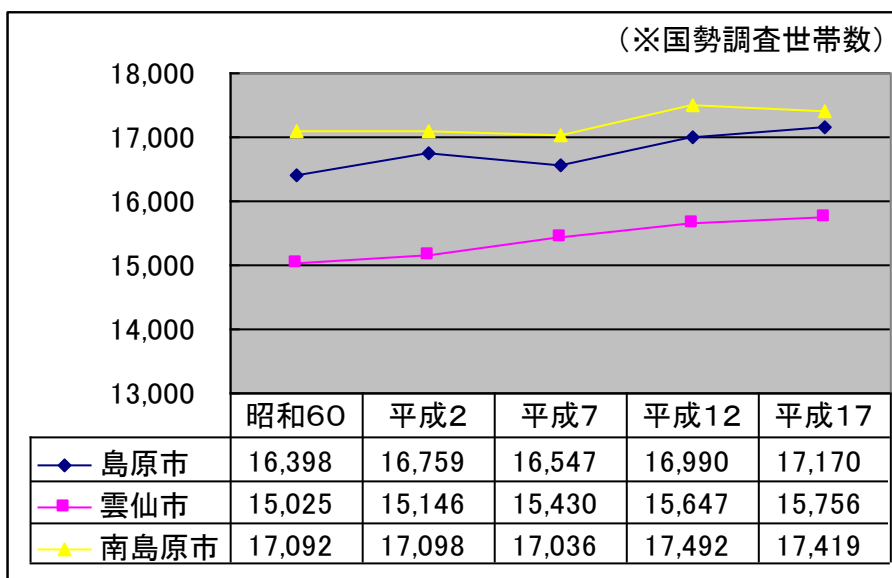
※参考 H22.3.31現在の65歳以上の本市住基人口は13,832人

【長崎県及び島原半島における本市65歳以上人口の割合】

	昭和60	平成2	平成7	平成12	平成17
長崎県	193,605	228,991	273,335	315,871	348,820
本市の割合	4.2%	4.0%	3.9%	3.8%	3.8%
島原半島	26,339	30,064	34,867	39,617	42,879
本市の割合	30.5%	30.8%	30.3%	30.5%	31.2%

本市の65歳以上の人口の長崎県における割合は減少の傾向にあるが、島原半島における割合は、平成7年を境にわずかながら増加の傾向にある。

③ 世帯数の推移



世帯数については、3市ともに総人口が減少傾向にあるにも関わらず、増加傾向にあり、核家族化が進んでいることがうかがえる。

【長崎県及び島原半島における本市世帯数の割合】

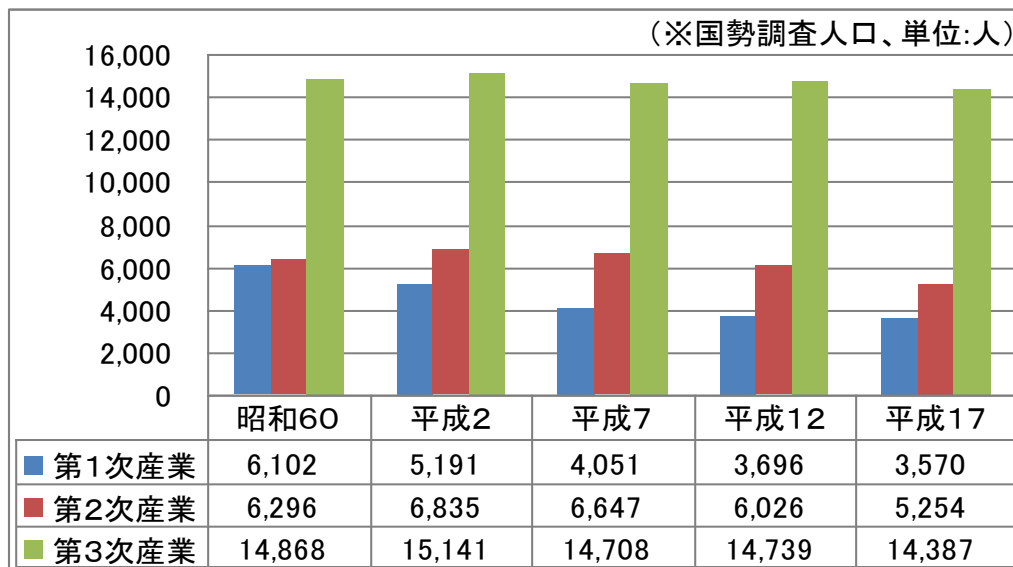
	昭和60	平成2	平成7	平成12	平成17
長崎県	489,492	503,741	529,872	544,878	553,620
本市の割合	3.4%	3.3%	3.1%	3.1%	3.1%
島原半島	48,515	49,003	49,013	50,129	50,345
本市の割合	33.8%	34.2%	33.8%	33.9%	34.1%

本市の世帯数の長崎県における割合は減少の傾向にあるが、島原半島における割合は横ばいの状態である。

(3) 産業別就業人口の現状

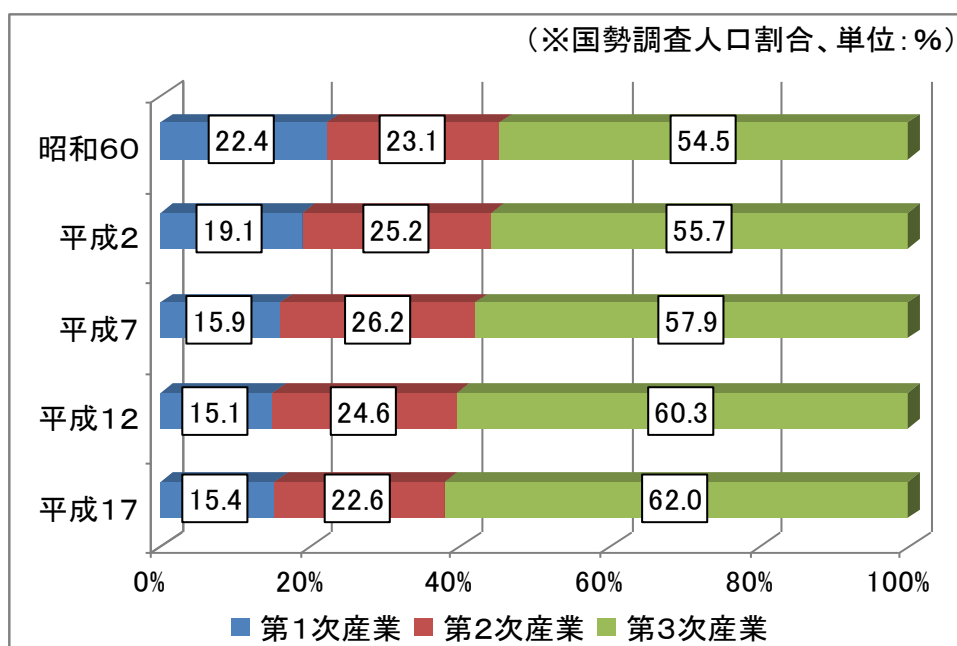
① 島原市の現状

【産業別就業人口の推移】



本市の産業別就業人口は、それぞれ減少傾向にあるが、特に、第1次産業の就業人口が大きく減少している。

【産業別就業人口の割合の推移】



本市の産業別就業人口の構成比は、第1次産業は減少傾向、第2次産業は横ばい、第3次産業は増加の傾向にある。

【産業分類別就業人口の推移（国勢調査）】

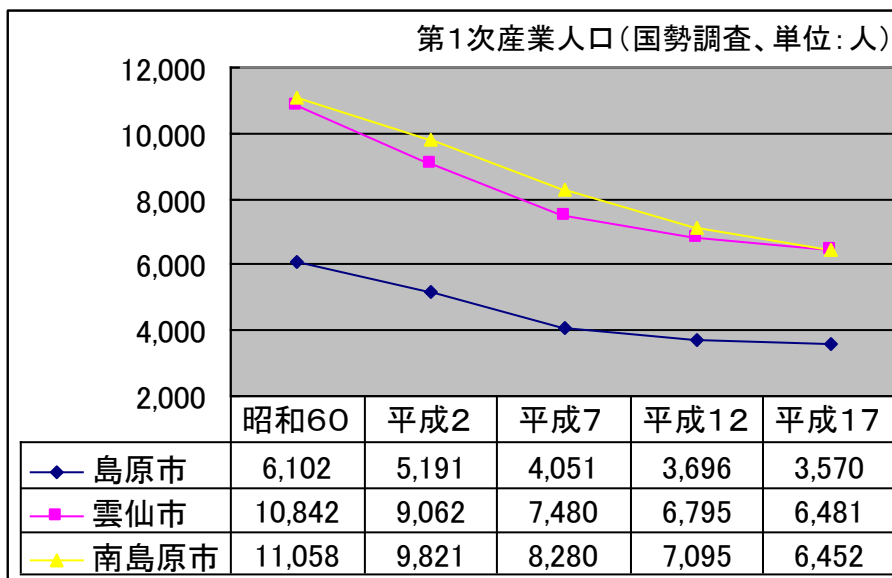
産業分類	昭和60年	平成2年	平成7年	平成12年	平成17年
農業	5,045	4,347	3,371	3,173	3,116
林業	14	23	15	11	13
漁業	1,043	821	665	512	441
第1次産業計	6,102	5,191	4,051	3,696	3,570
鉱業	5	5	4	5	7
建設業	2,323	2,439	2,825	3,037	2,513
製造業	3,968	4,391	3,818	2,984	2,734
第2次産業計	6,296	6,835	6,647	6,026	5,254
電気・ガス・水道	125	112	97	107	78
運輸・通信業	1,394	1,287	1,146	992	800
卸売・小売・飲食業	5,993	5,851	5,543	5,550	5,328
金融保険業	545	598	517	466	407
不動産業	51	62	73	66	68
サービス業	5,786	6,296	6,345	6,663	6,889
公務・その他	974	935	987	895	817
第3次産業計	14,868	15,141	14,708	14,739	14,387

本市の産業分類別の人口は、第1次産業では農業、第2次産業では建設業及び製造業が、第3次産業では卸売・小売・飲食業およびサービス業が多い。

また、農業、漁業、製造業、運輸・通信業が大きく減少しているのに対し、サービス業が増加している。

② 島原半島3市の産業別就業人口の推移

【第1次産業人口】



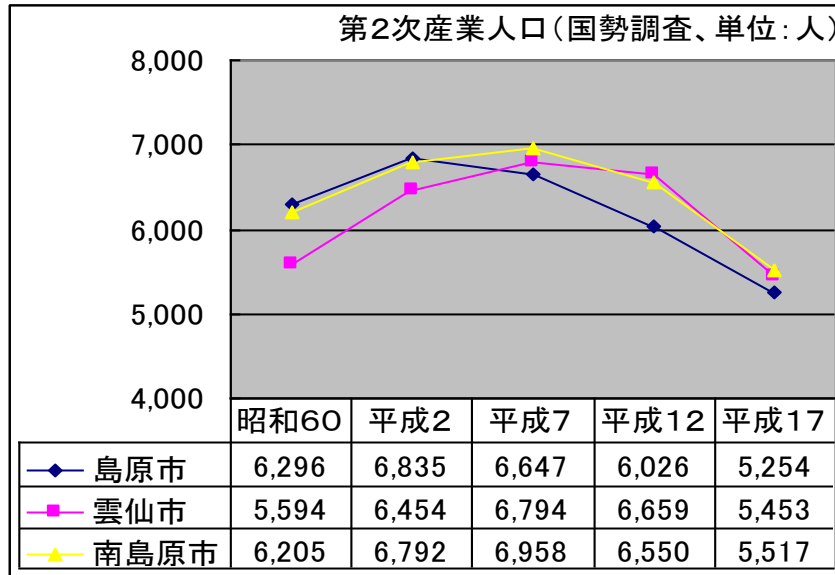
第1次産業人口は、3市とも減少の傾向にある。

【長崎県及び島原半島における本市第1次産業人口の割合】

	昭和60	平成2	平成7	平成12	平成17
長崎県	121,243	96,896	80,544	67,198	62,011
本市の割合	5.0%	5.4%	5.0%	5.5%	5.8%
島原半島	28,002	24,074	19,811	17,586	16,503
本市の割合	21.8%	21.6%	20.4%	21.0%	21.6%

本市の第1次産業人口の長崎県における割合は増加の傾向にあるが、島原半島における割合は横ばいの状態である。

【第2次産業人口】



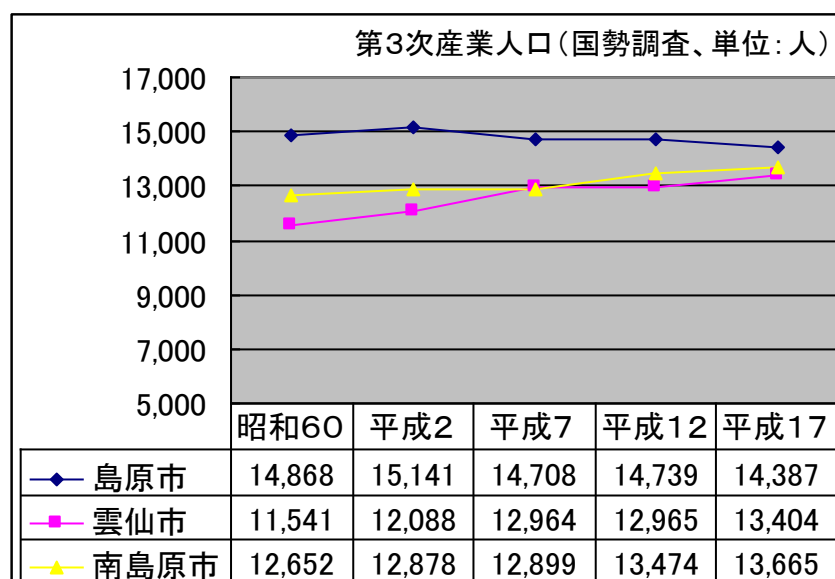
第2次産業人口は、3市とも平成7年以降は減少の傾向にある。

【長崎県及び島原半島における本市第2次産業人口の割合】

	昭和60	平成2	平成7	平成12	平成17
長崎県	163,501	174,147	179,102	165,956	140,390
本市の割合	3.9%	3.9%	3.7%	3.6%	3.7%
島原半島	18,095	20,081	20,399	19,235	16,224
本市の割合	34.8%	34.0%	32.6%	31.3%	32.4%

本市の第2次産業人口の長崎県における割合及び島原半島における割合は、ほぼ横ばいの状態である。

【第3次産業人口】



第3次産業は、島原市は減少の傾向にあるが、雲仙市、南島原市は増加の傾向にある。

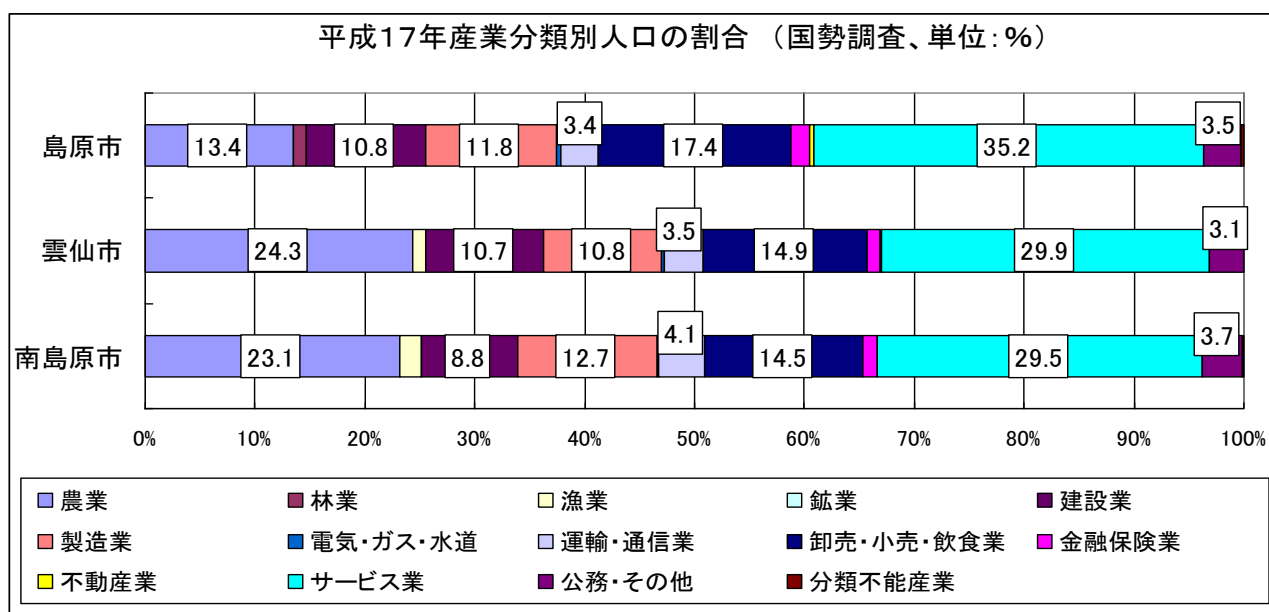
【長崎県及び島原半島における本市第3次産業人口の割合】

	昭和60	平成2	平成7	平成12	平成17
長崎県	415,680	434,701	465,119	466,197	473,801
本市の割合	3.6%	3.5%	3.2%	3.2%	3.0%
島原半島	39,092	40,124	40,596	41,195	41,525
本市の割合	38.1%	37.8%	36.2%	35.8%	34.7%

本市の第3次産業人口の長崎県における割合及び島原半島内における割合とも、若干の減少傾向にある。

③ 産業分類別人口の構成比

【構成比】



産業分類別人口の割合について、主なもののみ数値を掲載。

本市は他の2市と比較して、卸売・小売・飲食業やサービス業の就業人口の割合が高く、農業の就業人口の割合が低いことがうかがえる。

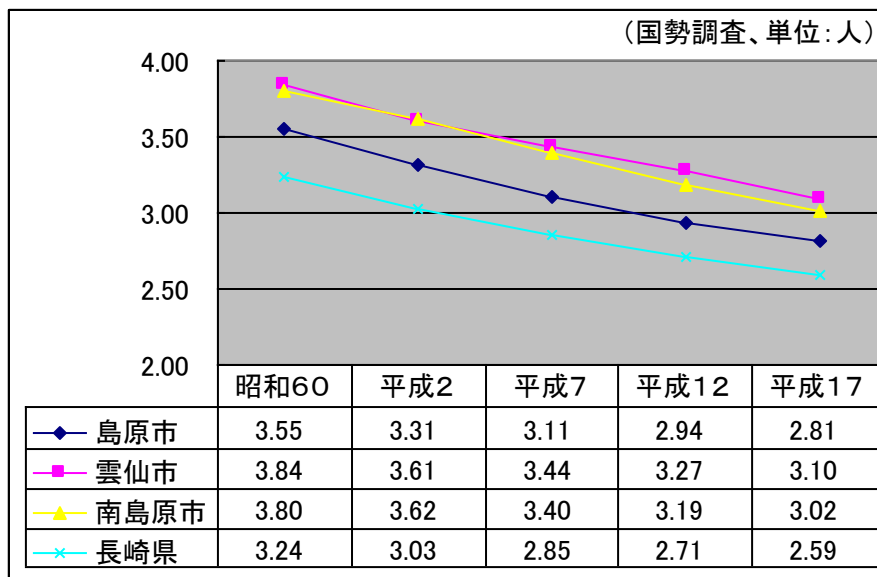
【15歳以上産業分類別人口（平成17年、単位：人）】

項 目	島原市	雲仙市	南島原市
農業	3,116	6,172	5,924
林業	13	9	5
漁業	441	300	523
鉱業	7	7	4
建設業	2,513	2,718	2,247
製造業	2,734	2,728	3,266
電気ガス水道	78	48	28
運輸通信業	800	880	1,040
卸小売業	4,038	3,789	3,732
金融保険業	407	299	314
不動産業	68	26	22
サービス業	8,179	7,575	7,574
公務・その他	817	787	955
分類不能産業	35	12	22
合 計	23,246	25,350	25,656

産業分類別人口で比較すると、本市の場合、島原半島3市の中では、卸小売業、金融保険業、サービス業の就業人口が一番多くなっている。

(4) その他の人口に関する資料

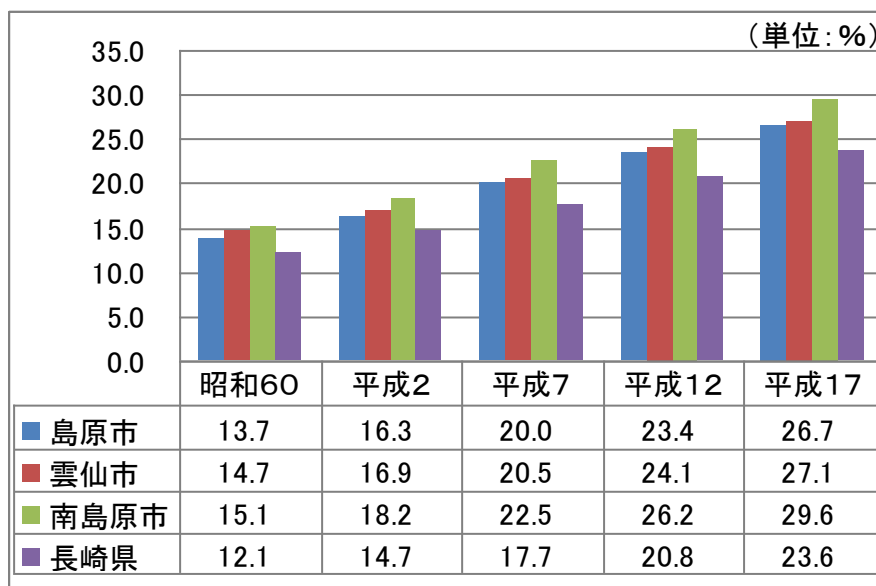
① 一般世帯における1世帯当たり世帯人員の推移



1世帯当たりの世帯人員は、世帯数総数から老人ホームなどの社会施設等を除いた一般世帯の世帯数と人口から算出しているため、(2)-(①人口を(2)-(③世帯数で除した数値とは異なる。

本市においては島原半島の他市と比較すると少なく、県全体と比較すると多くなっている。

② 高齢化率の推移



高齢化率は、3市とも年々高くなっており、島原市は、3市の中では一番低い数値となっている。

また、島原半島3市とも、県全体よりも高い数値となっている。

③ 島原市人口の動態

【自然動態（平成21年度）】

	人数	1日当たり人数	出生率(人口千対)
出生者	370	1.0	7.6
死亡者	575	1.6	11.8

【社会動態（平成21年度）】

	人数	1日当たり人数	出生率(人口千対)
転入者	1,431	3.9	29.3
転出者	1,685	4.6	34.5

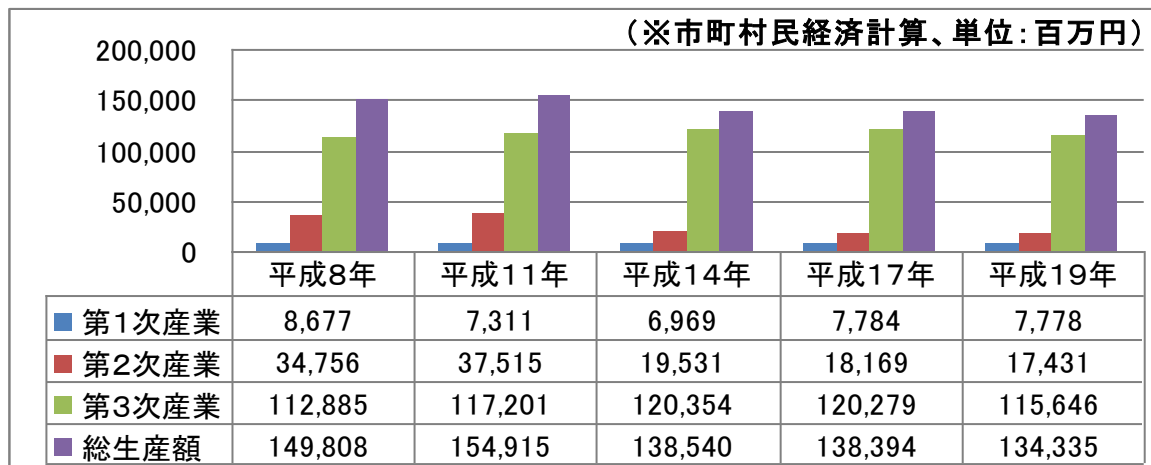
平成21年度中の本市の人口動態としては、出生者より死亡者が、転入者より転出者が多い数値となっており、人口が減少していることがうかがえる。

3. 産業・経済

(1) 経済活動別総生産

(※市町村民経済計算・・・市町の1年間の経済活動の実態を総合的・体系的に把握し、地域経済の規模、構造、変化、水準を明らかにしようとする経済指標)

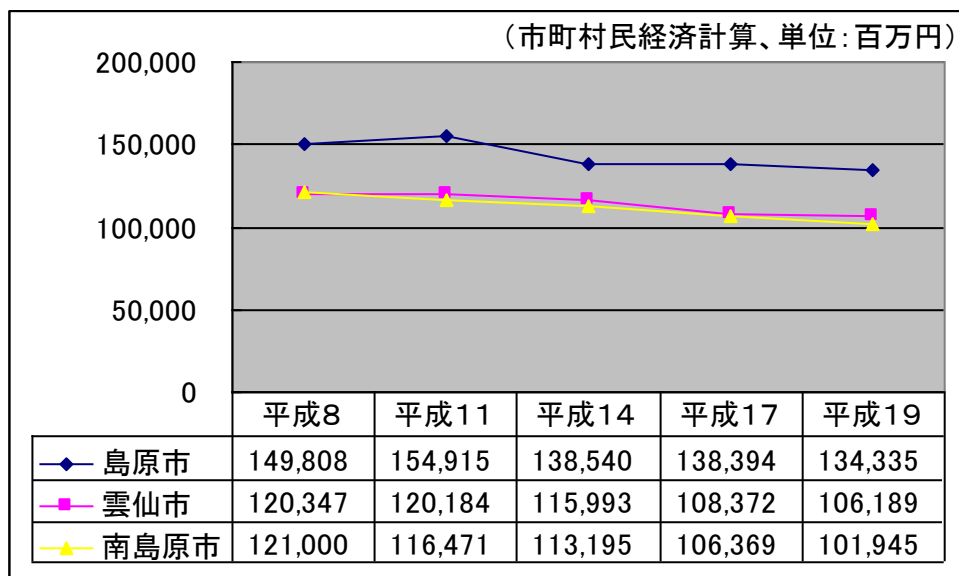
① 島原市の経済活動別総生産の推移



本市の総生産は、平成11年度以降減少の傾向にあり、特に第2次産業の減少が大きく、平成11年度と平成19年度を比較すると半分以上に減少している。第1次産業と第3次産業は横ばいの状態である。

なお、総生産額は、帰属利子を控除した額のため、第1次産業から第3次産業までの合計とは一致しない。

② 島原半島3市の総生産の推移



島原半島3市の総生産は、年々減少の傾向にある。

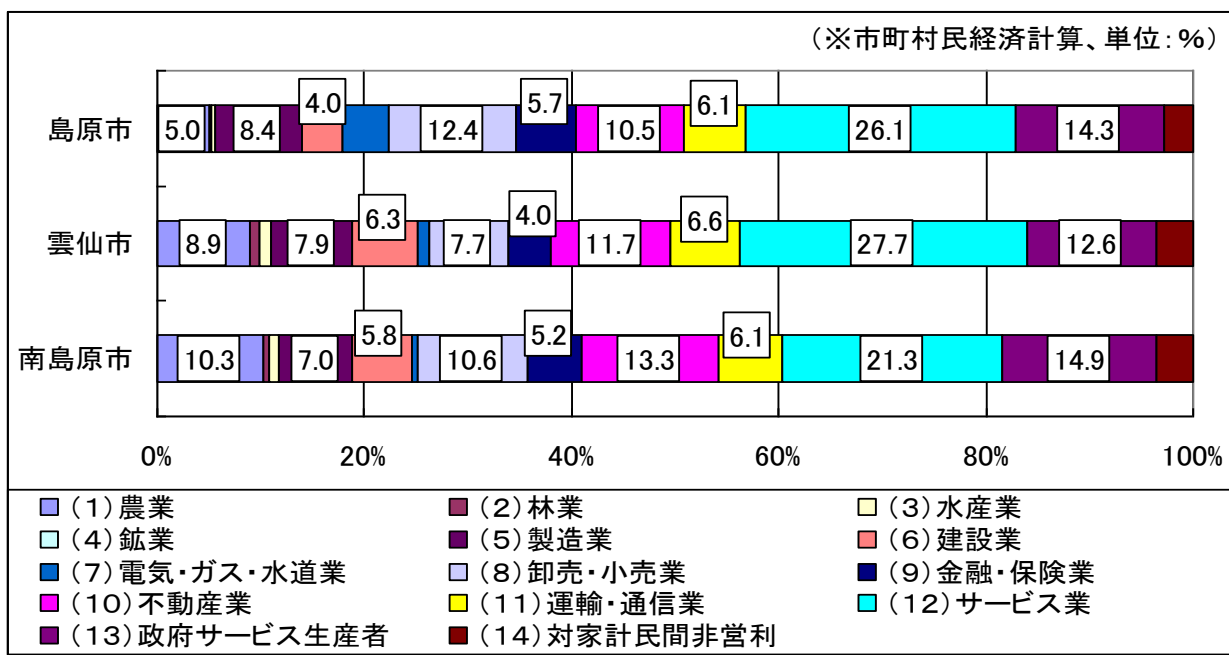
【長崎県及び島原半島における本市総生産の割合】

	平成8	平成11	平成14	平成17	平成19
長崎県	4,614,386	4,483,561	4,354,568	4,305,630	4,282,160
本市の割合	3.2%	3.5%	3.2%	3.2%	3.1%
島原半島	391,155	391,570	367,728	353,135	342,469
本市の割合	38.3%	39.6%	37.7%	39.2%	39.2%

本市総生産の長崎県における割合は、平成11年度以降減少の傾向にある。島原半島における割合は横ばいであり、約40%を占めている。

③ 島原半島 3 市の産業分類別総生産（平成 19 年度）

【総生産割合の比較】



産業分類別総生産の割合について主なもののみ数値を掲載。

本市は島原半島の他市と比較して、製造業、電気・ガス・水道業、卸売・小売業、金融・保険業の割合が高いことがうかがえる。

【総生産の比較（単位：百万円）】

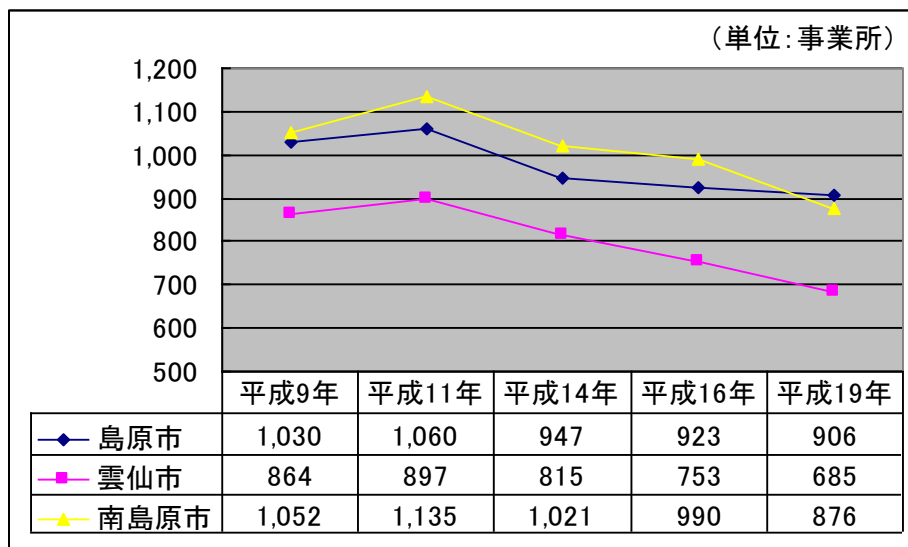
項 目	島原市	雲仙市	南島原市
(1) 農業	7,025	9,803	10,921
(2) 林業	357	988	547
(3) 水産業	396	1,315	989
(4) 鉱業	—	8	77
(5) 製造業	11,781	8,641	7,437
(6) 建設業	5,650	6,928	6,146
(7) 電気・ガス・水道業	6,000	1,145	591
(8) 卸売・小売業	17,412	8,441	11,237
(9) 金融・保険業	7,999	4,364	5,498
(10) 不動産業	14,744	12,838	14,156
(11) 運輸・通信業	8,526	7,198	6,522
(12) サービス業	36,811	30,437	22,605
(13) 政府サービス生産者	20,171	13,790	15,883
(14) 対家計民間非営利サービス生産者	3,983	3,895	3,749
(15) 帰属利子等	-6,521	-3,602	-4,414
合 計	134,334	106,189	101,944

産業分類別の額で比較すると、本市は、製造業、電気・ガス・水道業、卸売・小売業、金融・保険業、運輸・通信業、サービス業が高いことがうかがえる。

(2) 商業統計調査「小売業、卸売業」

(※商業統計調査・・・我が国の商業の実態を明らかにするもので、日本標準産業分類「大分類J－卸売・小売業」に属する事業所であって、公営、民営の事業所を対象。)

① 事業所数の推移



島原半島3市の事業所数は平成11年以降、減少の傾向にある。

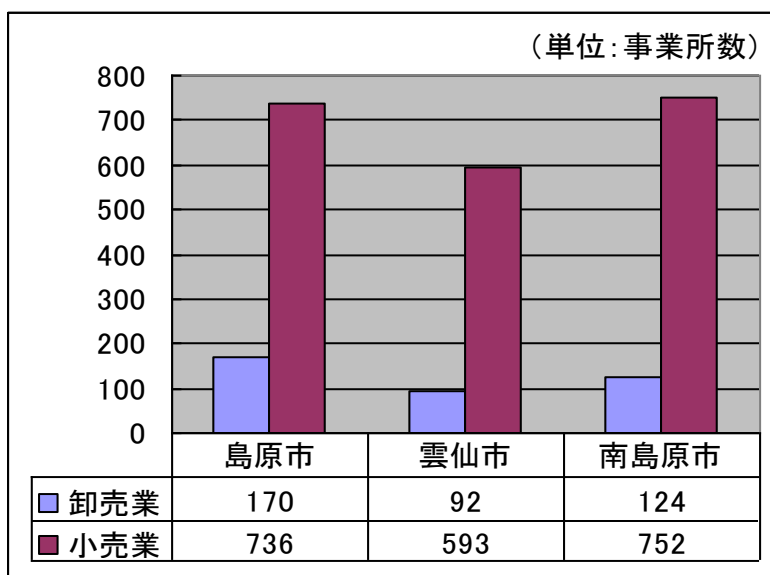
【長崎県及び島原半島における事業所数の割合】

	平成9	平成11	平成14	平成16	平成19
長崎県	24,843	25,621	23,569	22,624	20,417
本市の割合	4.1%	4.1%	4.0%	4.1%	4.4%
島原半島	2,946	3,092	2,783	2,666	2,467
本市の割合	35.0%	34.3%	34.0%	34.6%	36.7%

長崎県及び島原半島における事業所数も減少の傾向にあるため、本市の占める割合は横ばいの状態となっている。

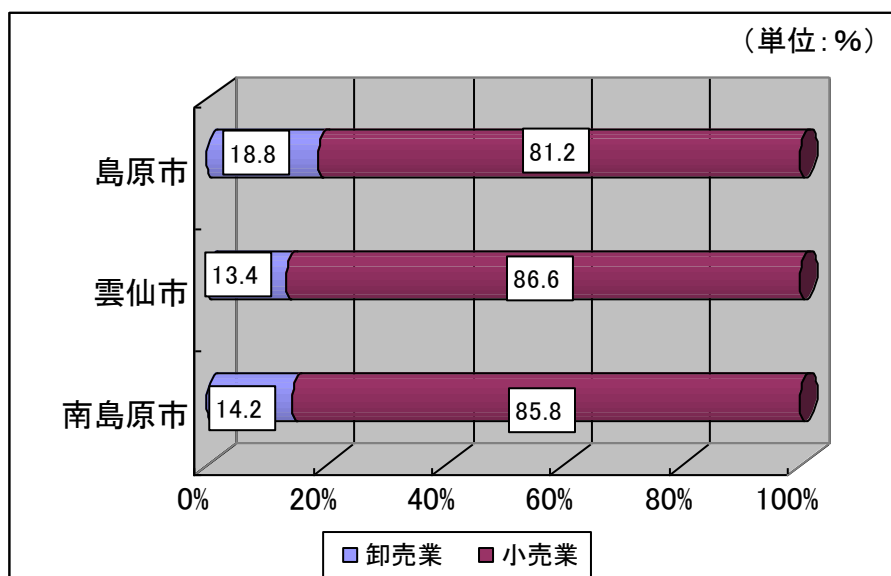
② 島原半島3市の事業所数の現状（平成19年調査）

【事業所数の比較】



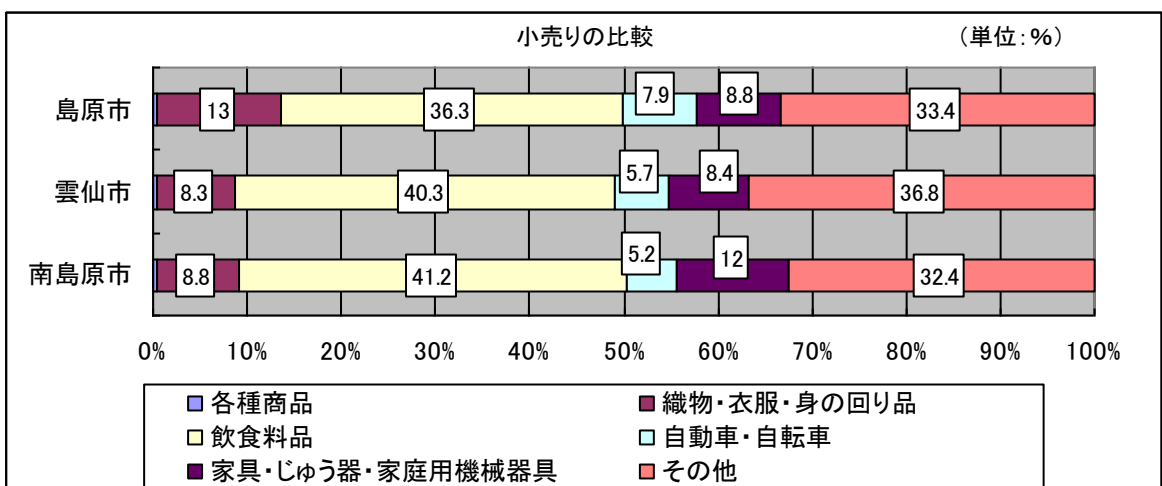
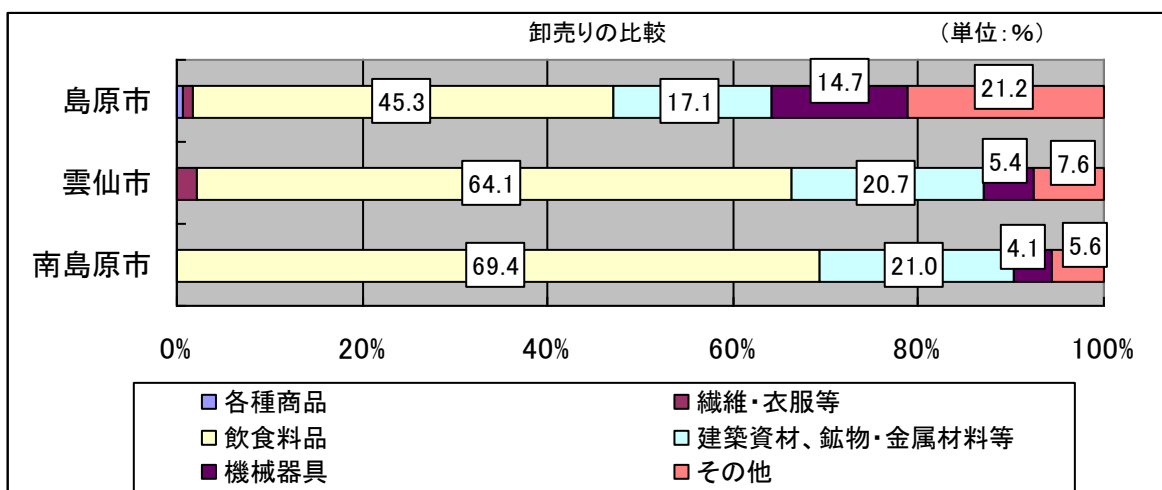
本市は他市と比較して、卸売業の事業所数が多い。

【事業所数の割合】



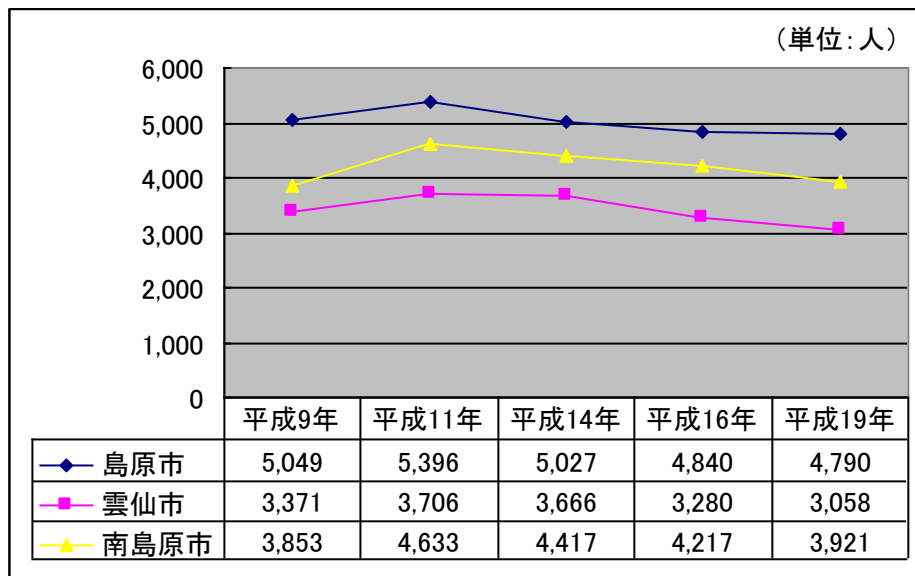
本市は他市と比較して、卸売業の事業所の占める割合が高くなっている。

【業種別事業所数の割合（卸売り・小売り）】



事業所数について卸売りと小売りに分けて、業種別に3市の構成割合を比較した。本市は、卸売りについては、機械器具の占める割合が、小売りについては繊維・衣服・身の回り品、自動車・自転車の占める割合が、他市と比較して高くなっている。

③ 従業者数の推移



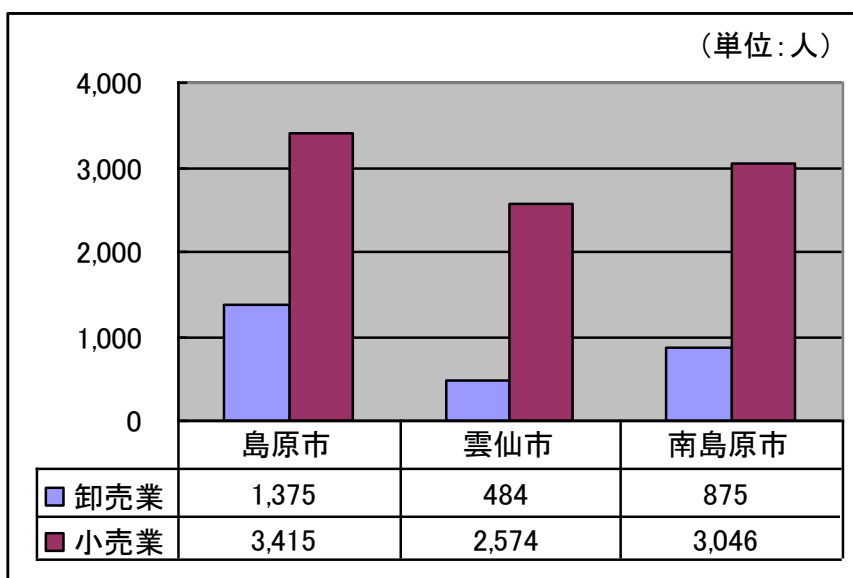
従業者数も、事業所数と同じで、減少の傾向にある。

【長崎県及び島原半島における従業者数の割合】

	平成9	平成11	平成14	平成16	平成19
長崎県	127,914	138,639	134,487	128,395	118,888
本市の割合	3.9%	3.9%	3.7%	3.8%	4.0%
島原半島	12,273	13,735	13,110	12,337	11,769
本市の割合	41.1%	39.3%	38.3%	39.2%	40.7%

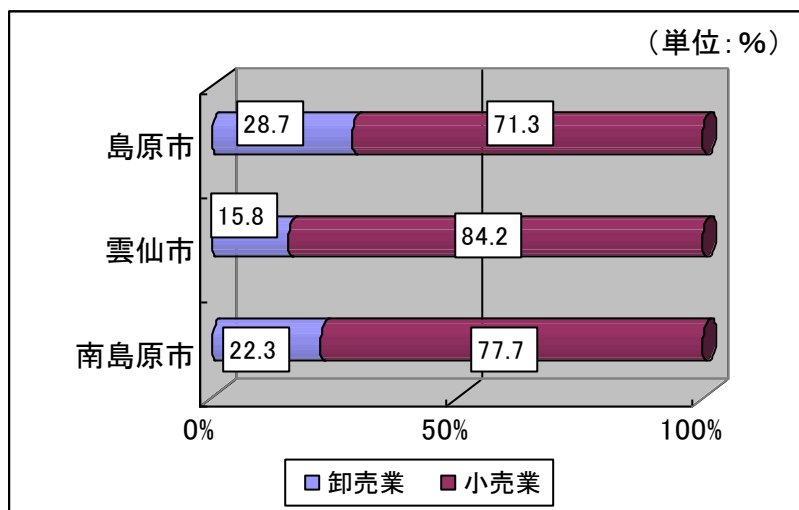
④ 島原半島3市の従業者数の現状（平成19年調査）

【従業者数の比較】



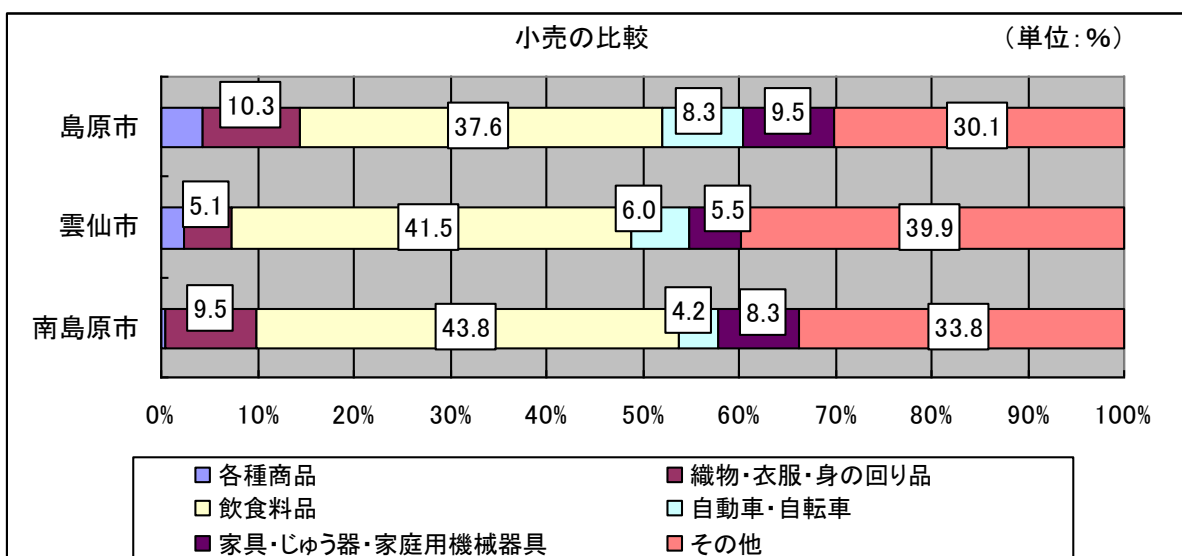
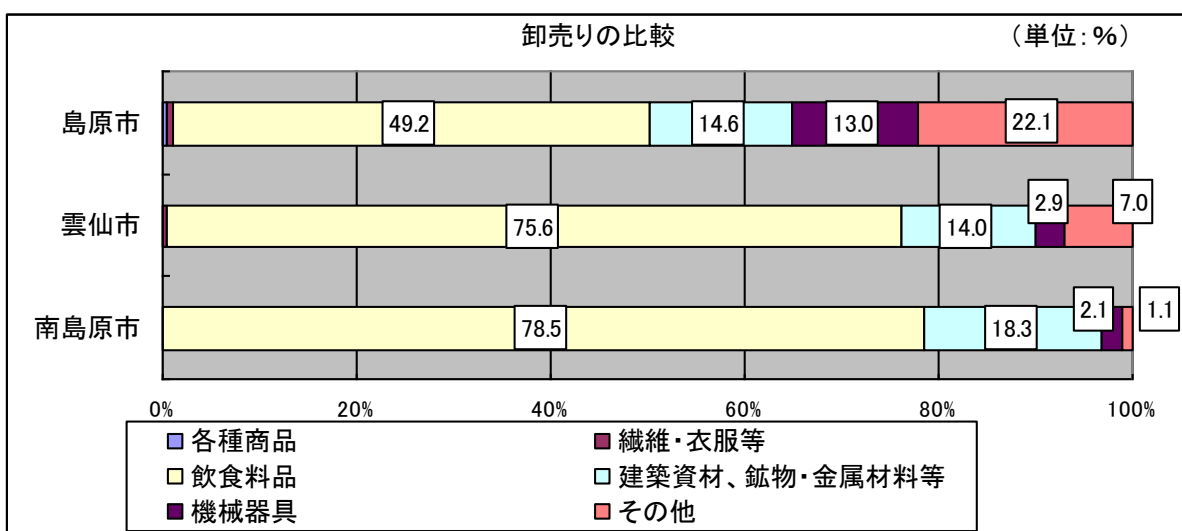
本市は他市と比較して、卸売り及び小売とも、従業者の数が一番多い。

【従業者数の割合】



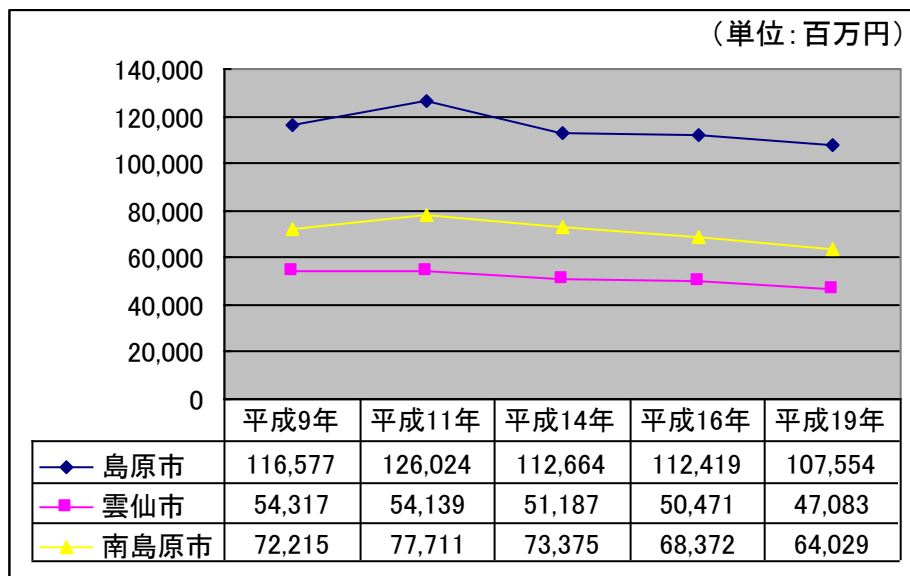
従業者数の割合は、卸売りでは島原市が、小売では雲仙市が一番高い数値となっている。

【業種別従業者数の割合（卸売り・小売り）】



従業者数について、本市と他の市と比較して、卸売りでは機械器具の占める割合が高く、小売りでは繊維物・衣服・身の回り品、自動車・自転車、家具・じゅう器・家庭用機械器具の占める割合が高い。

⑤ 年間商品販売額の推移



年間商品販売額は、平成11年以降は3市とも減少の傾向にある。

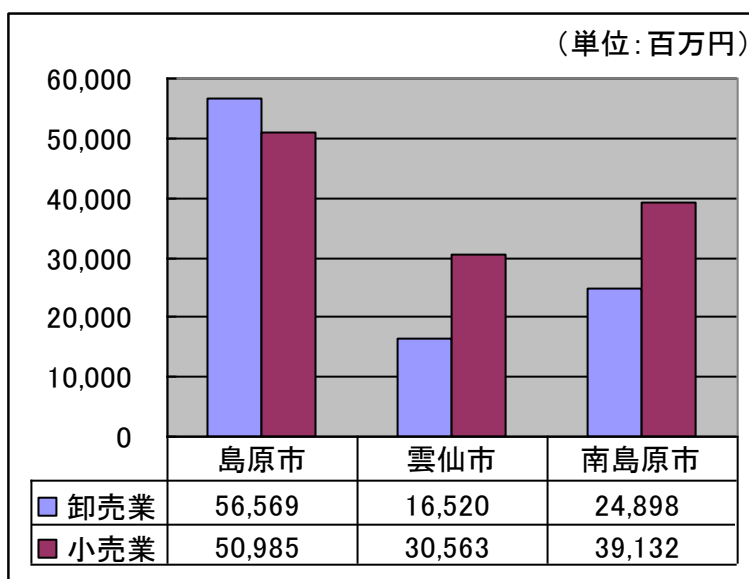
【長崎県及び島原半島における年間商品販売額の割合】

	平成9	平成11	平成14	平成16	平成19
長崎県	3,794,749	3,788,907	3,298,063	3,359,017	3,024,438
本市の割合	3.1%	3.3%	3.4%	3.3%	3.6%
島原半島	243,109	257,874	237,226	231,262	218,666
本市の割合	50.4%	48.9%	47.5%	48.6%	49.2%

本市の年間商品販売額の県内に占める割合は、年々増加の傾向にある。また、島原半島の販売額の約50%を占めている。

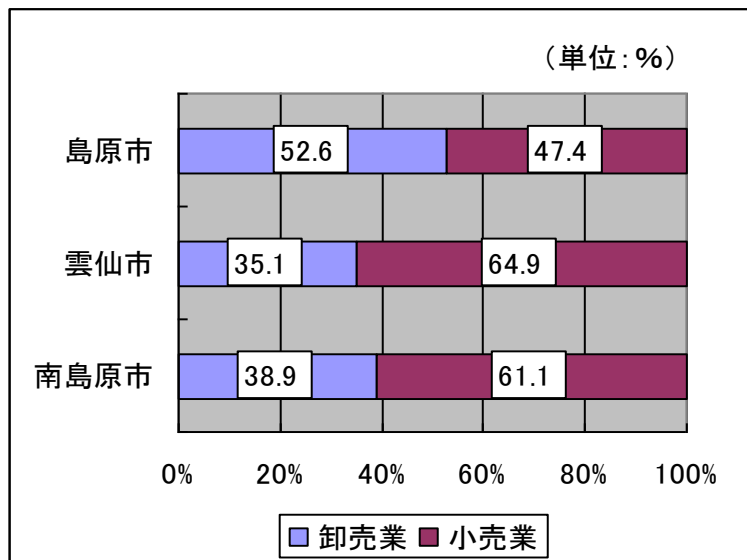
⑥ 島原半島3市の年間商品販売額の現状（平成19年調査）

【年間商品販売額の比較】



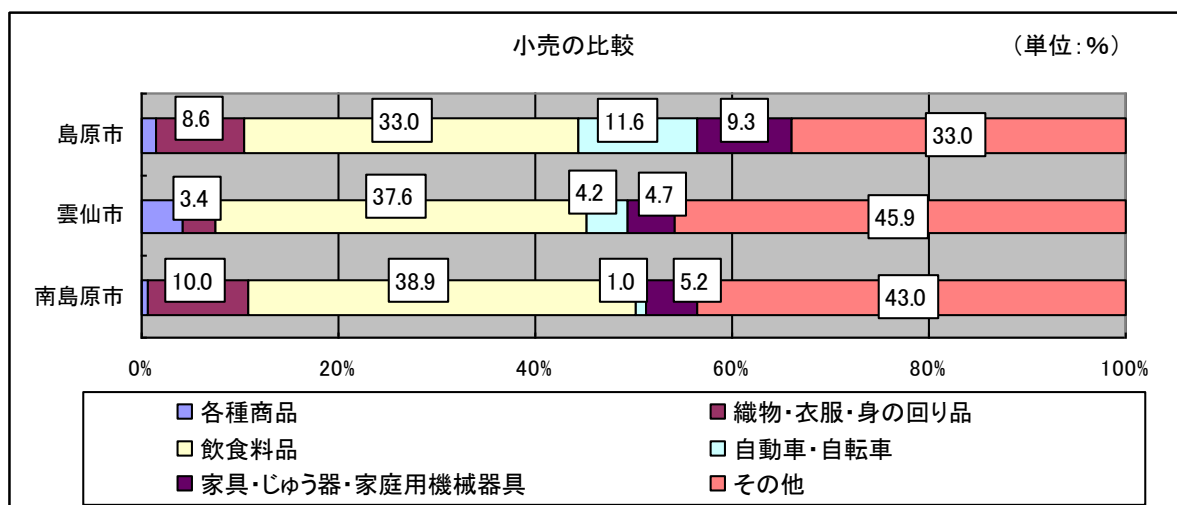
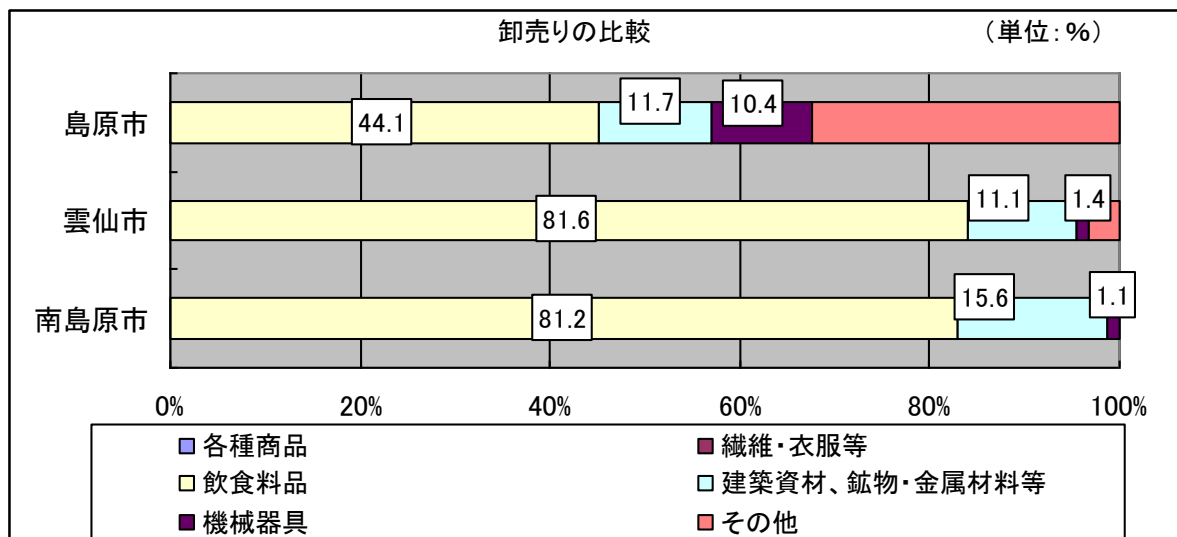
年間商品販売額は、本市は他市と比較して、卸売り、小売りとも高い数値を示している。また、本市のみが、卸売りの販売額が小売りの販売額よりも高くなっている。

【年間商品販売額の割合】



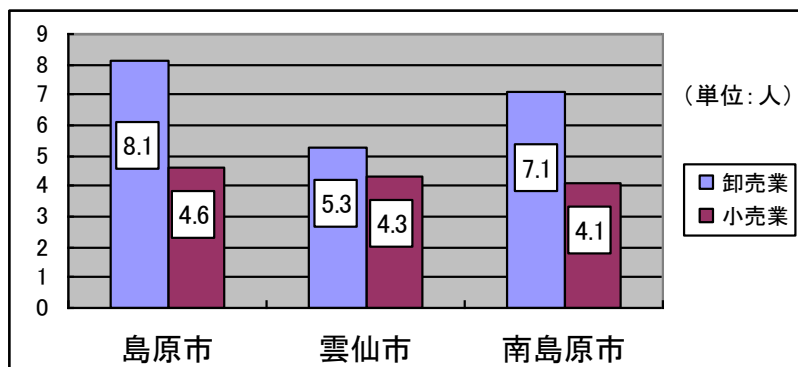
年間商品販売額の割合は、本市のみが小売より卸売りの割合が高くなっている。

【業種別商品販売額の割合（卸売り・小売り）】



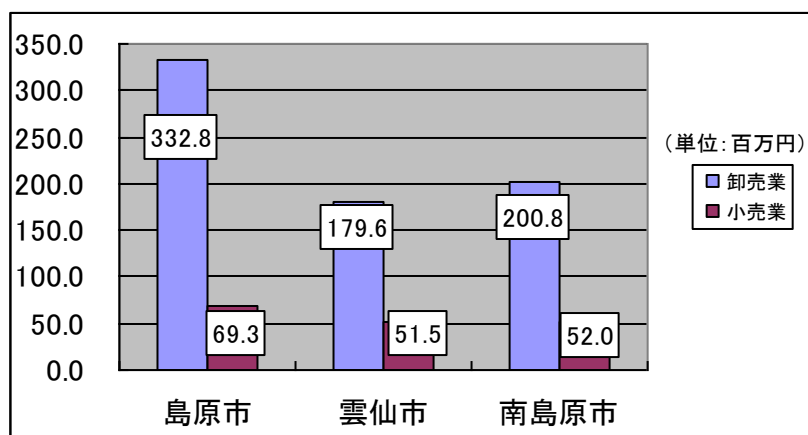
年間商品販売額について、本市と他の市と比較して、卸売りでは機械器具の占める割合が高く、小売りでは、自動車・自転車、家具・じゅう器・家庭用機械器具の占める割合が高い。

⑦ 1事業所あたりの従業者数



1事業所当たりの従業者数は、島原半島3市の中では、卸売り・小売りとも本市が一番高い数値となっている。

⑧ 1事業所あたりの年間商品販売額

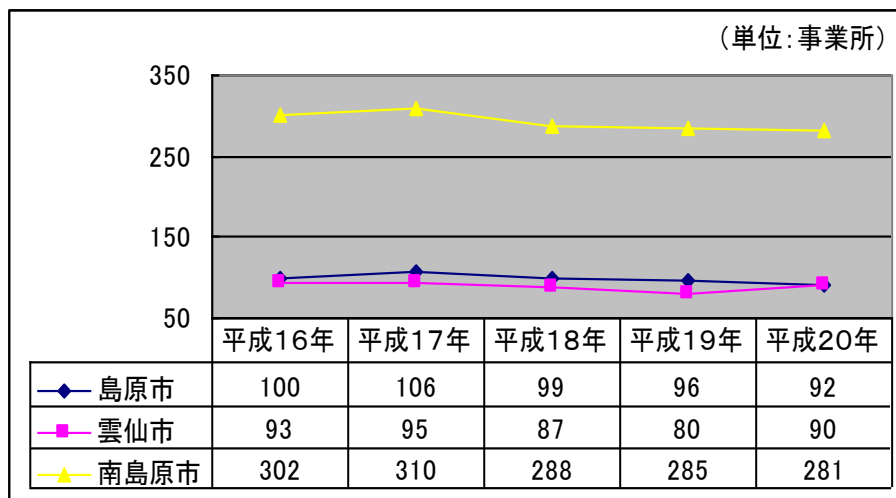


1事業所当たりの年間商品販売額は、島原半島3市の中では、卸売り・小売りとも本市が一番高い数値となっている。

(3) 工業「製造業」

(※工業統計調査・・・我が国の工業の実態を明らかにするもので、日本標準産業分類「大分類E－製造業に属する事業所“国に属する事業所を除く。”を対象。)

① 事業所数の推移（従業者4人以上の事業所）



事業所数については、3市ともやや減少の傾向にある。

【長崎県及び島原半島における事業所数の割合】

	平成16	平成17	平成18	平成19	平成20
長崎県	2,404	2,467	2,280	2,256	2,274
本市の割合	4.2%	4.3%	4.3%	4.3%	4.0%
島原半島	495	511	474	461	463
本市の割合	20.2%	20.7%	20.9%	20.8%	19.9%

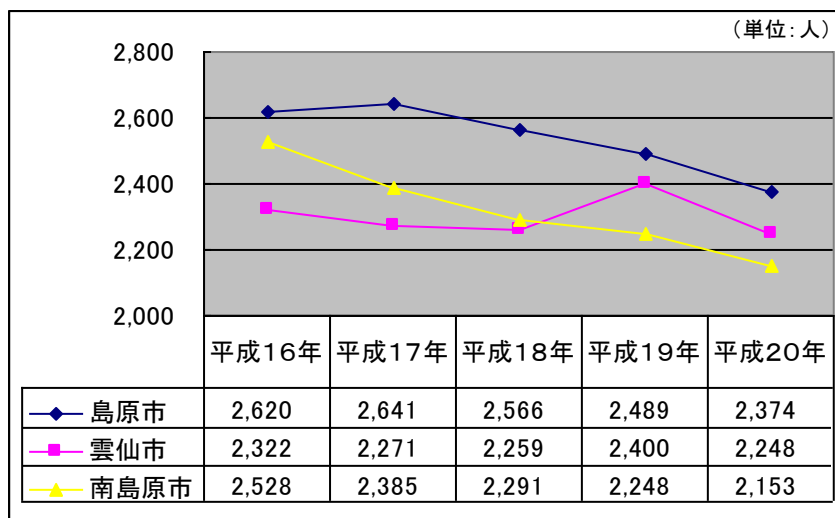
本市の事業所数の県内及び島原半島における割合は、横ばいの状態である。

【業種別事業所数の比較（平成20年、事業所数）】

	島原市	雲仙市	南島原市
食料品製造業	48	50	240
飲料・たばこ・飼料製造業	4	4	2
繊維工業	16	12	14
木材・木製品製造業	2	1	2
家具・装備品製造業	3	1	1
印刷・同関連業	3	1	3
プラスチック製品製造業	－	2	1
窯業・土石製品製造業	3	7	8
鉄鋼業	2	－	－
金属製品製造業	2	5	5
はん用機械器具製造業	1	1	2
生産用機械器具製造業	－	2	1
業務用機械器具製造業	－	1	－
電子部品・デバイス・電子回路製品業	1	1	1
電気機械器具製造業	2	1	－
輸送用機械器具製造業	2	1	1
その他の製造業	3	－	－
合 計	92	90	281

事業所数総数は、南島原市が一番多い。特に、南島原市の食料品製造業が多く、他の業種では3市とも大きな差はない。「－」は該当のないもの。

② 従業者数の推移



従業者数については、本市及び南島原市が減少傾向で雲仙市は横ばいの状態である。

【長崎県及び島原半島における従業者数の割合】

	平成16	平成17	平成18	平成19	平成20
長崎県	59,481	59,023	58,324	60,643	61,052
本市の割合	4.4%	4.5%	4.4%	4.1%	3.9%
島原半島	7,470	7,297	7,116	7,137	6,775
本市の割合	35.1%	36.2%	36.1%	34.9%	35.0%

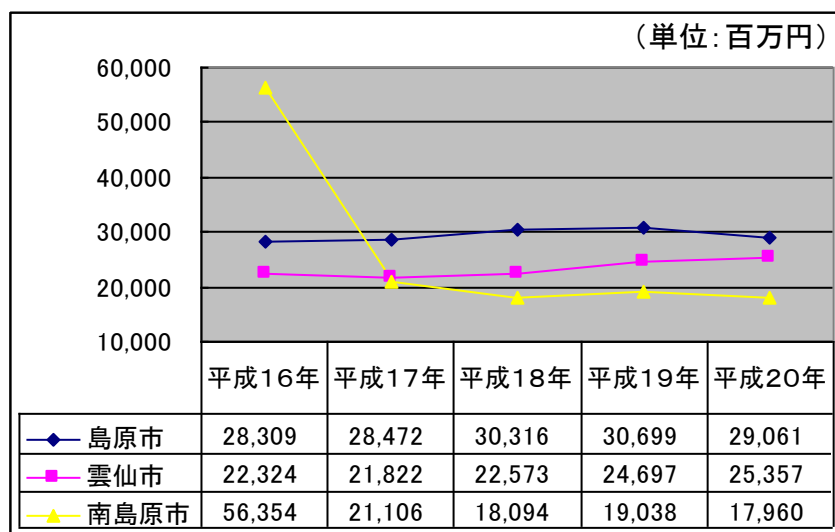
本市の従業者数の長崎県における割合は、わずかではあるが減少の傾向にあり、島原半島における割合は、横ばいの状態である。

【業種別従業者数の比較（平成20年、従業者数）】

	島原市	雲仙市	南島原市
食料品製造業	991	899	1,413
飲料・たばこ・飼料製造業	46	22	10
繊維工業	762	873	340
木材・木製品製造業	14	4	14
家具・装備品製造業	18	12	5
印刷・同関連業	32	5	22
プラスチック製品製造業	—	62	8
窯業・土石製品製造業	36	98	106
鉄鋼業	57	—	—
金属製品製造業	44	80	28
はん用機械器具製造業	125	85	69
生産用機械器具製造業	—	8	7
業務用機械器具製造業	—	4	—
電子部品・デバイス・電子回路製品業	145	32	126
電気機械器具製造業	14	40	—
輸送用機械器具製造業	75	24	5
その他の製造業	15	—	—
合 計	2,374	2,248	2,153

従業者数については、島原市が一番多くなっており、事業所数とは反対に、南島原市が一番少なくなっている。「—」は該当のないものの。

③ 製造品出荷額の推移



製造品出荷額については、平成17年以降は、3市とも横ばいの状態にある。

【長崎県及び島原半島における製造品出荷額の割合 (単位: 百万円)】

	平成16	平成17	平成18	平成19	平成20
長崎県	1,269,929	1,492,355	1,514,787	1,928,210	1,823,417
本市の割合	2.2%	1.9%	2.0%	1.6%	1.6%
島原半島	106,987	71,400	70,983	74,434	72,378
本市の割合	26.5%	39.9%	42.7%	41.2%	40.2%

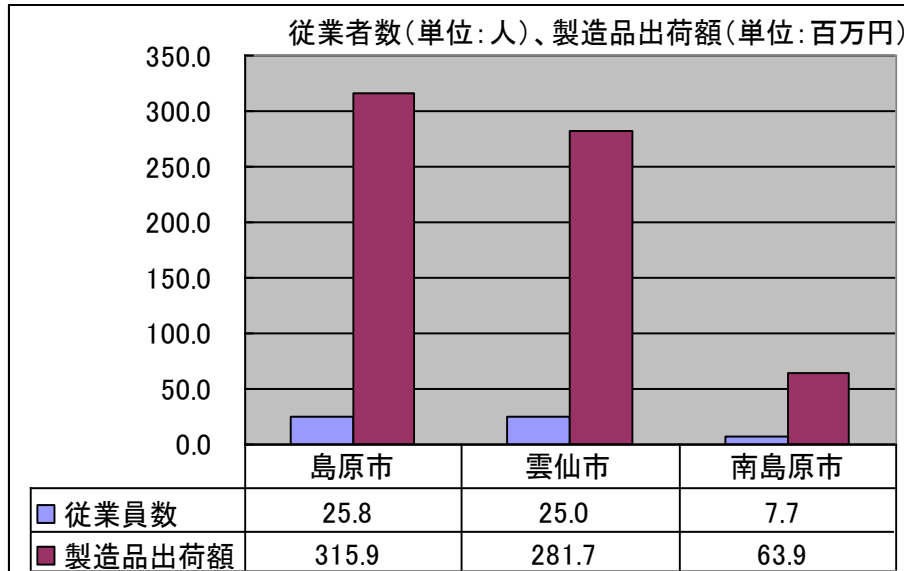
本市の製造品出荷額の長崎県における割合は減少の傾向にあるが、島原半島における割合も、平成18年以降わずかではあるが減少の傾向にある。

【業種別製造品出荷額の比較 (平成20年、単位: 百万円)】

	島原市	雲仙市	南島原市
食料品製造業	12,793	10,342	11,492
飲料・たばこ・飼料製造業	5,214	112	×
繊維工業	4,826	7,459	1,771
木材・木製品製造業	×	×	×
家具・装備品製造業	161	×	×
印刷・同関連業	218	×	135
プラスチック製品製造業	—	×	×
窯業・土石製品製造業	240	973	1,369
鉄鋼業	×		—
金属製品製造業	×	2,625	356
はん用機械器具製造業	×	×	×
生産用機械器具製造業	—	×	×
業務用機械器具製造業	—	×	—
電子部品・デバイス・電子回路製品業	×	×	×
電気機械器具製造業	×	×	—
輸送用機械器具製造業	×	×	×
その他の製造業	49	—	—
合 計	29,061	25,357	17,960

製造品出荷額については、島原市が一番多くなっている。「—」は該当のないもの、「×」は申告者の秘密が洩れないよう秘匿したもの。このため、合計は一致しない。

④ 1 事業所あたりの従業者数及び製造品出荷額（平成20年）

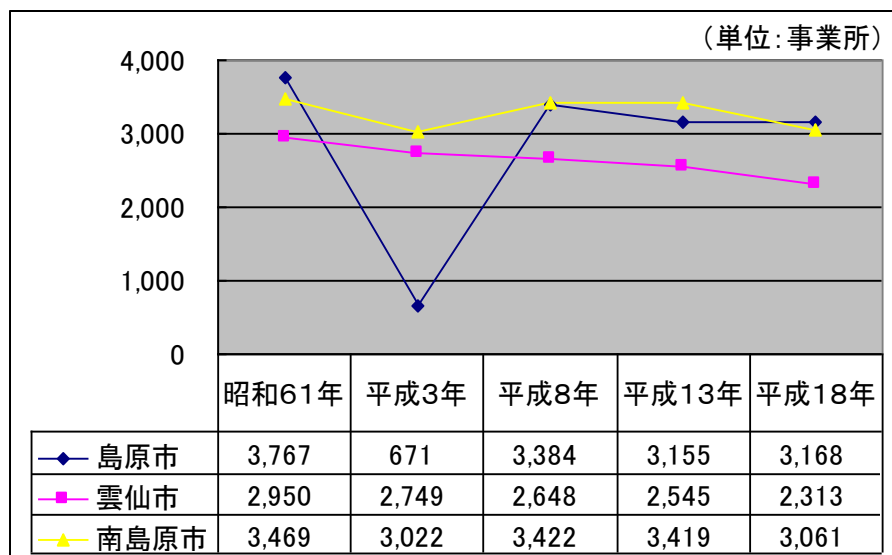


1 事業所あたりの従業者数及び製造品出荷額については、本市が一番高い数値となっている。

(4) 事業所・企業統計

(※事業所・企業統計調査・・・我が国すべての事業所及び企業を対象として、事業の種類や従業者数等の基本的事項を調査するもの。農林漁業に属する個人経営の事業所など、一部調査対象外の事業所あり。)

① 事業所数の推移



平成3年は普賢岳噴火災害のため、旧島原市と旧深江町は、事業所・企業統計調査は未実施のため含まれていない。

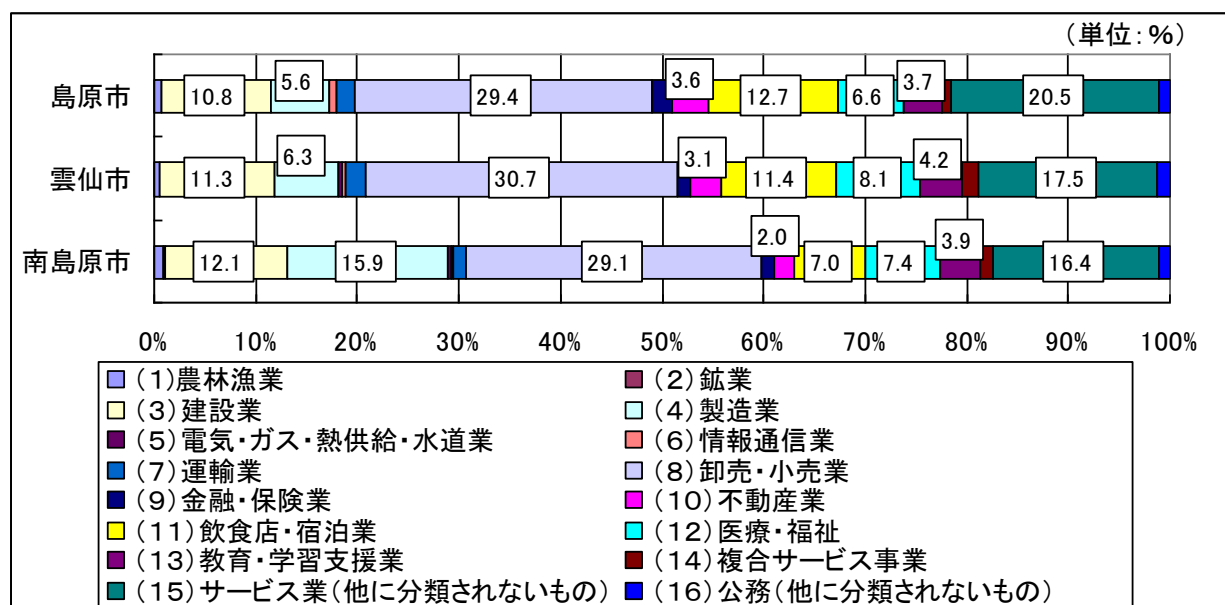
全体的に減少の傾向にある。

【長崎県及び島原半島における事業所数の割合】

	昭和61	平成3	平成8	平成13	平成18
長崎県	82,516	77,302	80,040	76,403	70,794
本市の割合	4.6%	0.9%	4.2%	4.1%	4.5%
島原半島	10,186	6,442	9,454	9,119	8,542
本市の割合	37.0%	10.4%	35.8%	34.6%	37.1%

本市の事業所数の長崎県及び島原半島における割合は、ほぼ横ばいの状態にある。

【産業大分類別事業所数割合の比較（平成18年）】



産業大分類別事業所数の構成比をみると、3市とも卸売・小売業が最も多く約30%、2番目にはサービス業で約16～20%、3番目には島原市及び雲仙市は飲食店・宿泊業で南島原市は製造業となっている。

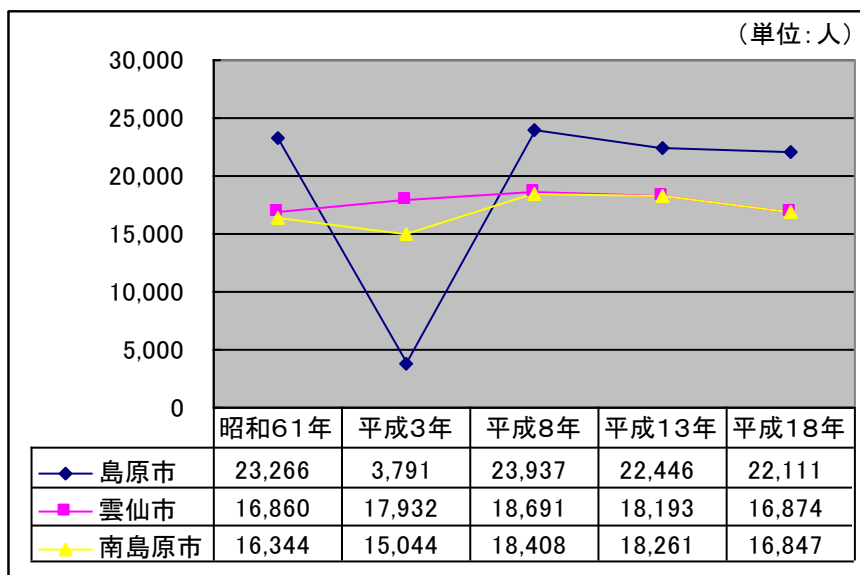
【産業大分類別事業所数の比較割合（平成18年）】

（事業所数）

項 目	島原市	雲仙市	南島原市
(1)農林漁業	24	13	28
(2)鉱業	—	1	3
(3)建設業	343	261	371
(4)製造業	176	145	487
(5)電気・ガス・熱供給・水道業	4	6	8
(6)情報通信業	19	8	5
(7)運輸業	57	49	41
(8)卸売・小売業	930	710	892
(9)金融・保険業	62	28	36
(10)不動産業	113	72	61
(11)飲食店・宿泊業	402	263	213
(12)医療・福祉	208	187	225
(13)教育・学習支援業	116	96	118
(14)複合サービス事業	32	40	37
(15)サービス業(他に分類されないもの)	650	405	502
(16)公務(他に分類されないもの)	32	29	34
合 計	3,168	2,313	3,061

事業所数で比較すると、本市の特徴としては、第3次産業の情報通信業、運輸業、卸売・小売業、金融・保険業、不動産業、飲食店・宿泊業、サービス業が他市より多くなっている。なお、農林漁業については、個人経営は含まれていない。

② 従業者数の推移



平成3年は普賢岳噴火災害のため、旧島原市と旧深江町は事業所・企業統計調査は未実施のため含まれていない。

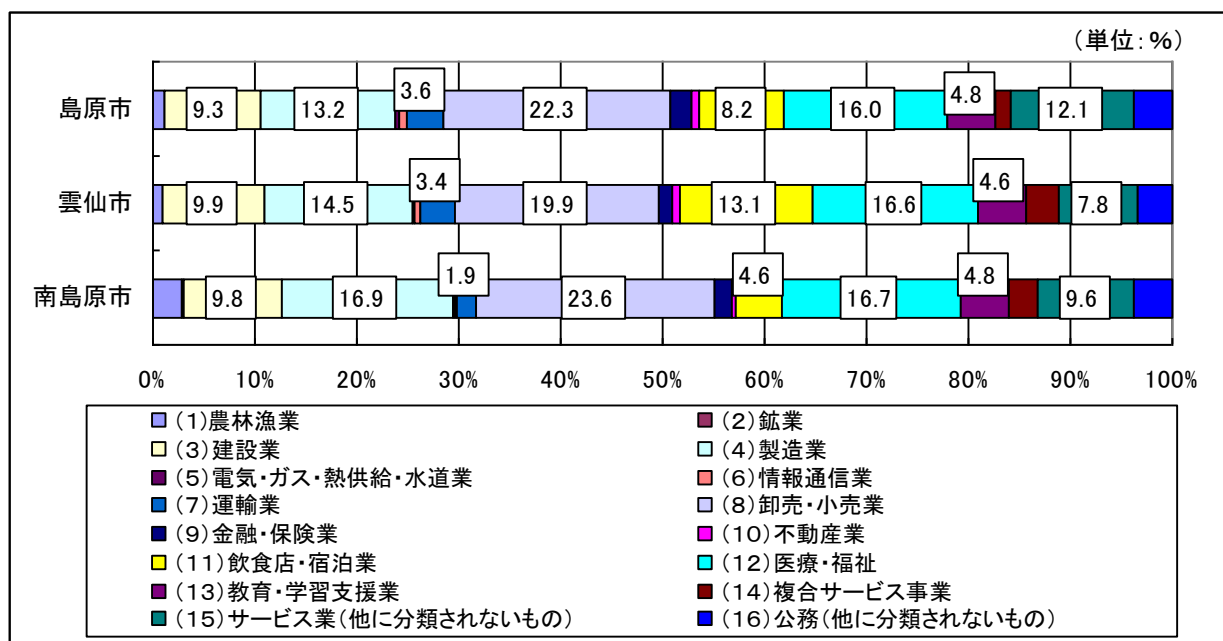
全体的には横ばいの状態である。

【長崎県及び島原半島における従業者数の割合】

	昭和61	平成3	平成8	平成13	平成18
長崎県	588,206	599,133	655,207	630,498	595,026
本市の割合	4.0%	0.6%	3.7%	3.6%	3.7
島原半島	56,450	36,767	61,036	58,900	55,832
本市の割合	41.2%	10.3%	39.2%	38.1%	39.6%

本市の従業者数の長崎県及び島原半島における割合は、横ばいの状態である。

【産業大分類別従業者数の割合（平成１８年）】



産業大分類別従業者数の構成比をみると、３市とも卸売・小売業が最も多く約１９～２３％、２番目には本市と雲仙市が医療・福祉、南島原市は製造業、３番目には本市と雲仙市は製造業、南島原市は医療・福祉の順となっている。

【産業大分類別従業者数の比較割合（平成１８年）】

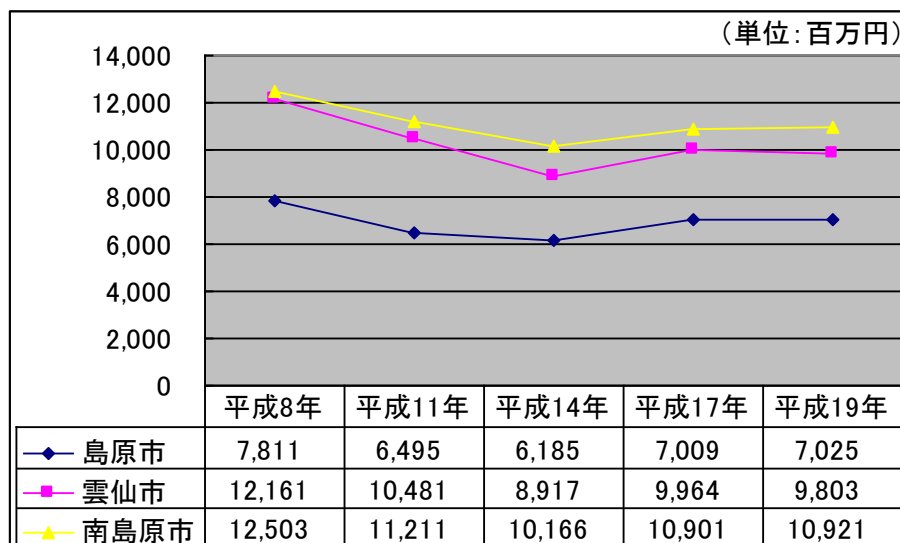
(従業者数)

項 目	島原市	雲仙市	南島原市
(1)農林漁業	271	169	480
(2)鉱業	—	4	39
(3)建設業	2,062	1,669	1,646
(4)製造業	2,921	2,455	2,853
(5)電気・ガス・熱供給・水道業	116	39	38
(6)情報通信業	136	83	14
(7)運輸業	790	572	324
(8)卸売・小売業	4,927	3,361	3,968
(9)金融・保険業	474	199	287
(10)不動産業	183	119	67
(11)飲食店・宿泊業	1,808	2,214	782
(12)医療・福祉	3,527	2,803	2,816
(13)教育・学習支援業	1,065	773	816
(14)複合サービス事業	311	540	464
(15)サービス業(他に分類されないもの)	2,674	1,313	1,611
(16)公務(他に分類されないもの)	846	561	642
合 計	22,111	16,874	16,847

従業者数で比較すると、本市の特徴として、第２次産業では、建設業、製造業が３市の中では一番多く、第３次産業では、卸売・小売業、医療・福祉、サービス業などが多い。雲仙市では飲食店・宿泊業が、南島原市では農業が３市の中では一番多い。

(5) 農業関係

① 農業総生産の推移（平成19年度市町村民経済計算）



農業の総生産は、平成14年を境に増加の傾向にある。

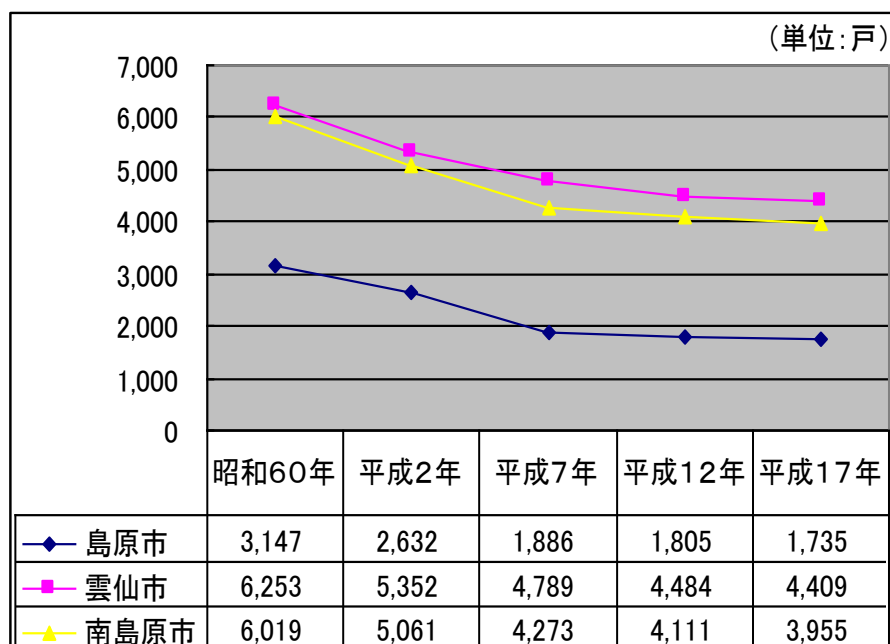
【長崎県及び島原半島における農業総生産の割合】 (単位: 百万円)

	平成8	平成11	平成14	平成17	平成19
長崎県	83,006	69,211	61,729	67,268	66,626
本市の割合	9.4%	9.4%	10.0%	10.4%	10.5%
島原半島	32,475	28,187	25,268	27,874	27,749
本市の割合	24.1%	23.0%	24.5%	25.1%	25.3%

本市の農業総生産の長崎県及び島原半島における割合は、増加の傾向にある。

② 農家戸数の推移（農林業センサス）

(※農林業センサス・・・我が国農林業の生産構造、就業構造を明らかにするとともに、農山村の実態を総合的に把握し、農林行政推進の基礎資料を得ることを目的に実施。)



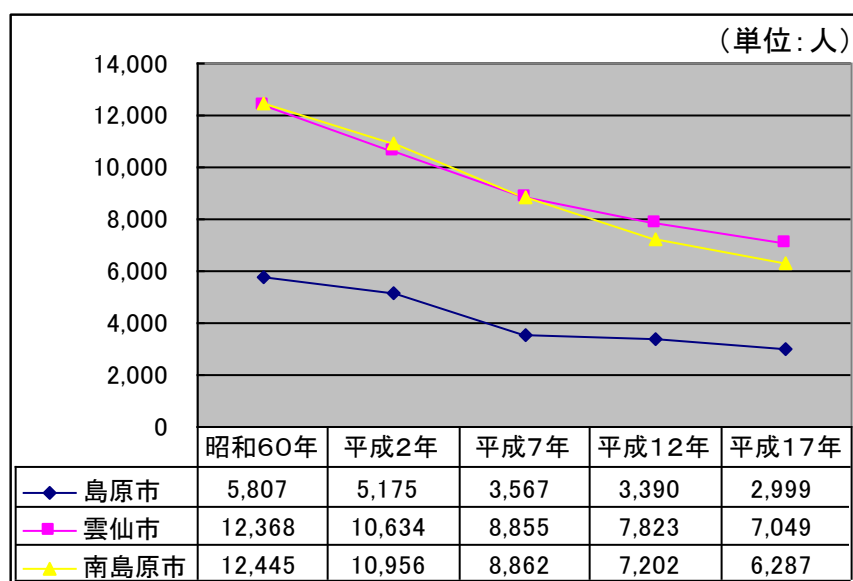
農家戸数は、3市とも平成7年まで急激に減少し、その後もわずかではあるが、減少の傾向にある。

【長崎県及び島原半島における農家戸数の割合】

	昭和60	平成2	平成7	平成12	平成17
長崎県	69,535	55,367	48,497	44,415	42,127
本市の割合	4.5%	4.8%	3.9%	4.1%	4.1%
島原半島	15,419	13,045	10,948	10,400	10,099
本市の割合	20.4%	20.2%	17.2%	17.4%	17.2%

本市の農家戸数の長崎県及び島原半島における割合は、平成7年までは減少し、その後は横ばいの状態である。

③ 農業就業人口の推移



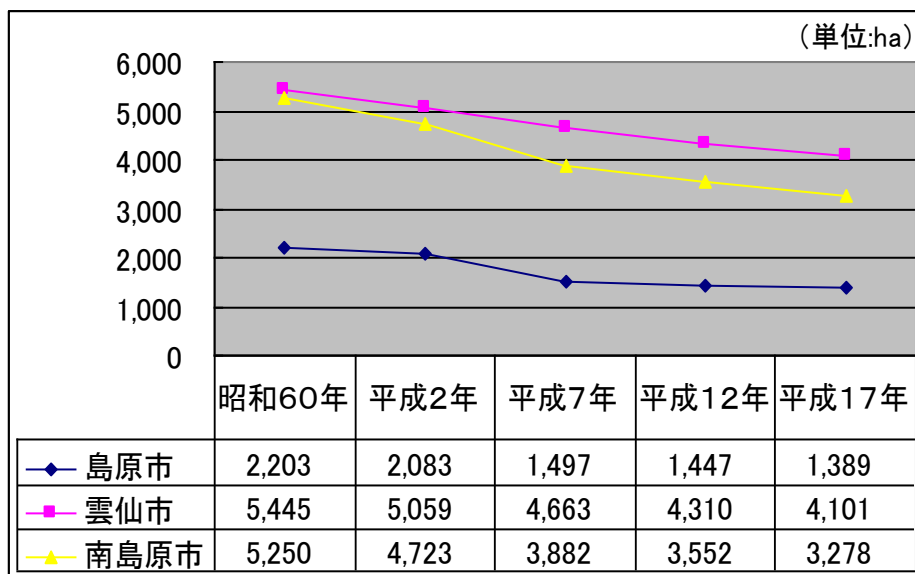
農業就業人口は、3市とも減少の傾向にあり、昭和60年と平成17年を比較すると、約50%近くまで減少している。

【長崎県及び島原半島における農業就業人口の割合】

	昭和60	平成2	平成7	平成12	平成17
長崎県	113,163	127,517	76,260	60,558	52,661
本市の割合	5.1%	4.1%	4.7%	5.6%	5.7%
島原半島	30,620	26,765	21,284	18,415	16,335
本市の割合	19.0%	19.3%	16.8%	18.4%	18.4%

本市の農業就業人口の長崎県における割合は増加の傾向にあるが、島原半島においては、ほぼ横ばいの状態である。

③ 経営耕地面積



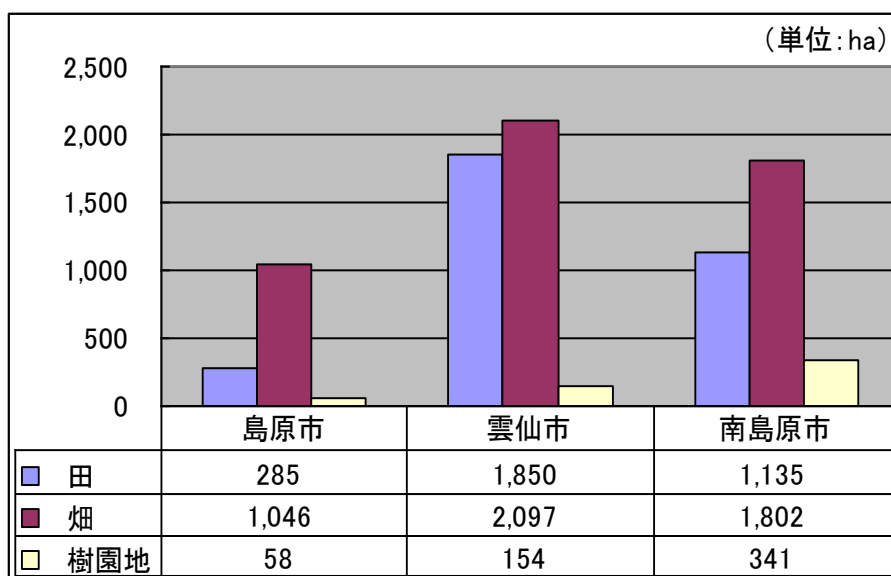
経営耕地面積は、
3市とも減少の傾向にある。

【長崎県及び島原半島における経営耕地面積の割合】

	昭和60	平成2	平成7	平成12	平成17
長崎県	54,406	47,414	41,405	35,898	32,595
本市の割合	4.0%	4.4%	3.6%	4.0%	4.3%
島原半島	12,898	11,865	10,042	9,309	8,768
本市の割合	17.1%	17.6%	14.9%	15.5%	15.8%

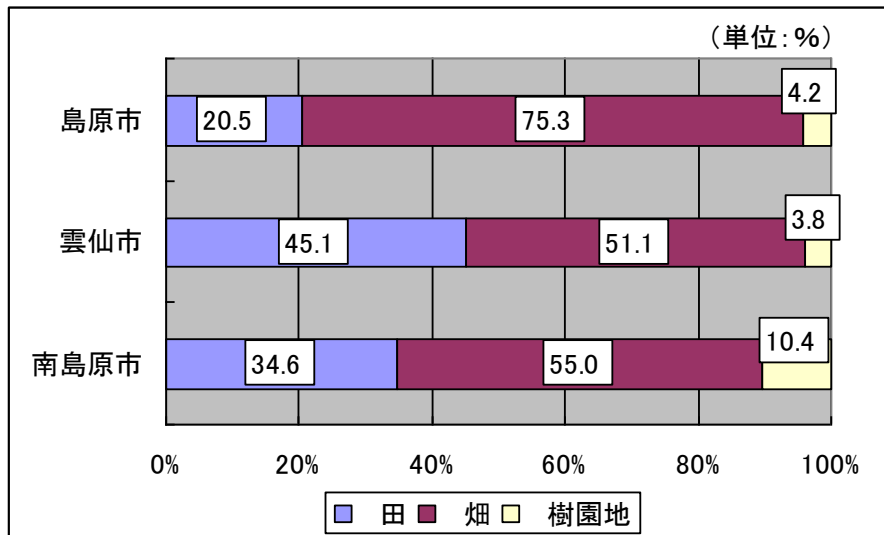
本市の経営耕地面積の長崎県及び島原半島における割合は、平成7年以降はほぼ横ばいの状態にある。

【経営耕地面積の比較（平成17年）】



経営耕地面積は、
3市とも畑が最も多く、次いで田、樹園地の順となっている。いずれの面積も、本市が一番少ない数値となっている。

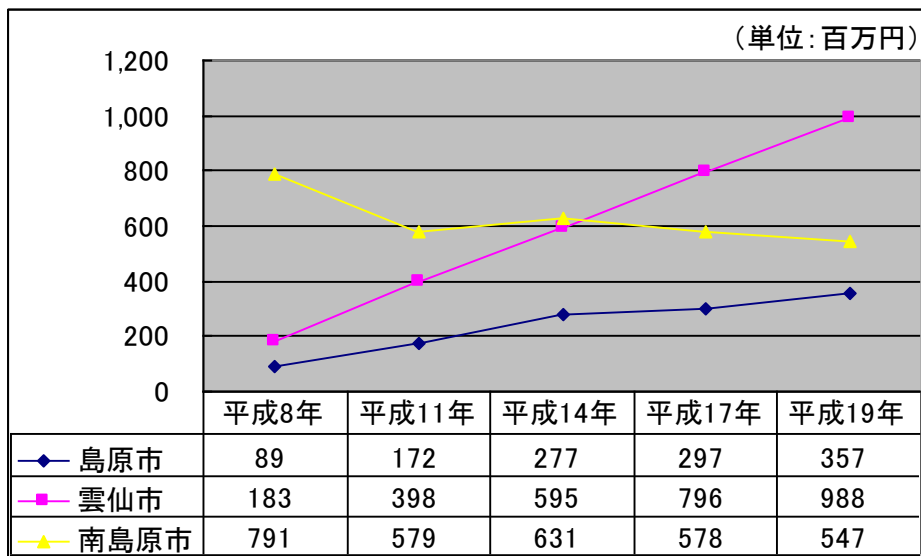
【経営耕地面積割合の比較（平成17年）】



経営耕地面積の割合は、島原市は畑の占める割合が一番高く、田の割合は雲仙市が、樹園地は南島原市が一番高くなっている。

(6) 林業

① 林業総生産の推移（平成19年度市町村民経済計算）



林業の総生産は、島原市は増加、雲仙市は急激に増加、南島原市は横ばいと、3市の特徴に違いが現れている。

【長崎県及び島原半島における林業総生産の割合（単位: 百万円）】

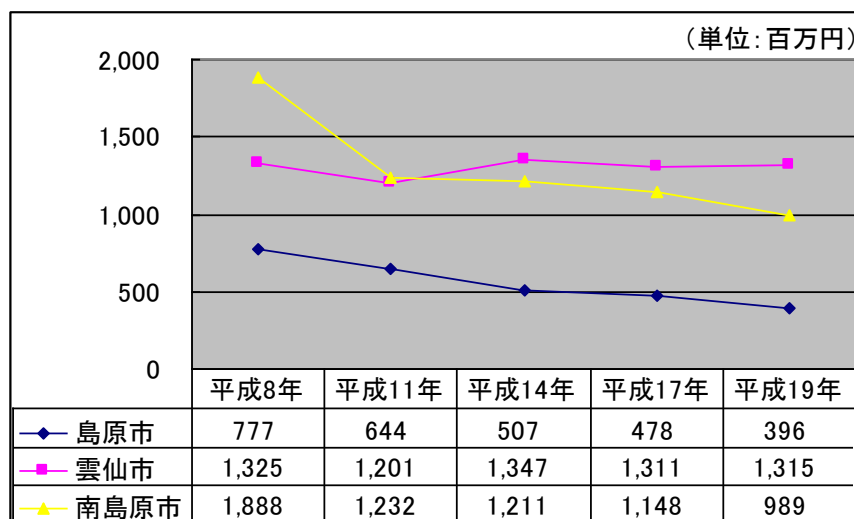
	平成8	平成11	平成14	平成17	平成19
長崎県	5,522	6,583	6,561	5,315	5,244
本市の割合	1.6%	2.6%	4.2%	5.6%	6.8%
島原半島	1,063	1,149	1,503	1,671	1,892
本市の割合	8.4%	15.0%	18.4%	17.8%	18.9%

本市の林業総生産の長崎県及び島原半島における割合は、増加の傾向にある。

(7) 漁業

(漁業センサス・・・漁業の生産構造・就業構造を明らかにし、漁村、流通・加工業等漁業の背景の実態を把握し、水産行政諸施策に必要な資料を整備することを目的。)

① 水産業総生産の推移 (平成19年度市町村民経済計算)



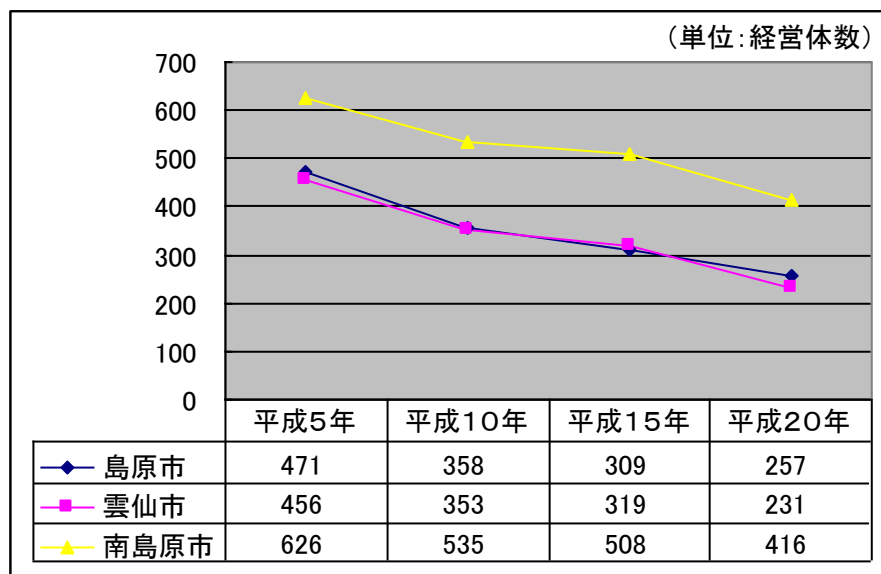
水産業の総生産は、島原市と南島原市が減少の傾向、雲仙市は横ばいの状態である。

【長崎県及び島原半島における水産業総生産の割合 (単位:百万円)】

	平成8	平成11	平成14	平成17	平成19
長崎県	92,398	73,003	60,197	53,038	51,767
本市の割合	0.8%	0.9%	0.8%	0.9%	0.8%
島原半島	3,990	3,077	3,065	2,937	2,700
本市の割合	19.5%	20.9%	16.5%	16.3%	14.7%

水産業総生産の県内における本市の占める割合は、ほぼ横ばいの状態だが、島原半島と比較すると減少の傾向にある。

② 漁業経営体数の推移



漁業経営体数は、3市とも減少の傾向にある。平成5年と平成20年を比較すると、本市は約55%まで減少している。

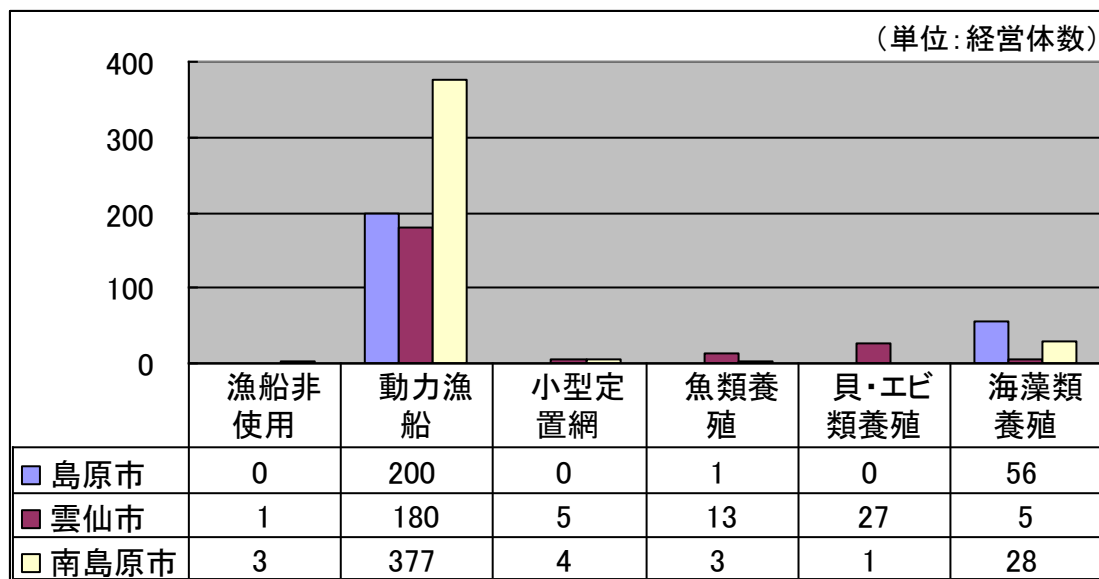
(※漁業経営体・・・生産物販売を目的として、海面において水産動植物の採捕又は養殖の事業を行った世帯又は事業所をいう。)

【長崎県及び島原半島における漁業経営体数の割合】

	平成5	平成10	平成15	平成20
長崎県	14,585	12,282	10,756	8,849
本市の割合	3.2	2.9	2.9	2.9
島原半島	1,553	1,246	1,136	904
本市の割合	30.3	28.7	27.2	28.4

本市の漁業経営体数の長崎県及び島原半島における割合は、平成10年以降は横ばいの状態である。

③ 漁業経営体数（平成20年漁業センサス）



漁業経営体の実態として、3市とも動力漁船による漁業が大半を占めており、本市としては、海藻類の養殖が、3市の中では一番多い。

(8) 産出額等が全国又は県で上位にある農水産物

① 野菜類 (※農林水産年報)

ア だいこん

年間産出額 142 千万円・・・産出額は全国で第 4 位 (平成 18 年度)
(参考 雲仙市 27 千万円)

イ はくさい

年間産出額 76 千万円・・・産出額は全国で第 8 位 (平成 18 年度)
(参考 南島原市 26 千万円)

ウ にんじん

年間産出額 117 千万円・・・産出額は全国で第 9 位 (平成 18 年度)

② 畜産 (※農林水産年報)

ア 鶏卵

年間産出額 279 千万円・・・産出額は県下で第 1 位 (平成 18 年度)
(参考 雲仙市 39 千万円)

イ 豚

年間産出額 239 千万円・・・産出額は県下で第 2 位 (平成 18 年度)
(参考 雲仙市 156 千万円、南島原市 90 千万円)

③ 海産物

ア わかめ (第 56 次農林水産統計)

年間産出量 505 トン・・・・・・ (参考 南島原市 660 トン)

イ のり (第 56 次農林水産統計)

年間産出量 758 トン・・・・・・ (参考 雲仙市 164 トン)

ウ こんぶ (H20 年漁協聞き取り)

年間産出量 38 トン

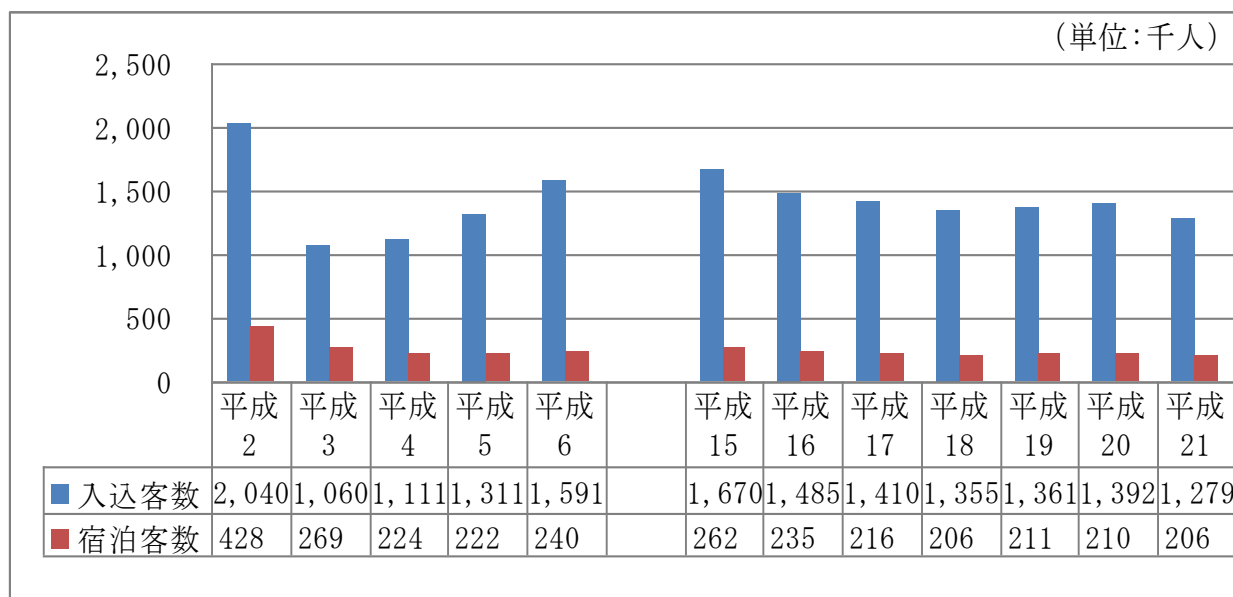
エ 灰干し (平成 21 年度漁協聞き取り)

年間生産額 77 万円

4. 観光

(1) 観光客数

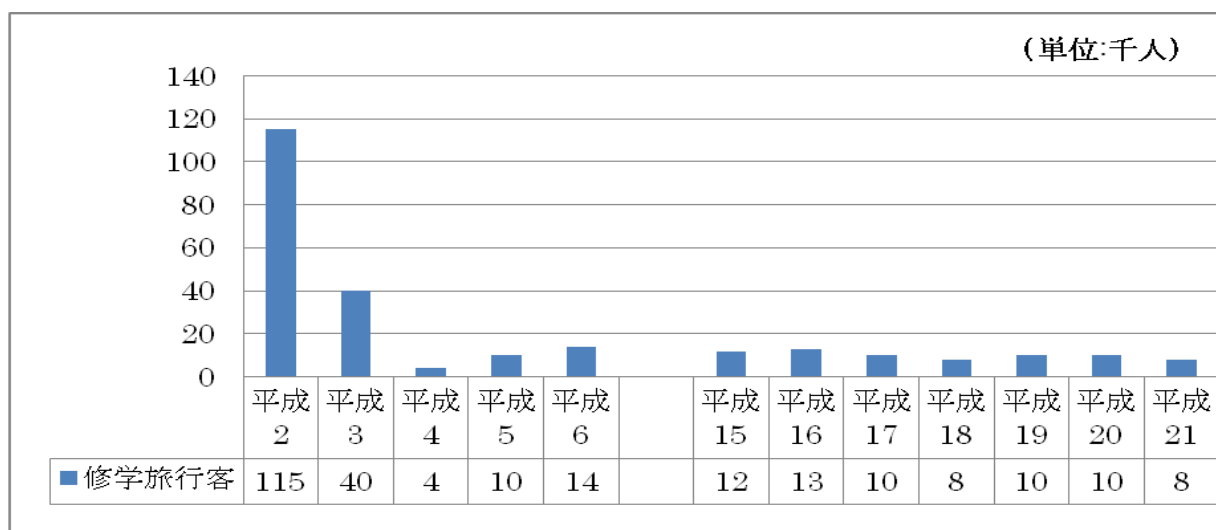
①年度別入込客及び宿泊客数



雲仙普賢岳噴火前の5年間と、島原市と有明町の合併前後7年を比較したもので、噴火前の平成2年と平成21年を比較すると、入込客は約63%に減少し、宿泊客は約48%に減少している。

最近の7年間の推移は、年々減少の傾向にある。

②年度別宿泊客の内修学旅行客数

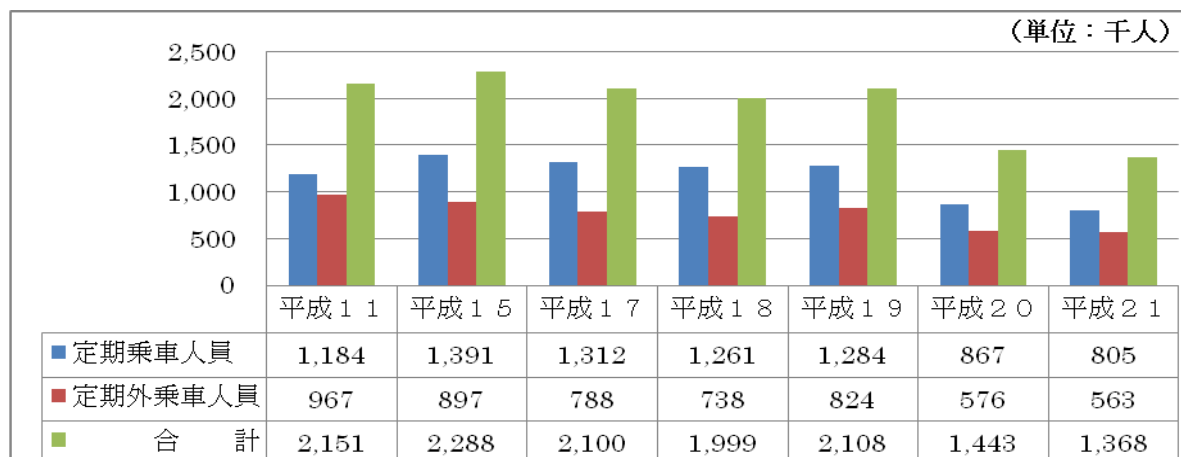


修学旅行の宿泊者の状況としては、平成17年以降は横ばいの状態にある。

なお、平成2年から6年までは、修学旅行だけでなく学生全員を集計しているため単純に比較はできない。

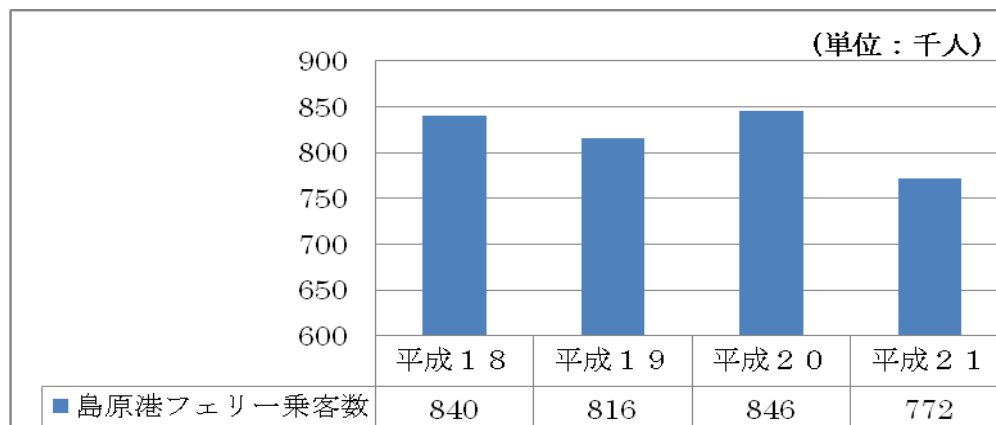
(2) 公共交通機関利用状況

①島原鉄道乗車人員数



島原鉄道の乗車人員は、例年 2 0 0 万人ほどが利用していたが、平成 2 0 年は、3 月末で島原鉄道南目線が廃止されたため急激に減少している。

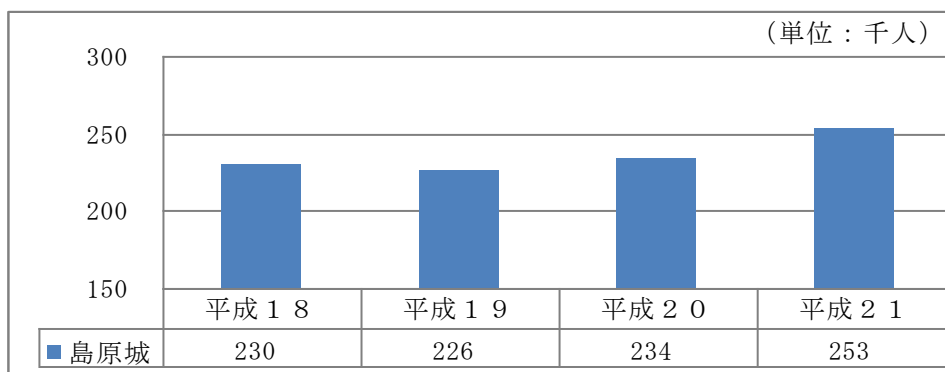
②島原港フェリー乗客数



島原港フェリーの乗客数は、平成 2 0 年度は 3 万人ほど持ち直したが、平成 2 1 年度はここ数年の中で一番少なくなっている。

(3) 各観光施設の入場者等の状況

① 島原城



島原城は、1618年（元和4年）に着工し、4～7年の歳月を経て完成した。

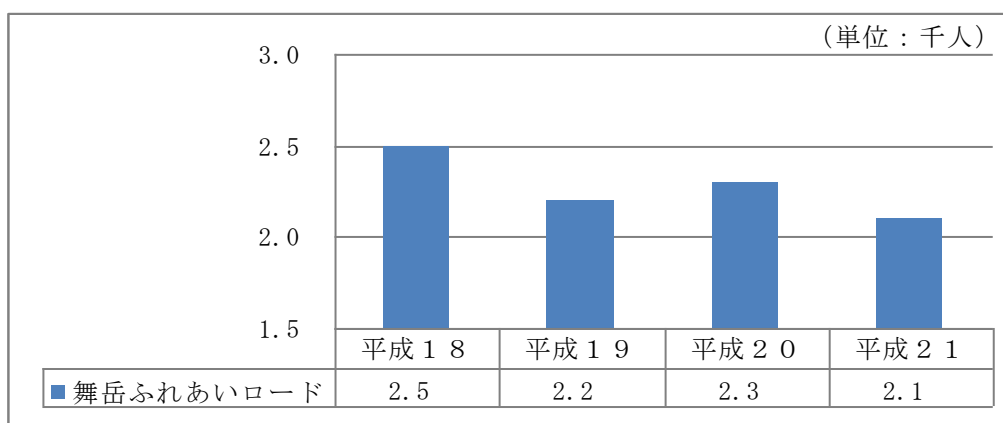
明治維新で廃城になり、払下げ・解体されたが、1964年（昭和39年）に天守閣が復元された。ここ数年では、23～25万人程度の観光客が訪れている。

② 武家屋敷

武家屋敷は、本市観光名所の1つで、平成21年には約10万7千人の観光客が訪れている。平成21年度に景観計画を策定し、街並みを保存するために、武家屋敷街なみ保存整備事業等の補助事業を実施している。

山本邸、鳥田邸、篠塚邸の3棟を一般公開し、より身近に藩政時代の面影に触れることができるようにしている。

③ 舞岳ふれあいロード

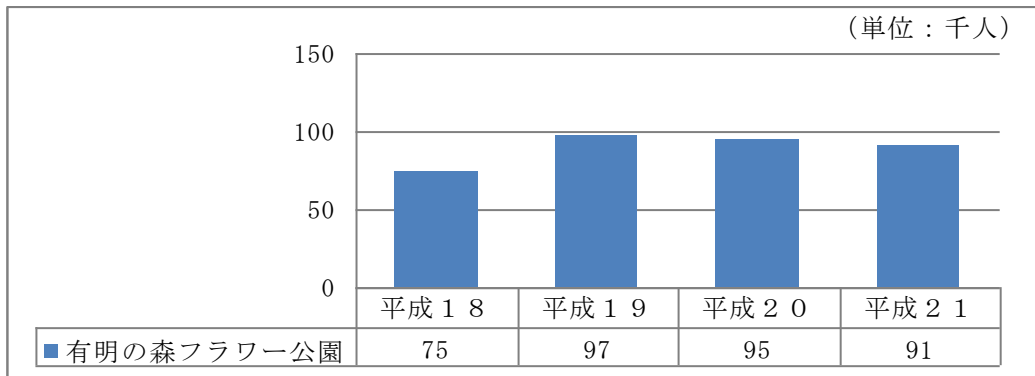


舞岳を頂点に扇状に広がる有明の台地にちなみ、8888段と全て末広りの平成8年8月8日午前8時に開通。

緑あふれる自然の中で多くの人々のふれあいと健康づくりを願って造られた。全長3km、標高差314m、山頂より平成新山を望むことができる。

毎年2千人を超える人が訪れている。

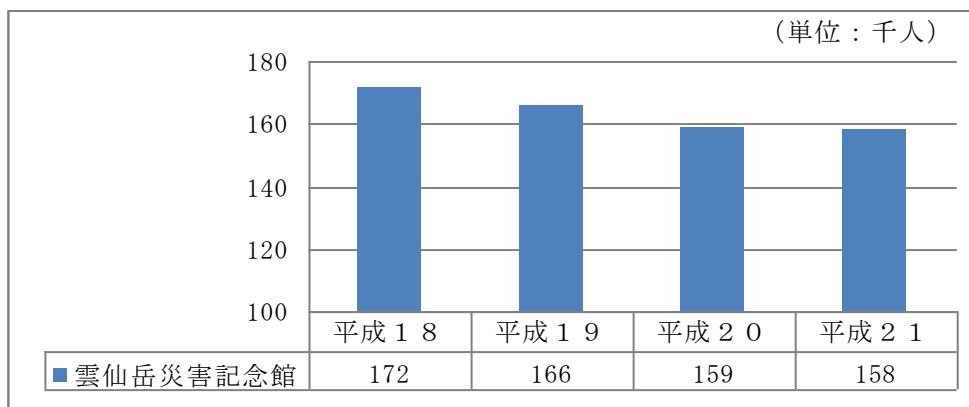
④ 有明の森フラワー公園



舞岳のふもと、県道愛野・島原線沿いにあり、眼下に有明海、背後には平成新山を望む風光明媚な場所で、四季折々の花が楽しめる公園。秋には、サルビアやコスモスが、まるで花のじゅうたんのよう咲き乱れ、公園内を埋め尽くす観光スポットとして親しまれている。

また、この公園を会場として、6月には地域の農畜産物等の特産品販売が行われる「有明ふるさと特産市」、10月にはフリーマーケットやステージイベントなどで賑わう「アリアケフェスタ」が開催されている。

⑤ 雲仙岳災害記念館

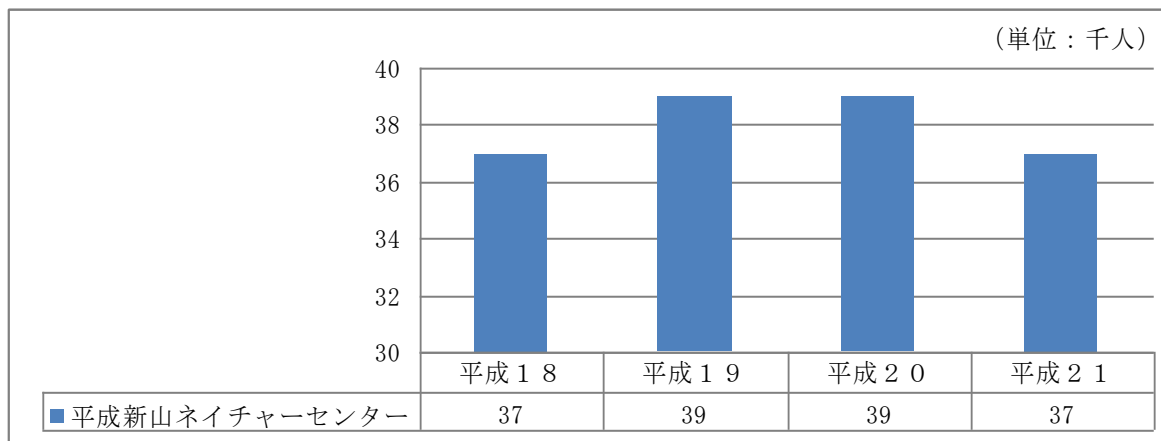


島原地域再生行動計画のプロジェクトの一つとして、平成14年に開館した火山体験学習施設で、平成2年11月に始まった雲仙・普賢岳の噴火活動から平成8年5月の噴火活動終息宣言までの出来事を、映像や様々な資料により学ぶことができる。

島原半島ジオパークの中核施設である。

ここ数年の入館者は減少の傾向にある。

⑥ 平成新山ネイチャーセンター



島原半島ジオパークのジオサイトの一つで、垂木台地という高台にあり「平成新山」が最も近くに見える場所。毎年4万人近い人が訪れている。

⑦ 鯉の泳ぐまち

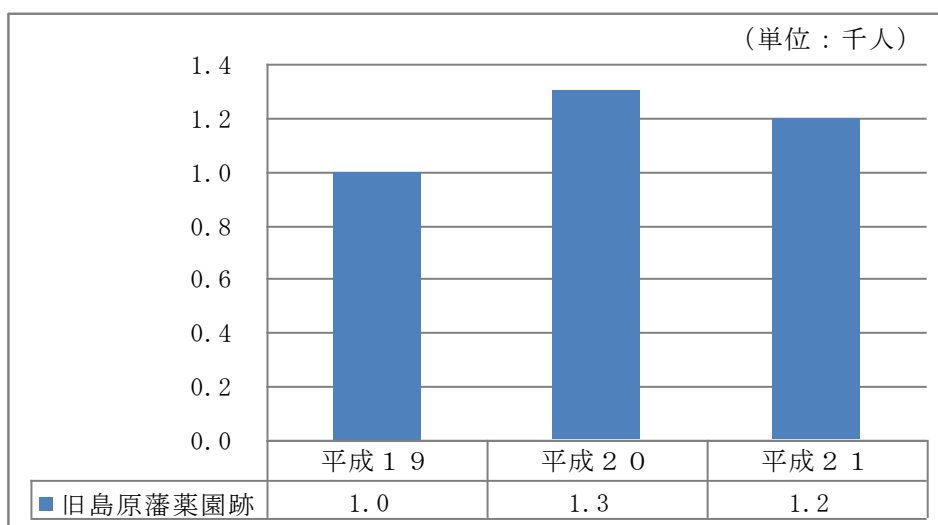
昭和56年から地域住民のまちづくりとして整備。平成21年度には四明荘を購入し、さらに観光客の誘客を図っており、平成21年度は年間で約6万1千人の人が訪れている。

⑧ 島原湧水群

市内60カ所の湧水ポイントがあり、全体の湧水量は1日に22万トンといわれている。四明荘、浜の川湧水、鯉の泳ぐまち、水屋敷、武家屋敷水路などが見どころ。

(4) 文化財の観光客の状況

① 旧島原藩薬園跡



国指定史跡である旧島原藩薬園跡は、毎年千人を超える観光客が訪れている。

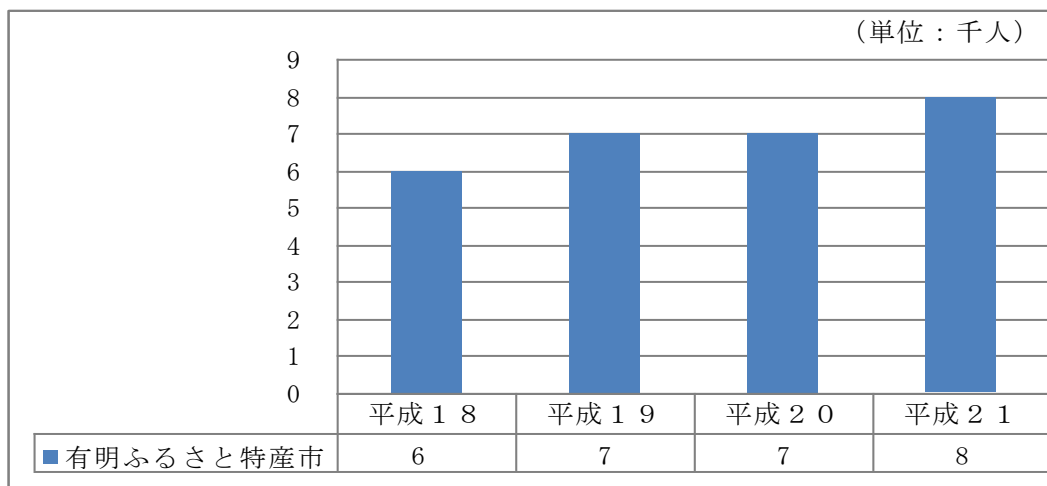
(5) イベント参加者の状況

① しまばら温泉不知火まつり

毎年、10月中旬に実施され、祭の華である市中パレードでは、ミス島原をはじめ馬上の凛々しい天草四郎を先頭に、遣欧少年使節・キリシタン大名・宣教師・侍大将・農民軍・娘子隊などが続く「キリシタン行列」や島原の伝統芸能を披露する「踊りパレード」、市内の各団体が趣向を凝らしての「山車パレード」が展開される。

平成20年は1万1千人が、平成21年は約2万人が参加している。

② 有明ふるさと特産市



地域の農畜産物、海産物、加工食品等の特産品の販路拡大とPR、また地元地消を目的として、毎年6月第1日曜日の午前8時から12時まで有明の森フラワー公園で開催される。

生産者と消費者とが直接情報交換ができる場所として、観光客へ好評。あわせて、この季節はサルビアやマリーゴールドが公園内を彩るので、景観を楽しむことができる。

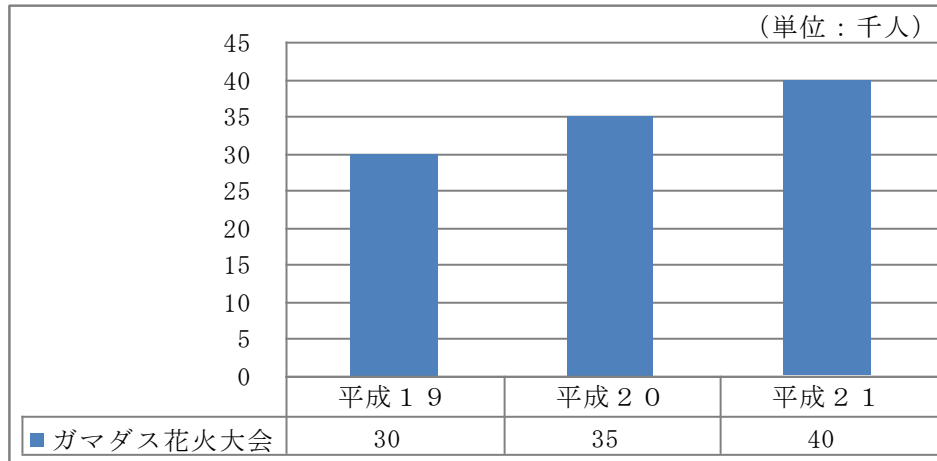
③ 島原ウィンターナイト・ファンタジア

12月上旬から1月上旬まで、島原外港緑地公園で実施。平成20年度は約1万5千人が、平成21年度には約2万人が来場。

④ 精霊流し

8月15日に市内各所で開催。300年の長きに渡り続いている伝統行事で、毎年約100隻の船が流される。毎年2万人程度の人が見学している。

⑤島原ガマダス花火大会



8月下旬に島原港で開催され、約6,000発の花火が打ち上げられる。
年々見学者は増加の傾向にある。

⑥ 有明フェスタ

10月下旬開催。有明の森フラワー公園で実施。花の中の遊歩道においてフリーマーケット、旬の味がお得な有明特産品販売、ビンゴゲームなどが催される。

⑦ 有明ガネまつり

広く有明の「がね」のPRを行うとともに、漁業者の活性化、所得向上を目的に平成8年から実施。

⑧ 島原ふるさと産業まつり

地場産業の育成を目的として開催されている。島原の特産品や地元産品・日常品などを取り扱う店舗が一堂に会し開催される。

⑨ 島原水まつり

8月上旬に開催しており、武家屋敷、浜の川湧水、鯉の泳ぐまちなど昭和62年から実施。毎年約9千人の観光客が訪れている。

⑩ 島原城下ひなめぐり

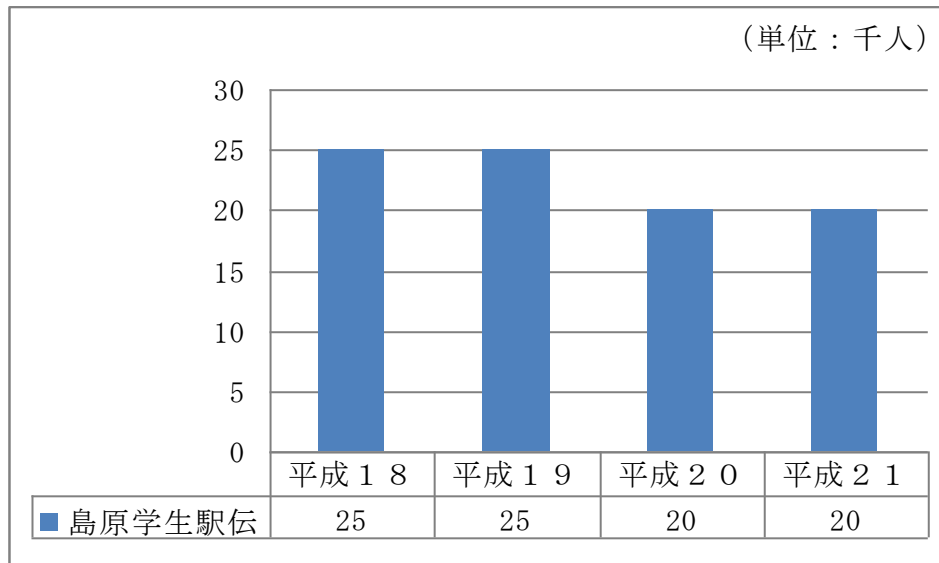
1月下旬から3月上旬まで実施。商店街、観光施設、宿泊施設に各種のひな人形を展示。

⑪ 島原城薪能

1686年（貞享3年）3月6日、忠房が帰国するにあたって將軍綱吉より馬を拝領し、閏3月26日に島原に帰るや、それを祝っての御能の会が催されたのが起源。昭和58年秋、日本古来の芸能と現代庶民との文化の接点を求めて復活。

毎年、約1,000人が来場している。

⑫ 島原学生駅伝



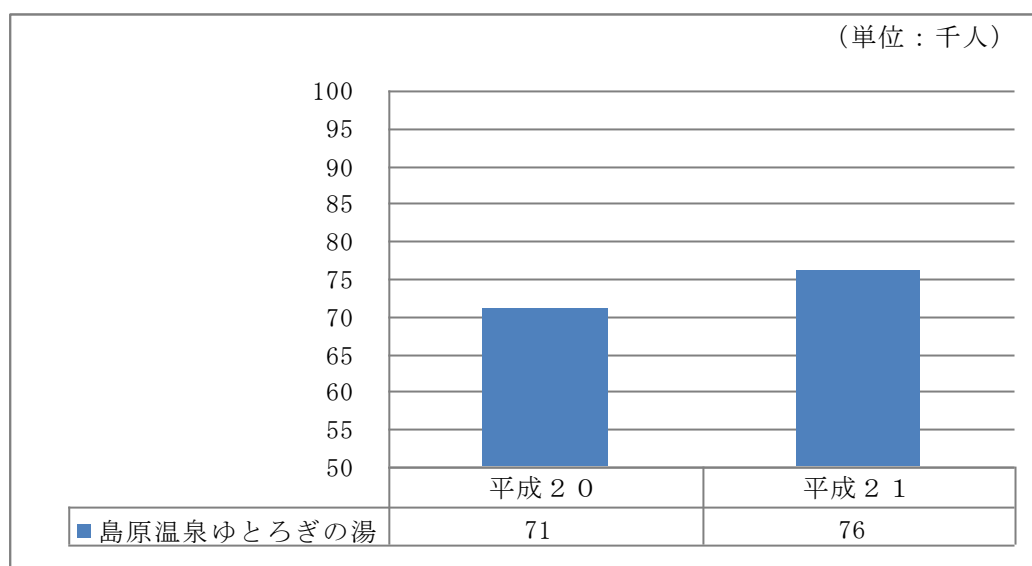
九州の学生たちが学校の名誉をかけて島原市内を1本の襷をつなぎ走破する大会。
開催時期は12月第1週の土曜日。

⑬ 島原半島ツーデーマーチ

10月第3週に開催。雲仙ステージ、島原ステージで実施。
平成21年度は、約1,400人が参加した。

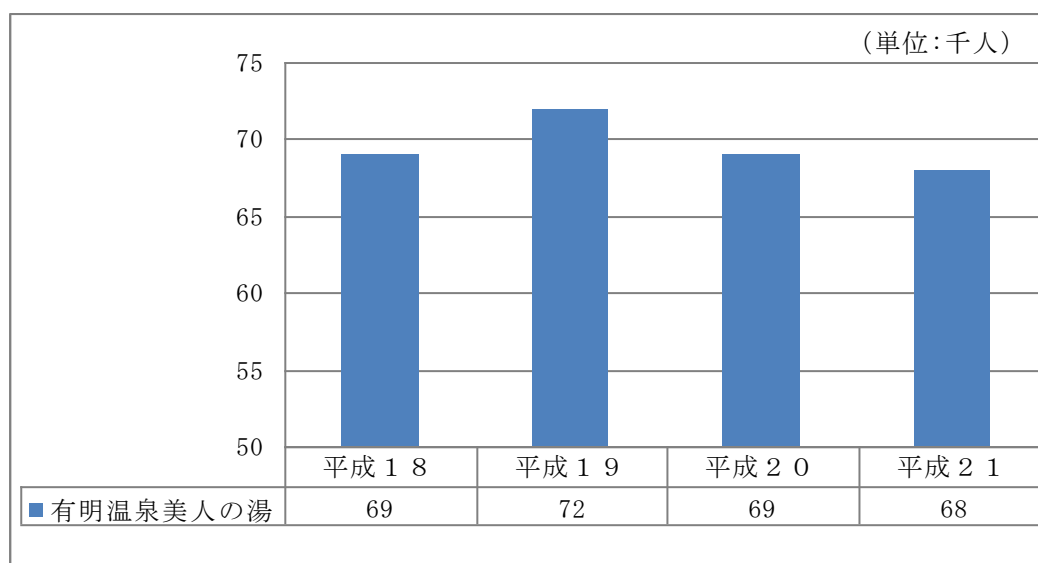
(6) 温泉施設の利用状況

① 島原温泉ゆとろぎの湯利用者



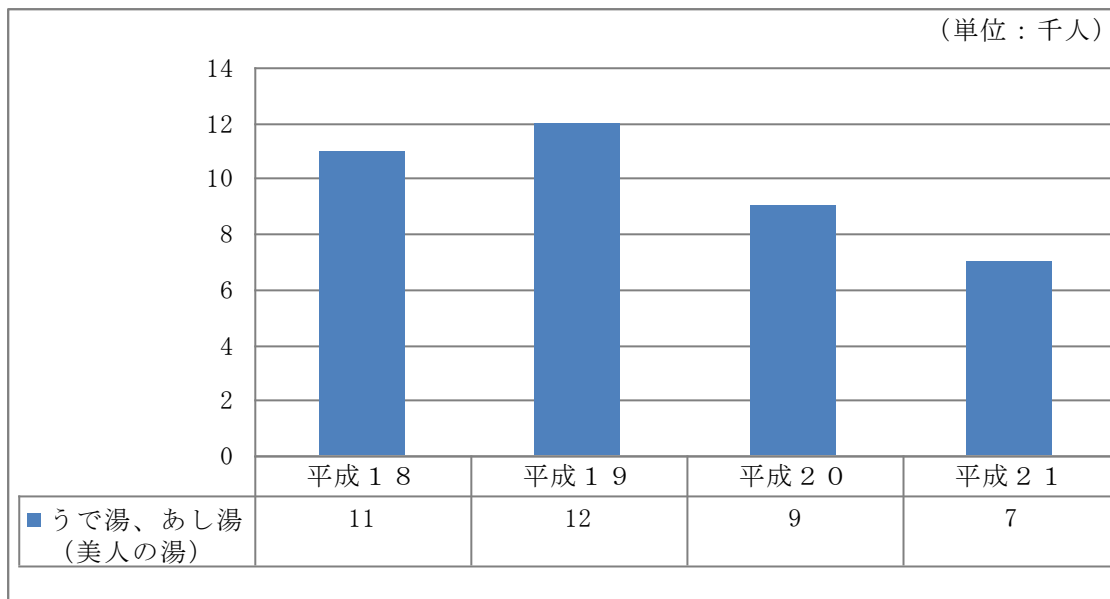
島原市中心部の一番街アーケードの近くに、平成 2 0 年 4 月 1 日オープンした。
毎年 7 万人を超える人が利用している。

② 有明温泉美人の湯



平成 1 5 年 1 2 月、有明福祉センター付近で温泉採掘に成功し、その温泉は入浴すると肌がツルツルになることから「美人の湯」と名付けられた。
毎年、7 万人前後の人が利用している。

③ うで湯、あし湯



福祉センターに隣接している無料のうで湯及びあし湯
平成 1 2 年以降の利用者は、減少の傾向にある。

④ 島原温泉の特徴

島原温泉（元池第二源泉）

泉質：ナトリウム・マグネシウム－炭酸水素塩泉、泉温：41.3℃

雲仙温泉

泉質：酸性硫黄泉

小浜温泉

泉質：塩化物泉、泉温：10.5℃

(7) 島原の郷土料理、特産品、名品ブランド

① 郷土料理

ア ガンバ（ふぐ）料理

ガンバ料理の代表格と言えば「湯引き」と「ガネ炊き」です。「湯引き」は厚切りにした身をさっと湯通しして、氷水で身を引きしめます。タレはダイダイ酢（なければポン酢）。薬味には地元で「フクシュ」と呼ばれるニンニクの茎のほか、梅干し、ネギ、モミジおろしなどを使います。「ガネ炊き」は余った骨の部分を使用します。通常の煮付けと違って、煮汁にそのまま浸けないで「乾煎り」するのがコツです。そのときに出るアブクが「まるで蟹のようだ」ということから名前が付いたと言われています。炊き合わせの材料はタケノコやフクシュ、梅干しなどです。

イ ガネ（カニ）料理

「ワタリガニ」のことを地元では「ガネ」と呼びます。

調理方法はいたってシンプル。お湯を沸かしながら 20 分ほど茹でれば、極上の味ができ上がりです。その際に注意しなければならないのは、しっかりと脚の部分をくくりつけておくこと。最初から熱湯に浸けないこともポイントです。甲羅に日本酒の熱燗を注ぎ込んでいただく「ツザケ」の味はまた格別。一杯目はそのまま。二杯目からは柿色がかかった「セキ」を溶かしながらいただきます。

ウ 寒ざらし

いわゆる「しらたま団子」のことですが、今はなき浜の川の「銀水」がテレビ番組等で幾度となく紹介されたことで「かんざらし」の名前は一躍全国版となりました。タレは蜂蜜、シロップなどで作りますが、最終的な味付けはその店の秘伝。島原城や武家屋敷の売店のほか、市内飲食店でも食べられます。

エ 具雑煮

島原郷土料理の代表格。正月の雑煮は各地で色々と違いますが、島原地方の雑煮は具たくさんで、山の幸、海の幸がいっぱい盛り込まれていて、豊かな島原の産物を集大成化したようなものです。また、一説には、何と、その考案者は一揆軍の総大将、天草四郎時貞、とも言われています。材料は、鶏肉、アナゴ、シロナ、レンコン、ゴボウ、凍り豆腐、椎茸、卵焼き、丸もち、春菊など十数種類。平成 19 年には、農林水産省の「農山漁村の郷土料理百選」に卓袱料理と並び選定されています。

オ ろくべえ

かつて島原一帯が大飢饉に見舞われた際に、名主の六兵衛という人が考え出した、とされる耐乏食です。暖かい気候の島原では早くから甘薯作りが盛んでした。それで凶作も乗り越えることができたそうです。原料のサツマイモの粉に、つなぎに粘性のある山芋を使用しています。見た目は太麺のソバのようですが、甘味があるのが特徴です。ダシはすまし汁で、ねぎや七味唐辛子をかけると美味しさが増します。

カ 島原手延べそうめん

島原の乱の後、瀬戸内海の小豆島などから移住してきた人々によって製造がはじまった、とされています。手延べ素麺は小麦、塩、綿実油、水を原料として製造されます。熟成の時間も必要となるため、一回の製造に一〜二日かかります。厳選された小麦粉を用いるのはいうまでもありませんが、粉を見極め、その性質を最大限に生かしながら最高の状態のめんに仕上げていくのが伝統の技術です。島原手延べそうめんの特徴は何といっても腰の強さです。夏の暑い日に食べる冷やしそうめんも最高ですが、地獄そうめんを作る時のように、煮込んでもなかなか煮崩れしないのが自慢です。

② 特産品（農水産物）

ア ガザミ（有明ガネ）

ここでいう「有明ガネ」とは「ワタリガニ」のことを指します。有明海沿岸で獲れ、夏は7月から9月にオスの「ガネ」が、冬は11月から4月に卵を持ったメスの「ガネ」が美味です。一般的な食べ方は塩ゆでで、ぎゅっと詰まった身は甘くて風味豊かです。また、ミソや卵も食通をうならせる味わいです。

イ ガンバ

島原地方の方言では、河豚（ふぐ）のことを総称して「ガンバ」と呼びます。語源は外国語に由来するものを含めて諸説ありますが、あまりに美味しいので、命と引き換えに「鰐（がん）（棺のこと）桶を用意してでも食べたい」（鰐ば→ガンバ）との切なる思いを代弁したもの、との説が一般的です。魚類図鑑等によれば、河豚の種類は100以上あるといわれていますが、日本近海に生息しているのは約50種類。

島原地方で食べられているのは主に、「トラフグ」と「ナシフグ（通称・ムキガンバ）」の二種類です。「ガンバ」料理は秋（彼岸）から春（彼岸）にかけてが、シーズンです。島原の人々は花見の時に、郷土料理の「湯引き」や「ガネ炊き」を持ち込んで酒の肴としています。

ウ 海苔

遠浅で波静かな有明海では昔から、対岸の熊本や福岡、佐賀と競うかのように「海苔」の養殖が盛んに行われています。種付け（菌の植え付け）は十月ごろから始まり、十二月から三月頃にかけて収穫されます。収穫された海苔は、ほとんどが薄い板状に乾燥させた「乾海苔」として出荷されます。軽くあぶった「乾海苔」の香りと食感は食欲をそそります。また、生産施設は「ノリヒビ」と呼ばれ、冬の風物詩ともなっており、写真愛好家にとっては絶好の被写体として高い人気を誇っています。

③ 特産品（工芸品等）

ア 島原眉山焼

鍋島・伊万里系統の染付磁器です。純白の大理石のように硬度で焼き上げ、これに光沢のあるガラス質の釉薬をかけて焼き上げられています。白磁のほか、陶土そのものをブルーの色生地に染めて焼かれた「ナガサキブルー」と呼ばれる作品は、郷土の名器の伝統を受け継ぎ高い評価を得ています。

イ 島原焼

島原焼窯元は、昭和60年、南崩山町に創業した窯元です。生地に島原半島南部の土を使い、釉薬には眉山のセレクト土、みかん灰、わら灰などを使用して食器、茶器、花器などが制作されています。最近では、新たに雲仙・普賢岳の火山灰をそのまま天然の釉薬として用い、落ち着いた色合いの作品を生み出しています。島原焼「流し掛け釉四方大皿」は、平成八年の新春に、皇居応接の間を飾る栄誉を賜っています。

ウ 島原木綿

有明町史によると、江戸時代既に「島原木綿」について記されており、大正・昭和初期になると大三東村・湯江村・三会村・杉谷村を中心に盛んに織られ、品質の良い織布は更に足踏み改良機の出現によって、九州一円、関西、朝鮮と販路を広げたと記されています。当時の記録では、県下の機数は1,196台、大三東村だけでも600余台とあります。織りの中心だったことがわかります。その島原木綿も化学繊維の進出、衣料の大量生産時代を迎えたことで人々の記憶からも薄れていきました。

昭和62年の有明町記念行事を契機に島原木綿再現の機運が高まり、数人の婦人によって実現しました。その後保存会が発足し、以後約20年、平成の島原木綿として現在約10数名の会員によって織り継がれています。島原木綿はもともと仕事着として織られ、縞立ては男縞（細）・女縞・若者縞（太）に大別されていました。有明町民族資料館には大正・昭和初期の白縞・紺縞もありますが、多くは縞木綿で占められています。

エ 和ろう

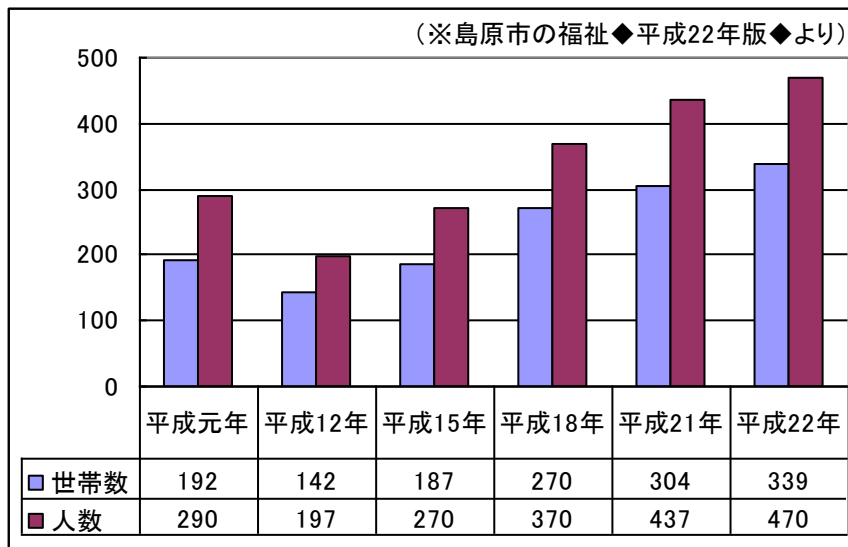
寛政4年（1792）4月、大地震による眉山崩壊で津波が城下町を襲い、その復興に藩財政は大変困っていました。藩ではハゼ・木蠟の増産でその危機を切り抜けています。ハゼの実百万斤の生産体制をとり、大阪商人へ売出して、年7千～9千両の収入を上げていたようです。他の木よりも良質の実が多量に結実する変種が杉谷村で発見され、昭和35年（1960）、その「昭和福ハゼ」は、長崎県の天然記念物に指定されました。その和ろうを郷土の伝統産業として根付かせようとしているところがあります。

県下で唯一、有明町の本多木蠟工業所がそれです。西洋ローソクは吹けばすぐ消えますが、和ローソクはゆらぎながらも少々の風では消えません。また、和ろうの用途は、ロウソクはもちろん、化粧品・薬・ボールペン・ビン付け油など多種多様にわたっています。

5. 社会福祉、保健、環境

(1) 生活保護の状況

① 島原市の生活保護世帯、人数の推移



本市の生活保護世帯、人数とも平成12年調査以降は増加の傾向にある。

② 長崎県及び島原半島の状況 (※長崎県生活保護速報 H22.6)

	実人数 (人)	半島内割合 (%)	県内割合 (%)	人口対千人 (人)
島原市	482	34.0	1.7	10.1
雲仙市	536	37.8	1.9	11.3
南島原市	400	28.2	1.4	8.0
島原半島	1,418		5.1	9.8
長崎県	28,038			19.7

本市の生活保護の実人数及び人口千人当たりの人数については、島原半島3市では2番目に多い数値となっている。なお、長崎県全体と比較すると、千人当たりの人数は、島原半島3市とも長崎県の約半分程度となっている。

(2) 保育園・幼稚園の状況 (※H22.5.1現在)

	保育所数 (園)	保育園半島 内割合(%)	幼稚園数 (園)	幼稚園半島 内割合(%)	入園児数 (人数)
島原市	22	28.6	7	43.8	1,740
雲仙市	28	36.4	4	25.0	1,724
南島原市	27	35.1	5	31.3	1,717
合 計	77	100.0	16	100.0	5,181

保育園・幼稚園の施設数について、本市では他市と比較して、保育園の設置割合が低く、幼稚園の設置割合が高いことがうかがえる。

(3) 医療の状況

① 医療施設（※H20.10月現在、精神科病院及び一般診療所を含む）

	病院数	病院数の半島 内割合(%)	病院病床数	病床数の半島 内割合(%)	人口対千人 病床数
島原市	52	41.0	1,414	48.6	28
雲仙市	37	29.1	854	29.3	17
南島原市	38	29.9	643	22.1	12
島原半島	127		2,911		19
長崎県	1,603		33,305		23

本市の医療施設数（病院、病床）及び人口千人当たりの病床数は、島原半島3市の中では高い数値になっている。また、人口千人当たりの病床数を長崎県全体と比較しても、本市は、施設が充実していることがうかがえる。

② 医師数（※H20.12月末現在）

	医師数(人)	医師数の半島 内割合(%)	人口対千人 医師数(人)
島原市	111	46.3	2.2
雲仙市	75	31.3	1.5
南島原市	54	22.5	1.0
島原半島	240		1.6
長崎県	3,765		2.6

本市の医師数及び人口千人当たりの医師数は、島原半島では高い数値にあるが、長崎県全体と比較すると、人口千人当たりの医師数は少ない数値となっている。

③ 歯科医院・医師数（※歯科医院数はH22.3月末現在、医師数はH20.12月末現在）

	歯科医院数	医院数の半島 内割合(%)	歯科医師数	医師数の半島 内割合(%)	人口対千人 歯科医師数
島原市	26	36.1	35	40.2	0.7
雲仙市	19	26.4	24	27.6	0.5
南島原市	27	37.5	28	32.2	0.5
島原半島	72		87		0.6
長崎県	751		1,311		0.9

本市の歯科医師数及び人口千人当たりの医師数は、島原半島では一番高い数値になっているが、長崎県全体と比較すると、人口千人当たりの医師数は少ない数値となっている。

④ 薬剤師の状況（※H20.12月末現在）

	薬剤師数	薬剤師数の半 島内割合(%)	人口対千人 薬剤師数
島原市	26	54.2	0.5
雲仙市	15	31.3	0.3
南島原市	7	14.6	0.1
島原半島	48		0.3
長崎県	613		0.4

本市の薬剤師数については、3市の中では一番多い。人口千人当たりの人数については、長崎県全体よりも高い数値となっている。

(4) ゴミの状況

① 年間排出量（※平成20年度 一般廃棄物処理実態調査結果）

(単位:t)

	島原市	雲仙市	南島原市	島原半島 (3市の合計)	長崎県 (全体)	本市の半島 割合(%)	本市の県 割合(%)
可燃物	18,178	13,091	14,040	45,309	417,433	40.1	4.4
金属類	815	310	244	1,369	9,004	59.5	9.1
ガラス類	513	338	455	1,306	10,474	39.3	4.9
ペットボトル	122	77	34	233	2,623	52.4	4.7
プラスチック類	166	10	25	201	7,204	82.6	2.3
紙類	958	296	688	1,942	27,214	49.3	3.5
紙製容器包装	25	9	14	48	609	52.1	4.1
その他不燃物等	542	241	364	1,147	41,967	47.3	1.3
合 計	21,319	14,372	15,864	51,555	516,528	41.4	4.1

ゴミの内訳は、可燃物が一番多く、本市においては約85%を占めている。

② 1人1日当たり排出量

(単位: kg)

	島原市	雲仙市	南島原市	長崎県(全体)
1人1日当たり排出量	1.2	0.8	0.8	1.0

ゴミの1人1日当たり排出量は、島原半島及び県内と比較して高い数値となっている。

6. 教育、文化

(1) 小学校の状況（※平成21年度教育統計調査報告）

① 学校数、児童数

	学校数	学校数半島内割合(%)	児童数(人)	児童数半島内割合(%)	人口対千人児童数(人)
島原市	10	16.1	2,763	32.8	56.0
雲仙市	21	33.9	2,825	33.6	57.1
南島原市	31	50.0	2,826	33.6	52.8
島原半島	62		8,414		55.2
長崎県	401		82,840		57.8

本市の小学校数は、島原半島3市の中で一番少ない。児童数は3市とも大きな差はない。人口千人当たりの児童数も、長崎県及び島原半島と比較しても大きな差はない状態である。

② 教員数

	教員数	教員1人当たり児童数(人)
島原市	180	15.4
雲仙市	244	11.6
南島原市	283	10.0
島原半島	707	11.9
長崎県	5,717	14.5

本市の教員1人当たりの児童数は、長崎県及び島原半島3市と比較して高い数値となっている。

(2) 中学校の状況（※平成21年度教育統計調査報告）

① 学校数、生徒数

	学校数	学校数半島内割合(%)	生徒数	生徒数半島内割合(%)	人口対千人
島原市	5	23.8	1,582	33.3	32.1
雲仙市	8	38.1	1,591	33.5	32.1
南島原市	8	38.1	1,572	33.1	29.4
島原半島	21		4,745		31.1
長崎県	211		45,092		31.4

本市の中学校数は、島原半島3市の中で一番少ない。生徒数は3市とも大きな差はない。人口千人当たりの児童数も、長崎県及び島原半3市と比較しても大きな差はない状態である。

② 教員数

	教員数	教員1人当たり生徒数(人)
島原市	111	14.3
雲仙市	139	11.4
南島原市	135	11.6
島原半島	385	12.3
長崎県	3,681	12.2

本市の教員1人当たりの生徒数は、長崎県及び島原半島3市と比較して高い数値となっている。

(3) 高等学校の状況（※平成21年度教育統計調査報告）

① 学校数、生徒数

	学校数	学校数半島内割合(%)	生徒数	生徒数半島内割合(%)
島原市	5	55.6	2,343	57.6
雲仙市	2	22.2	796	19.6
南島原市	2	22.2	929	22.8
島原半島	9		4,068	
長崎県	83		45,371	

本市の高等学校数は、島原半島3市の中で一番多い。なお、人口千人当たりの生徒数については、他市からの生徒もいるため、計算していない。

② 教員数

	教員数	教員1人当たり生徒数(人)
島原市	190	12.3
雲仙市	69	11.5
南島原市	78	11.9
島原半島	337	12.1
長崎県	3,544	12.8

高等学校教員1人当たりの生徒数は、長崎県及び島原半島3市と比較しても、大きな差はない状態である。

(4) 特別支援学校の状況（※平成21年度教育統計調査報告）

	島原市	長崎県	県内割合
学校数	1	16	6.3
生徒数	89	1,328	6.7
教員数	71	866	8.2
教員1人当たり生徒数(人)	1.3	1.5	

本市には、特別支援学校数は1校が設立されている。

(5) 図書館の状況（※長崎県立長崎図書館HP「県内市町立図書館等の現状」）

① 図書館、図書室等及び登録者（H22.3末現在）

	公立図書館数	公民館図書室等数	登録者数(人)	人口千人当たり登録者
島原市	2	5	45,019	922.8
雲仙市	1	6	8,412	171.5
南島原市	5	1	62,218	1,177.1
島原半島	8	12	115,649	767.5
長崎県	36	146	734,396	513.5

(注:長崎県は県立図書館を除く市町の分の合計)

本市は図書館を2館設置しており、登録者（該当市以外の住民を含む）については、長崎県全体と比較すると千人当たり400人ほど高い数値となっている。

② 蔵書数、貸し出し冊数（※H22.3月末現在）

	蔵書数	蔵書数半島 内割合(%)	人口1人当 り蔵書冊数	年間貸し出し 冊数	人口1人当 り貸し出し冊
島原市	190,248	25.8	3.9	253,219	5.1
雲仙市	142,975	19.4	2.9	150,629	3.0
南島原市	404,412	54.8	7.7	474,780	8.9
島原半島	737,635		4.9	878,628	5.8
長崎県	4,484,270		3.1	7,780,216	5.4

（注：長崎県は県立図書館を除く市町分の合計）

本市の人口1人当たり蔵書数は、長崎県全体で比較すると高い数値となっているが、島原半島全体と比較すると低い数値となっている。また、人口1人当たりの貸し出し冊数は、長崎県全体及び島原半島全体と比較しても、低い数値となっている。

(6) 文化財の状況

① 指定文化財の状況

国指定文化財数	2
県指定文化財数	9
市指定文化財数	77

（※本市ホームページより）

	区別	種別	名称	所在	指定時
1	国	史跡	旧島原藩薬園跡	小山町4703	S4.4.2
2	国	天然記念物	平成新山	三会・安中温泉岳国有林	H16.4.5
3	県	史跡	まだれいな銘キリシタン墓碑	山寺町 共同墓地	S2.11.8
4	県	天然記念物 (植)	有明町の大楠	有明町大三東甲2114	S33.6.5
5	県	天然記念物	熊野神社の大クス	杉山町	S35.7.13
6	県	天然記念物	熊野神社の大ムク	杉山町	S35.7.13
7	県	天然記念物	島原イチゴ自生地	南千本木	S35.3.22
8	県	有形文化財 (歴史資料)	混一疆理歴代国都地図	本光寺	H11.2.17
9	県	有形文化財 (歴史資料)	日本大地図3鋪(一組)	本光寺	H17.3.25
10	県	有形文化財 (考古資料)	景華園遺跡出土の一括遺物百二十二点	城内一丁目 島原図書館	H18.3.3
11	県	有形文化財 (工芸品)	刀 折返銘 神氣 附 本阿弥光温折紙一通	城内一丁目 島原城	H19.8.31

7. 市民生活

(1) 居住、安全

【消防関係】

項 目	数 値	単 位	備 考
消防団員数	648	人	H22.4.1現在
消防団員数 (人口千人当たり)	12.94	人	
年間出火件数	26	件	平成22年度「消防年報」

【交通関係】

項 目	数 値	単 位	備 考
交通事故発生件数	279	件	平成21年交通白書 (※参考 雲仙市 279件、南島原市 167件)
交通事故発生件数 (人口千人当たり)	5.68	件	(※平成21年12月末人口)
交通事故発生件数 (1日当たり)	0.76	件	

【刑法犯関係】

(※島原警察署生活安全課聞き取り)

年間刑法犯認知件数	288	件	平成21年12月末現在 (※参考 雲仙市 207件、南島原市 198件)
刑法犯認知件数 (人口千人当たり)	5.86	件	(※平成21年12月末人口)
刑法犯認知件数 (1日当たり)	0.79	件	

【自主防災会関係】

(※島原警察署生活安全課聞き取り)

自主防災会数	227	団体	
自主防災会組織率	100	%	(※平成22年4月1日現在)

(2) 水道

水道事業

項 目	数 値	単 位	備 考
給水人口	47,875	人	
給水率	98.1	%	
年間給水量	6,592,131	m ³	
年間給水量 (1世帯1日当たり)	911	ℓ	

(3) 町内会・自治会

【町内会・自治会】

項 目	数 値	単 位	備 考
町内会・自治会数	227	団体	平成22年5月現在
自治公民館等数	112	館	
自治公民館設置率	49.3	%	
町内会・自治会 加入世帯	14,401	世帯	平成22年5月現在
町内会・自治会 加入率	76.9	%	平成22年5月現在

(4) 島原市の平均寿命等（厚生労働省のホームページより）

男性の平均寿命 79.5才（平成17年市区町村別平均寿命より）

女性の平均寿命 86.1才（平成17年市区町村別平均寿命より）

合計特殊出生率 1.64

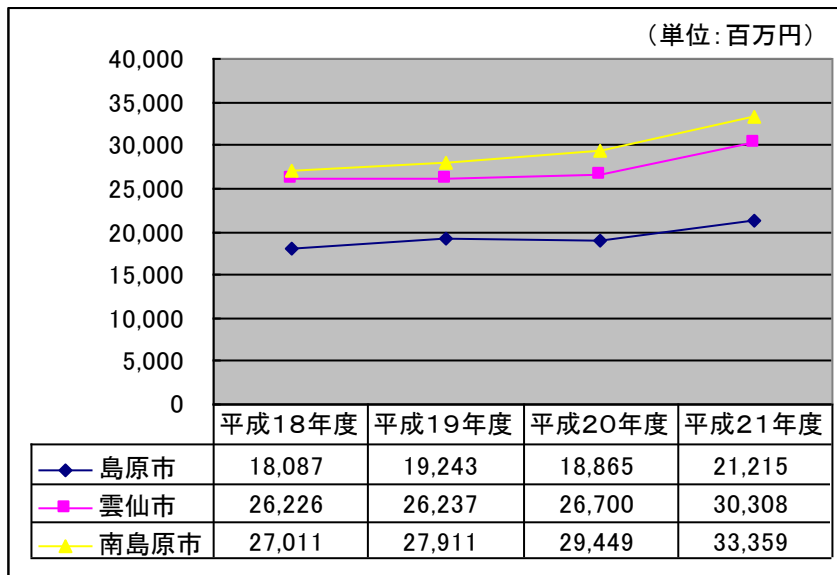
（平成15～19年人口動態保健所・市区町村別統計より）

（人口統計上の指標で、一人の女性が一生に産む子どもの平均数を示す。この指標によって、異なる時代、異なる集団間の出生による人口の自然増減を比較・評価することができる。）

8. 財政（※平成21年度の各数値は、現時点では見込み）

(1) 歳入、歳出

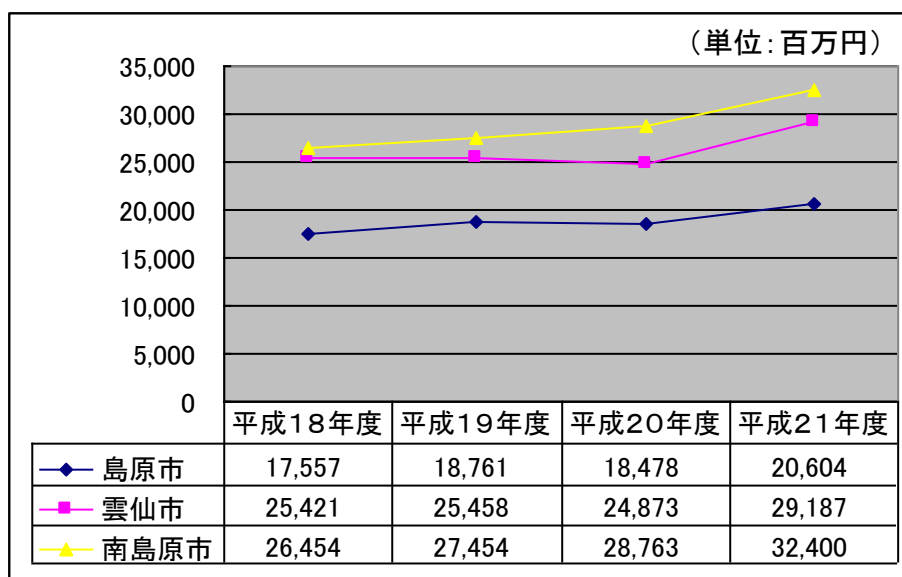
① 歳入決算の状況



【長崎県及び島原半島における歳入決算の割合（単位：百万円）】

	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度
長崎県	688,064	679,564	681,206	739,831
本市の割合	2.6%	2.8%	2.8%	2.9%
島原半島	71,324	73,391	75,014	84,882
本市の割合	25.4%	26.2%	25.1%	25.0%

② 歳出決算の状況



【長崎県及び島原半島における歳出決算の割合（単位：百万円）】

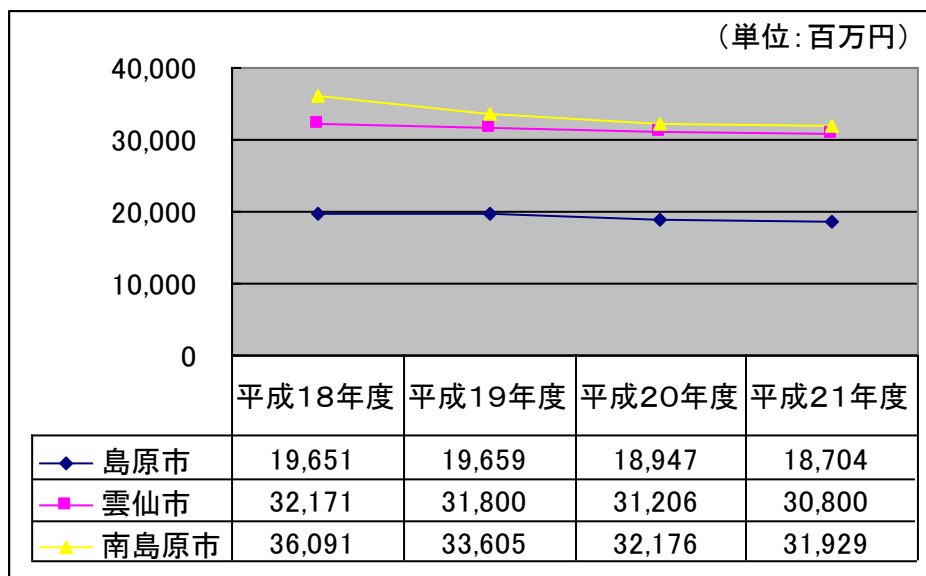
	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度
長崎県	673,171	665,708	653,836	720,075
本市の割合	2.6%	2.8%	2.8%	2.9%
島原半島	69,432	71,673	72,114	82,191
本市の割合	25.3	26.2	25.6	25.1

【人口1人当たり歳出決算額（平成21年度）】

	歳出決算額(単位:千円)
島原市	420.9
雲仙市	594.0
南島原市	612.2

(2) 地方債、積立金

① 地方債現在高



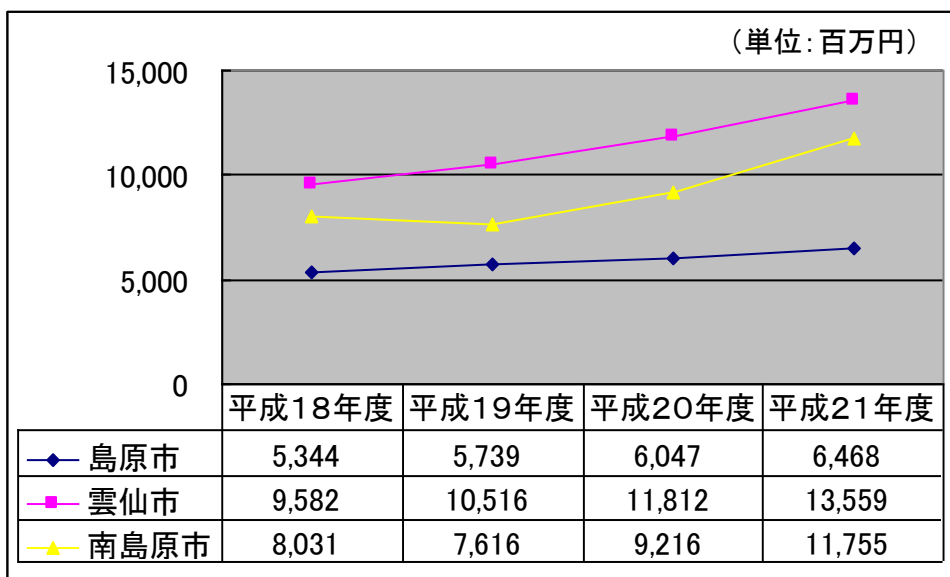
【長崎県及び島原半島における地方債現在高の割合（単位：百万円）】

	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度
長崎県	878,485	859,452	832,399	816,006
本市の割合	2.2%	2.3%	2.3%	2.3%
島原半島	87,913	85,064	82,329	81,433
本市の割合	22.4%	23.1%	23.0%	23.0%

【平成 21 年度末人口1人当たり地方債現在高】

	地方債現在高(単位:千円)
島原市	382.1
雲仙市	626.8
南島原市	603.3

② 積立金現在高



【長崎県及び島原半島における積立金現在高の割合（単位：百万円）】

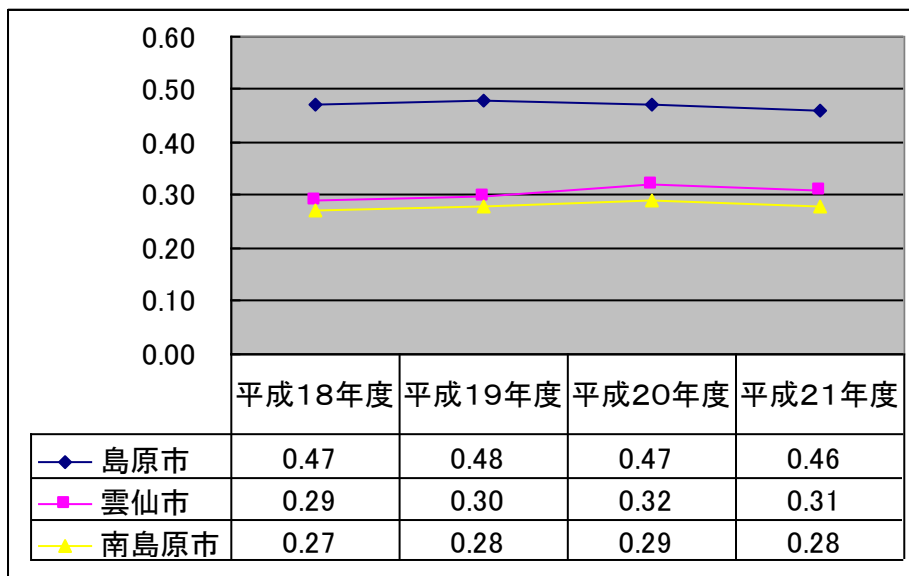
	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度
長崎県	142,319	139,048	145,261	158,125
本市の割合	3.8%	4.1%	4.2%	4.1%
島原半島	22,957	23,871	27,075	31,782
本市の割合	23.3%	24.0%	22.3%	20.4%

【平成 21 年度人口 1 人当たり積立金現在高】

	積立金現在高(単位:千円)
島原市	132.1
雲仙市	275.9
南島原市	222.1

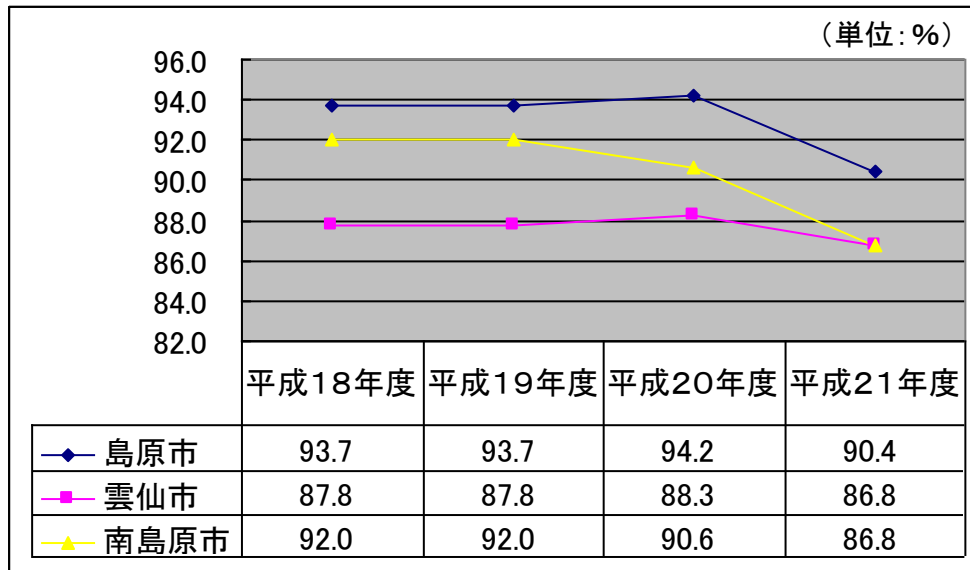
(3) 各種指数

① 財政力指数



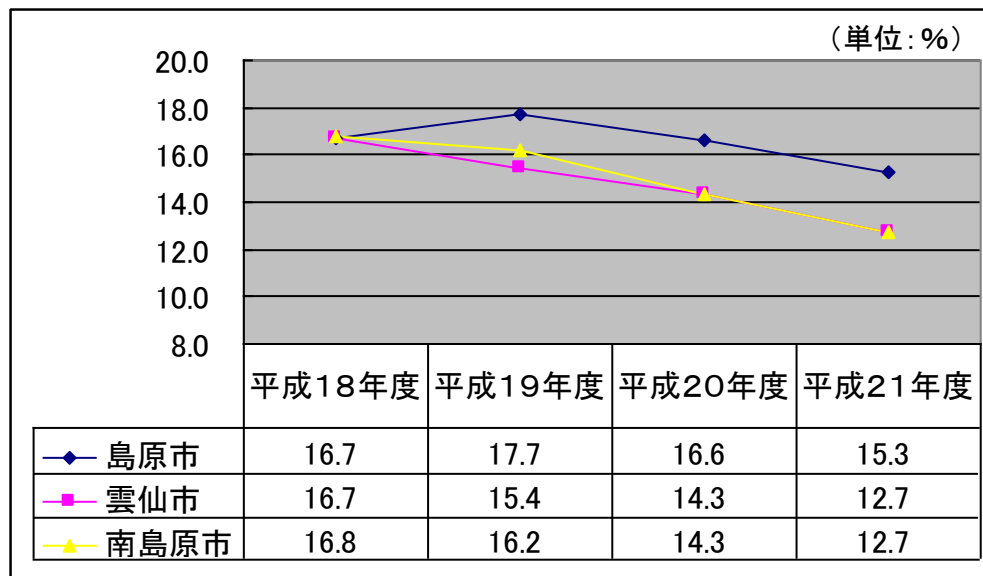
財政力指数とは、自主財源の割合が高いほど高くなるもので、財政力の強い団体となる。

② 経常収支比率



経常収支比率とは、地方公共団体の財政構造の弾力性を判断するための指標であり、比率が高くなると弾力性を失いつつある状態となる。

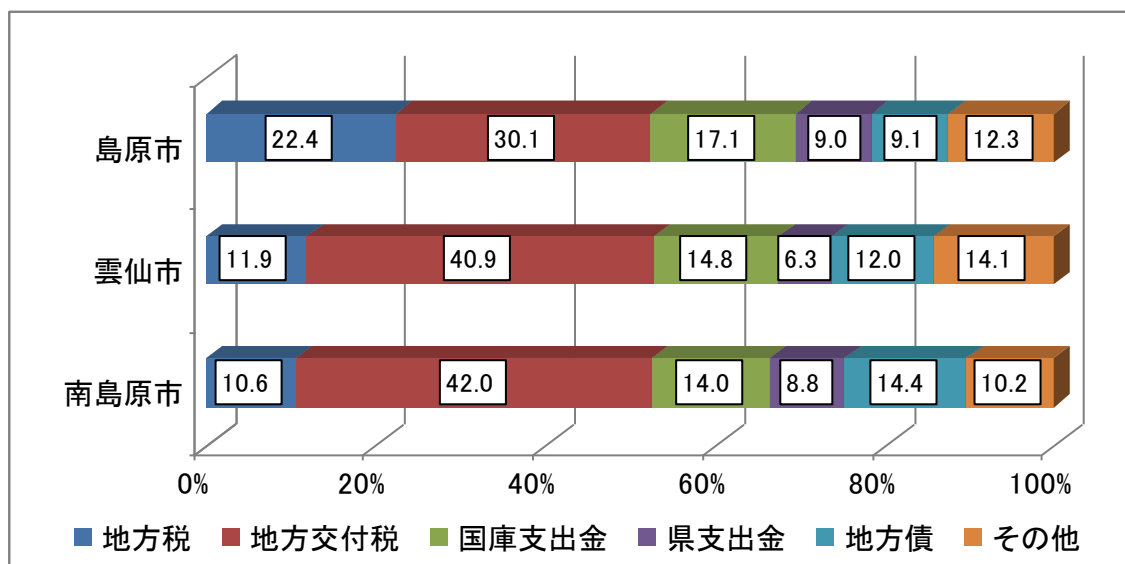
③ 公債費比率



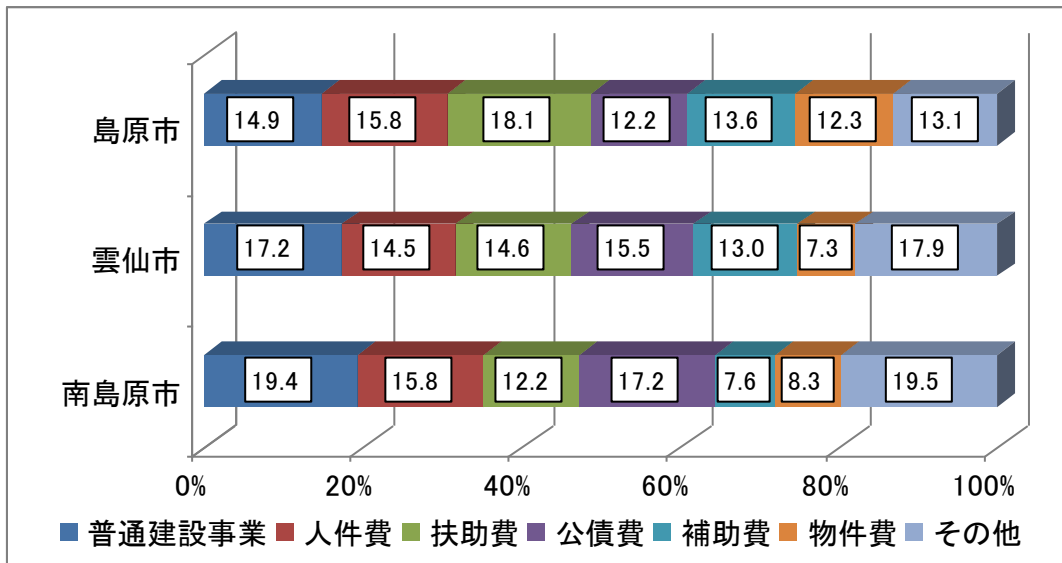
公債費比率とは、地方公共団体の財政構造の硬直化を判断する指数で、その率が高いほど財政運営の硬直化を示している。

(4) 平成21年度決算内訳の比較

① 歳入決算



② 歳出決算



9. 市政の状況

(1) 国、県の指定状況

① 雲仙天草国立公園（自然公園）「※県ホームページ 長崎県の自然公園」

昭和9年3月16日に国立公園に指定された。雲仙地域については雲仙火山のほぼ全域を含む我が国屈指の火山景観を中心とした我が国最初の国立公園である。

面積 12,858ヘクタール（海域を除く）

② 島原半島県立公園（自然公園）「※県ホームページ 長崎県の自然公園」

昭和45年1月20日に県立自然公園に指定された。島原半島周辺の変化に富んだ海岸線と、雲仙天草国立公園の周縁部及び史跡を中心とし、千々石断層や愛野地峡の雄大な景観、雲仙火山の関係する溶岩円頂の猿葉山、眉山崩壊によってできた九十九島、火山性山麓扇状地の礫石原、百花台等の特徴的な景観が見られる。

面積 1,835ヘクタール（海域を除く）

③ 雲仙天草観光圏

「観光圏」とは、複数の観光地が連携して2泊3日以上滞在型観光を目指す圏域を形成し、国際競争力の高い魅力ある観光地を形成することを狙いとした、観光庁の事業。

島原半島3市（島原市、雲仙市、南島原市）と天草地域3市1町（天草市、上天草市、宇城市、苓北町）の6市1町で構成。

(2) 今後予定されている大型事業

① ジオパーク国際ユネスコ会議

島原半島ジオパークが、平成21年8月22日に世界ジオパークへ認定された。

平成24年5月には、ジオパーク国際ユネスコ会議が島原復興アリーナをメイン会場として開催されることに決定しており、日本では初めての開催となる。

② 全国和牛能力共進会

全国の優秀な和牛を5年に1度、一堂に集めて優劣を競う大会であり、雄牛・雌牛の和牛改良の成果を競う「種牛の部」と肉質を競う「肉牛の部」に各道府県から選抜された約500頭が出品される。

平成24年10月には、第10回大会がハウステンボスと島原復興アリーナで開催される。

③ 長崎がんばらんば国体

会期は、平成23年度に決定。案として、平成26年10月12日（日）～22日（水）又は平成26年10月11日（土）～21日（火）

競技・・・サッカー（成年男子・女子）、バレーボール（少年男子）

レスリング（全種別）、弓道（全種別）

④ インターハイ

平成25年8月に開催される平成25年度全国高等学校総合体育大会（九州北部ブロック開催）にて、レスリング競技を開催予定。

⑤ 全国高等学校総合文化祭

長崎県で平成25年7～8月にかけて開催。詳細未定。

10. 我が町自慢

(1) 島原市の日本一、日本初など全国ランクで上位に該当するもの

① 白土湖

日本で一番小さい陥没湖

② 平成新山

日本で一番新しい山

③ 舞岳ふれあいロード

八八八八の階段は日本一

④ 水無川治山事業

全国初の無人化機械施工

⑤ ジオパーク国際ユネスコ会議

平成24年に島原半島で開催され、日本では初めての開催となる。

⑥ 火山都市国際会議

アジア（日本）で初めての開催

⑦ 島原半島ジオパーク

「日本ジオパーク」国内認定第1号（平成20年10月）

「世界ジオパーク」国内認定第1号（平成21年8月）

⑧ 雲仙天草国立公園（自然公園）

日本で最初に指定された国立公園（昭和9年）

⑨ 自衛隊災害派遣日数（雲仙普賢岳噴火災害時）

1,658日（平成3年6月3日から平成7年12月16日まで）は災害派遣として過去最長。

※第2位は、阪神淡路大震災の101日

⑩ だいこんの年間産出額（平成18年度）

年間産出額 142千万円は全国で第4位

⑪ はくさいの年間産出額（平成18年度）

年間産出額 76千万円は全国で第8位

⑫ にんじんの年間産出額（平成18年度）

年間産出額 117千万円は全国で第9位

(2) 島原市の長崎県一、長崎県初など県ランクで上位に該当するもの

① 市制

長崎県内では市制施行3番目

昭和15年4月、長崎県下で3番目に市制を施行。昭和30年には三会村と、平成18年1月1日には有明町と合併して現在に至る。

② 水道料金

長崎県内で一番安い水道料金（10立方メートル当たり比較）

③ 鶏卵年間産出額

年間産出額 279 千万円は県下で第1位

④ 島原市島原湊

坂本龍馬長崎初上陸地

⑤ 豚の年間産出額

年間産出額 239 千万円は県下で第2位

(3) その他

① 島原新聞

全国でも2、3紙しかない100年以上続いている地方紙で、前身は明治32年、「開国新聞」という名で月3回発行され、戦時中は言論統制により「長崎日報」に統合されましたが、昭和21年12月、再び「島原新聞」として復刊された。

島原新聞は100年余り、地元に着した紙面作りに徹し、島原地方の政治・経済・文化などが多く記載されており、近現代史料の宝庫となっている。